

# 地域産業委員会 案件一覧

(令和7年3月6日開催分)

## ○基本計画・実施計画（案）の作成について 1件

部局	報告順	件名	資料番号	説明者（所管課長名等）
各部共通	1	大田区基本計画・実施計画（案）及び大田区基本計画・実施計画（素案）に係る区民意見公募手続（パブリックコメント）の実施結果について	1	大淵 地域力推進課長 千葉 スポーツ推進課長 石川 産業振興課長

## ○所管事務報告 4件

部局	報告順	件名	資料番号	説明者（所管課長名等）
地域推進部	1	大田区伊豆高原学園の利用料金変更について	18	大淵 地域力推進部副参事（計画調整担当）
	2	次期「大田区子ども・若者計画」策定に向けた区民意向調査及び子ども・若者意見交換会実施の結果について	19	竹田 青少年健全育成担当課長
国際文化・スポーツ都市部	3	文化講演会の実施報告について	32	阿部 文化振興課長
産業経済部	4	「Meet New Solution in OTA 2025」の開催結果について	21	高野 工業振興担当課長

## 大田区伊豆高原学園の利用料金変更について

大田区伊豆高原学園の運営にあたって、昨今の社会経済情勢の変化による物価上昇等の影響がある中で、受益者負担の適正化により現行のサービスを維持するため、利用料金を令和8年4月から以下のとおり変更する。

### 1 利用料金・食事料金

項目	現状の 料金	変更後の 料金	備考
洋室	6,000 円	7,200 円	1 室あたり
バリアフリー室	6,000 円	7,500 円	1 室あたり
和室	10,000 円	12,000 円	1 室あたり
和室超過料金	1,600 円	1,700 円	1 人あたり※1
区民外料金	1,050 円	1,300 円	1 人あたり※2
調理実習室	530 円	600 円	1 室 1 時間あたり
工作体験室	530 円	600 円	1 室 1 時間あたり
多目的室 1	530 円	600 円	1 室 1 時間あたり
多目的室 2	530 円	600 円	1 室 1 時間あたり
多目的スペース	1,050 円	1,100 円	1 室 1 時間あたり
飯ごう炊さん場	530 円	600 円	1 基 1 時間あたり
体育室	840 円	1,000 円	1 室 1 時間あたり
スポーツ広場	840 円	1,000 円	1 回 1 時間あたり

※1 和室で6名を超える人数で宿泊する場合において、その超過人数1名当たりに対し徴収する料金

※2 区民外の方が施設に宿泊する場合において、1名当たりに対し徴収する料金

## 2 変更日

令和8年4月1日以降の宿泊分及び利用分から

## 3 利用者への周知等

料金変更について、以下のとおり区民へ周知を行う。

(1) 大田区ホームページ

(2) 伊豆高原学園ホームページ

(3) 保養施設案内パンフレットの配布

(4) 宿泊予約者へ新しい料金の案内を送付（4月以降随時）

} 3月下旬から対応予定

## 次期「大田区子ども・若者計画」策定に向けた区民意向調査及び 子ども・若者意見交換会実施の結果について

### 1 次期「大田区子ども・若者計画」策定に向けた区民意向調査結果について

#### (1) 実施概要

調査方法：郵送による配布、郵送及びWEBによる回収

調査期間：郵送 令和6年11月1日（金）から11月20日（水）まで

WEB 令和6年11月1日（金）から11月24日（日）まで

調査対象：大田区在住の15歳から39歳の男女 3,000人（無作為抽出）

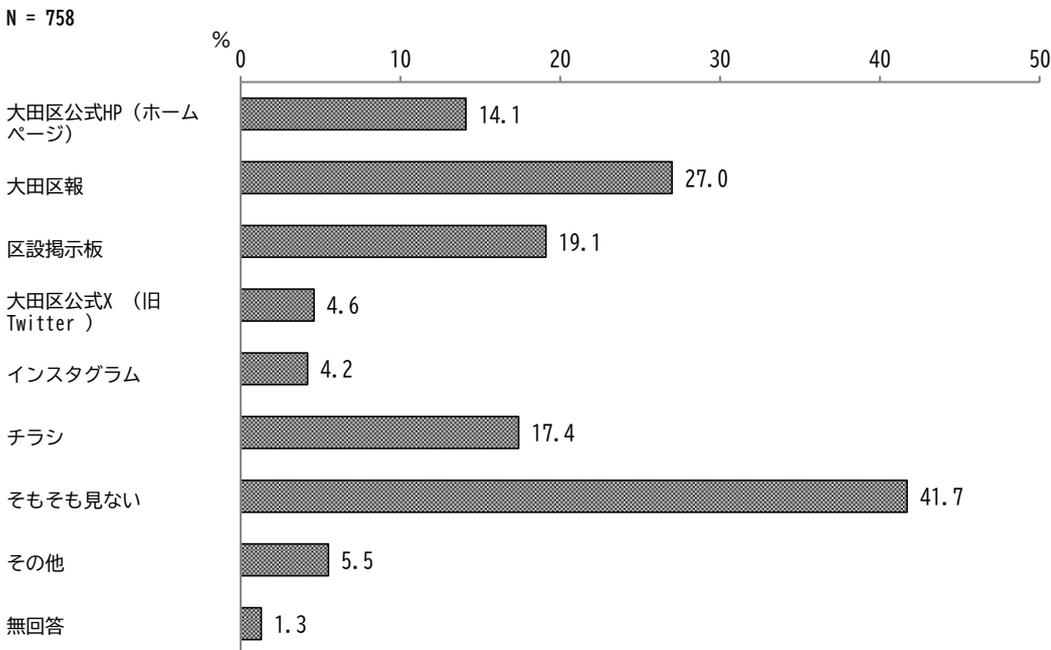
回答数：758件（郵送回答：205件、WEB回答数：553件）

回収率：25.3%

#### (2) 主な結果

##### ① 情報収集、情報把握

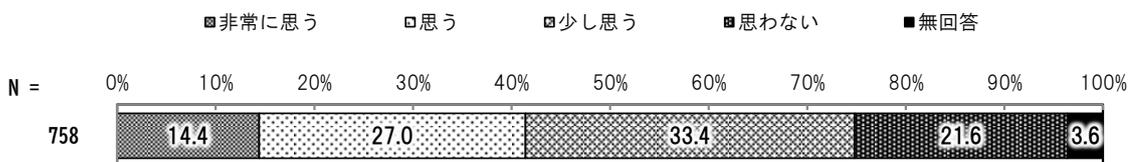
- ・あなたは区からの情報や地域でのイベント等行政情報をどのような手段で見えていますか。（複数回答）



「そもそも見ない」が最も多く41.7%、次いで「大田区報」が27.0%であった。

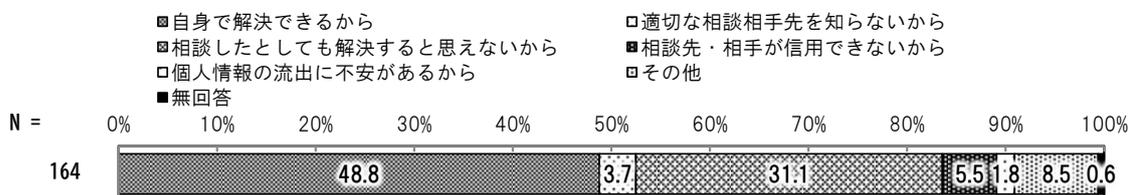
② 悩みや相談ごとについて

- ②-A: あなたは、悩み事を誰かに相談したいと思いますか。



「少し思う」が最も高く 33.4%、次いで「思う」が 27.0%であった。

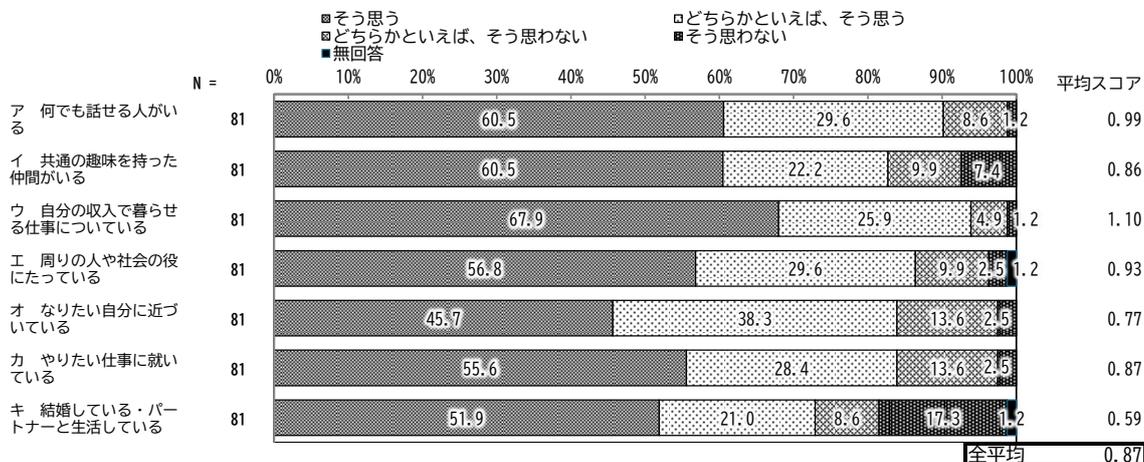
- ②-B: ②-Aで悩み事を誰かに相談したいと「思わない」を選択した理由についてもっとも近いものはなんですか。



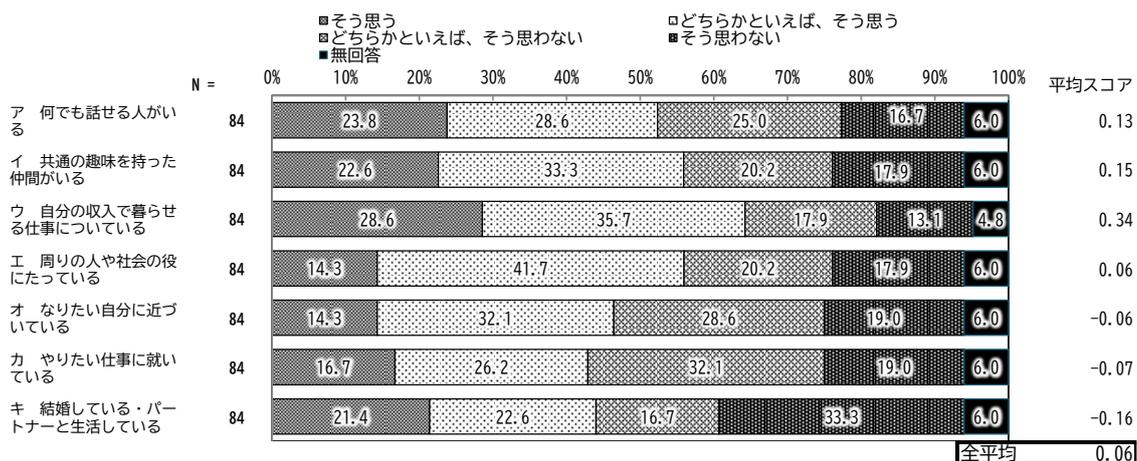
多い順に「自身で解決できるから (48.8%)」、「相談したとしても解決すると思えないから (31.1%)」、「その他 (8.5%)」、「相談先・相手が信用できないから (5.5%)」、「適切な相談相手先を知らないから (3.7%)」、「個人情報の流出に不安があるから (1.8%)」、「無回答 (0.6%)」であった。

- ②-C: ②-Bで悩み事を誰かに相談したいと「思わない」と回答した方の将来像

「思わない (理由: 自身で解決できるから)」を選択した方の将来像



## 「思わない（理由：その他）」を選択した方の将来像



②-Bで、悩み事を誰かに相談したいと「思わない」を選択した人のうち、その理由を「自身で解決できるから」と回答した方の将来像は、他の選択肢と比較して最も前向きであった。一方、その理由を「その他」と回答した方の将来像は他の選択肢に比較して最も後ろ向きであった。

## 2 こども・若者意見交換会実施結果について

### (1) フラットおおた利用者へのヒアリング

① 実施日時：令和6年12月4日（水）13時30分から15時まで

参加者：6名

場所：フラットおおた

② 主な意見

- ・若者の悩み相談窓口や自由に過ごせる場の整備
- ・文化・スポーツ活動について話せる場、活動を企画できる機会の確保
- ・様々な情報がほしい人に届く掲示の工夫

### (2) こども・若者意見交換会

① 実施日時：令和6年12月15日（日）14時から15時30分まで

参加者：6名

場所：消費者生活センター

② 主な意見

- ・地域でのつながりづくり、地域活動の場や居場所の充実
- ・若者の議論の場や区への提言機会の確保
- ・若者が住みやすいまちづくり、商業・娯楽施設等の設置
- ・若者向けの情報発信の充実
- ・区有施設の使いやすさの向上
- ・困難を抱える若者への就労、相談、金銭的な支援

### 3 今後の予定

- 令和7年3月 区民意向調査結果報告書作成  
区民への公表（区ホームページへの掲載、区政情報コーナーへの配架）
- 4月以降 区民意向調査結果等を踏まえ計画策定

# 区民意向調査結果 集計資料

## 1. 調査内容

### 調査目的

本調査は、「次期大田区子ども・若者計画」の策定にあたり、大田区のこども・若者の育成・支援施策に関する意識やニーズ等を把握することを目的として実施した。

### 調査期間と方法

調査期間：郵送 令和6年11月1日（金）～11月20日（水）投函締切

WEB 令和6年11月1日（金）～11月24日（日）

調査方法：郵送による配布、郵送およびWEBによる回収、お礼を兼ねた締め切りの再案内ハガキを送付

### 調査対象

令和6年10月の大田区の住民基本台帳に基づき、15歳～39歳の若者を無作為に抽出した。

対象	配布数	回答数	回収数		回収率
			郵送回答数	WEB回答数	
15歳～39歳	3000	758	205	553	25.3%

### 標本誤差

アンケートの標本誤差は、以下の式で求めることができ、比率算出の基数、回答の比率によって誤差範囲が異なる。回答比率は、ある設問の1つの選択肢に対して得られた回答者の割合である。（定数1,96は、信頼率95%と設定した場合の定数である。）

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

N：母集団数、n：サンプル数（有効回答数）、p：回答比率

この計算式に従って算出される本調査の標本誤差は以下のとおりとなる。

母集団	有効回答数	回答比率				
		90%または10%程度	80%または20%程度	70%または30%程度	60%または40%程度	50%程度
240,069	758	±2.13	±2.84	±3.26	±3.48	±3.55

※母集団は令和6年10月1日現在の大田区在住の15歳～39歳の人口である。

## 調査結果の見方

1. 本文、図表において、調査票の設問文や選択肢は簡略化して表記することがある。
2. 図・表中のN、調査数とは、調査の回答者の実数を表す。(無回答含む)
3. 回答はN(調査数)を100%とした百分率で算出し、小数点以下第2位を四捨五入しているため、各比率の合計値と全体の比率、図表の比率の合計値として記載した本文の比率と図表に記載された数値の合計が一致しないことがある。
4. 複数回答(あてはまるものすべてに○)の比率の合計は、100%にならず、超えることもある。
5. 程度を把握する設問については、例えば、「あてはまる」～「あてはまらない」(4件法)であれば、「あてはまる」を1.5、「どちらかといえばあてはまる」を0.5、「どちらかといえばあてはまらない」を-0.5、「あてはまらない」を-1.5として、その平均スコアを算出してグラフ右側に掲載した。また、複数の設問の平均値を全平均スコアとして算出している場合もある。

## 2. 一次集計結果

### 問 1-1 性別（単数回答）

男性 41.0%、女性 57.5%、その他 0.4%であった。

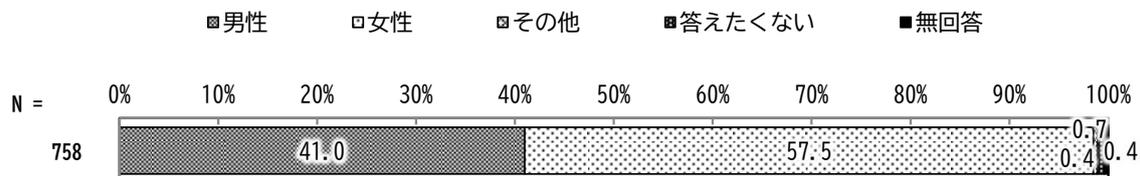


図 1-1

### 問 1-2 年齢（数字を記入）

回答者の年齢は下記の通り。年齢階層の比較をすると、回答者が一番多かったのは 30～35 歳で 25.3%、次いで 25～29 歳で 25.2%であった。回答者が一番少なかったのは 15～19 歳で 10.9%であった。

調査数	年齢												
	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳
758	18	15	18	14	18	20	25	28	20	37	47	42	36
100.0	2.4	2.0	2.4	1.8	2.4	2.6	3.3	3.7	2.6	4.9	6.2	5.5	4.7

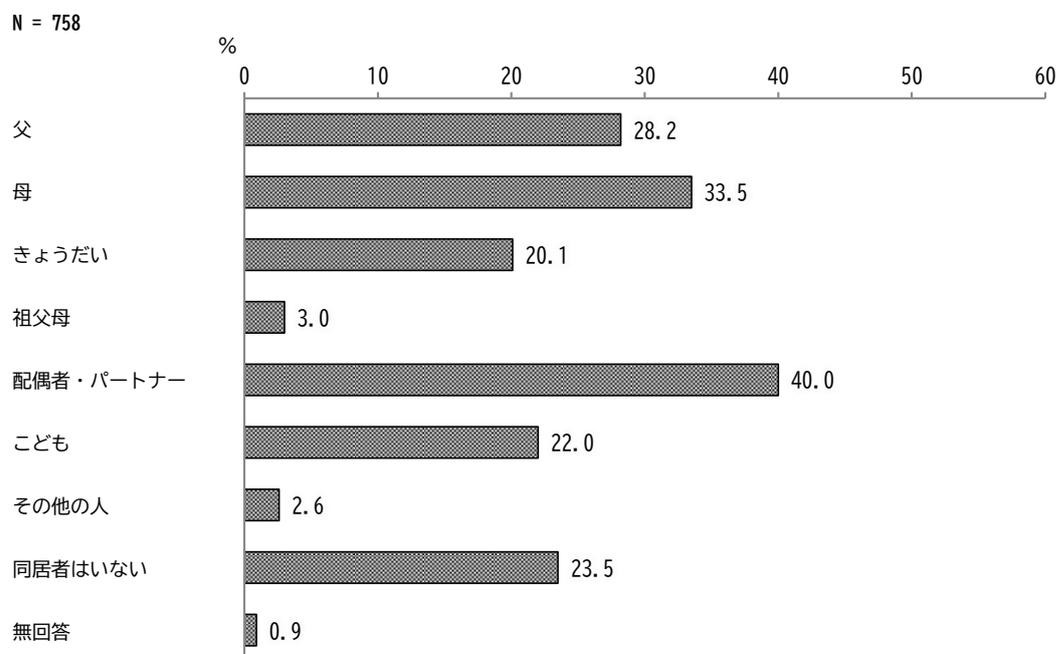
年齢													
28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	その他	無回答
34	32	40	42	41	27	42	32	25	39	30	23	1	12
4.5	4.2	5.3	5.5	5.4	3.6	5.5	4.2	3.3	5.1	4.0	3.0	0.1	1.6

調査数	年齢階層					
	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～35歳	35～39歳	その他・未記入
758	83	130	191	192	149	13
100.0	10.9	17.2	25.2	25.3	19.7	1.7

図表 1-2

問 1-3 同居している方（複数回答）

配偶者・パートナーと同居している人が40.0、次いで、母親が33.5%、父親が28.2%の順であった。ここから、家族構成を分析すると、単身家庭は23.5%、夫婦と子どもが22.0%、夫婦のみが18.3%、それ以外の家族（以下「親と同居」と示す）が35.2%であった。



調査数	家族構成				
	単身	夫婦と子ども	夫婦のみ	親と同居	未記入
758	178	167	139	267	7
100.0	23.5	22.0	18.3	35.2	0.9

図 1-3

問 1-4 あなたの現在の仕事・就学状況（単数回答）

勤めている（正社員）が63.1%と最も多く、次いで勤めている（契約社員又はパート、アルバイト）が9.9%、大学・短期大学生が8.2%、中高生が7.9%であった。

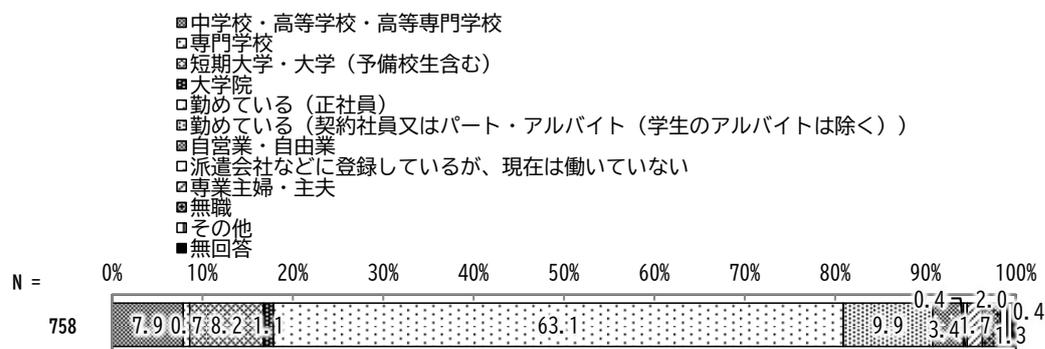


図 1-4

問 1-5 あなたの就業経験（単数回答）

「現在、就業している」が78.9%、次いで「これまで就業経験が無い」が9.1%であった。

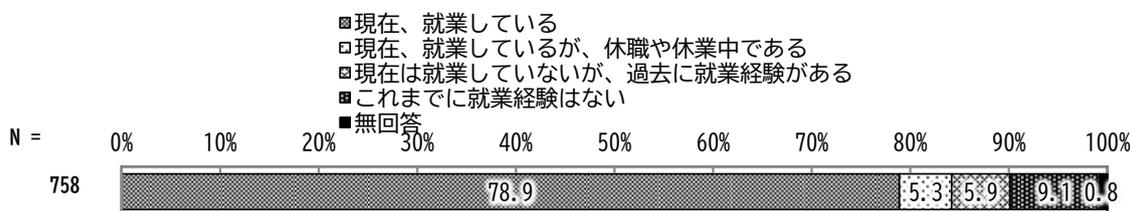


図 1-5

《中高生・学生を除く》

中高生・学生を除くと、「現在、就業している」が87.5%、次いで「現在、就業しているが、求職や休業中である」が6.1%であった。

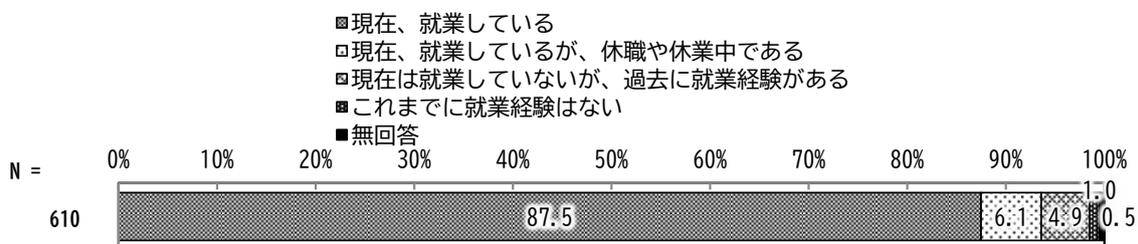


図 1-6

問 1-6 住んでいる地域（単数回答）

「大森地域」が41.2%、次いで「調布地域」が27.0%であった。

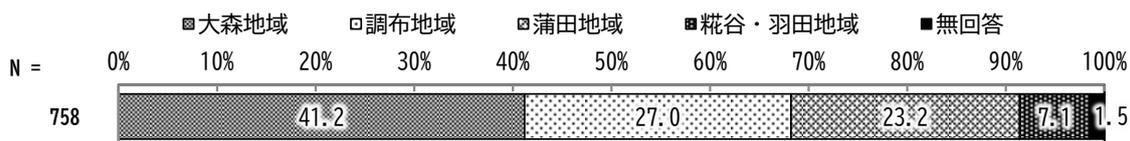


図 1-7

問 1-7 区の在住期間（単数回答）

「1年以上5年未満」が最も多く33.9%、「次いで生まれた時から住んでいる」が22.0%であった。

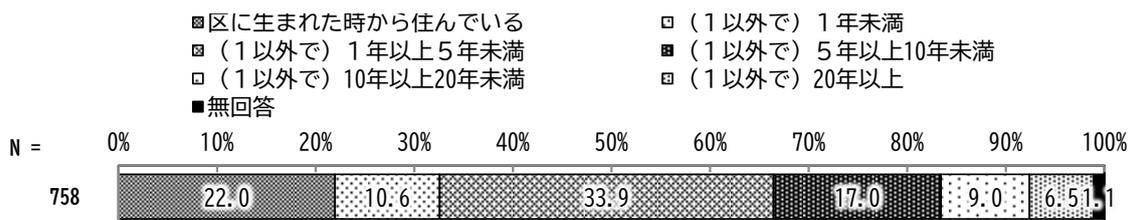


図 1-8

《在住期間と家族構成について》

在住期間が「1年未満」および「1年以上5年未満」では「単身」が最も多くなった。「夫婦と子ども」の世帯が最も多くなるのは「5年以上10年未満」となった。「親と同居」世帯は、10年以上～生まれた時から住んでいる家庭が多かった。

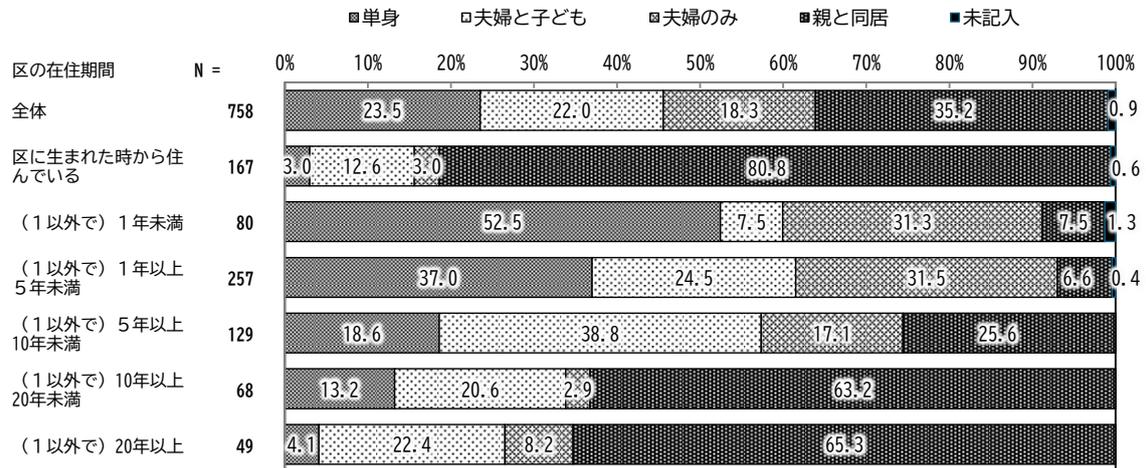


図 1-9

《在住期間と中高生・学生について》

中高生、および、学生は、「生まれた時から住んでいる」と「10年以上20年未満」の家庭の割合が多かった。

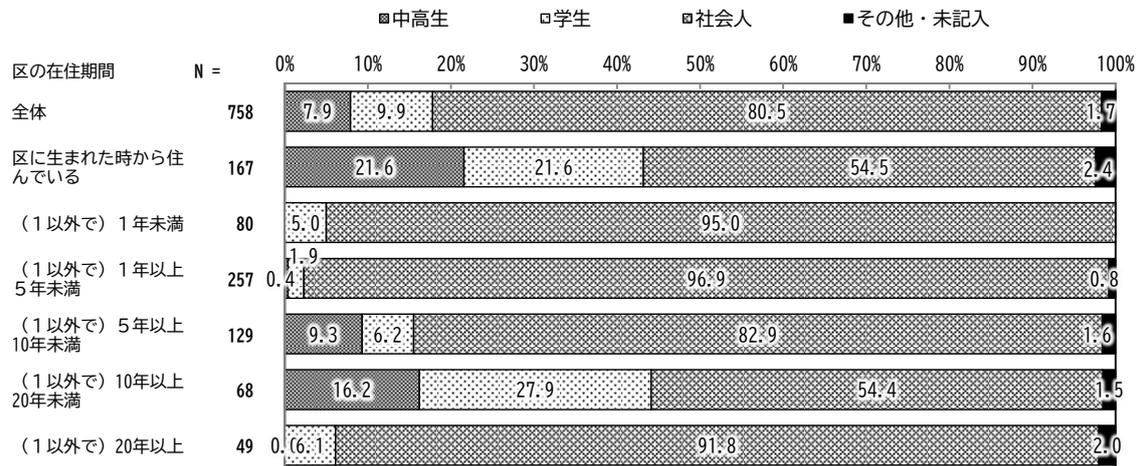


図 1-10

問2 (自己肯定感) あなた自身で次のことがどのくらいあてはまりますか (単数回答)

4段階評価とし、「あてはまる」=1.5点、「どちらかといえば、あてはまる」=0.5点、「どちらかといえば、あてはまらない」=-0.5点、「あてはまらない」=-1.5点とし、平均スコアを算出した。(問3以降も同じ4段階評価の計算を行っている)

平均スコアは「自分の親や家族から大切にされている」が最も高く1.12となった。次いで、「自分には長所があると感じている」が0.72となった。カの「自分は役に立たないと感じる」のみ否定的な設問となっており、マイナスの値となっている。

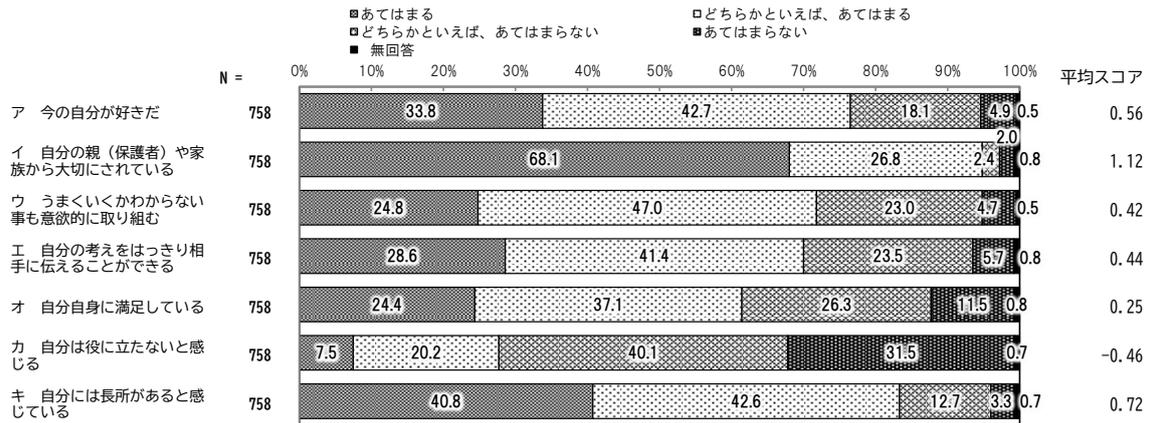


図 2-1

《年代別、世帯別の自己肯定感》

年代別、世帯別に全平均スコア(カについては負の値を正に変換)を比較すると、それほど差はないが、「15~19歳」では0.59と比較的高い値を示し、20歳代の平均スコアは0.49とやや低くなった。また、世帯別では「夫婦と子ども」世帯では平均スコアが0.65とやや高くなった。

① 15~19歳

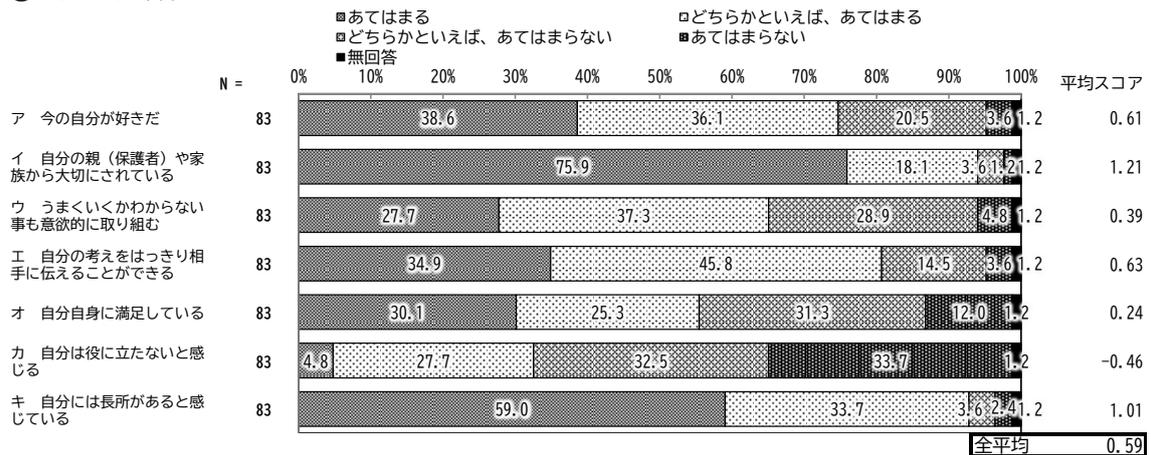


図 2-2

② 20～24 歳

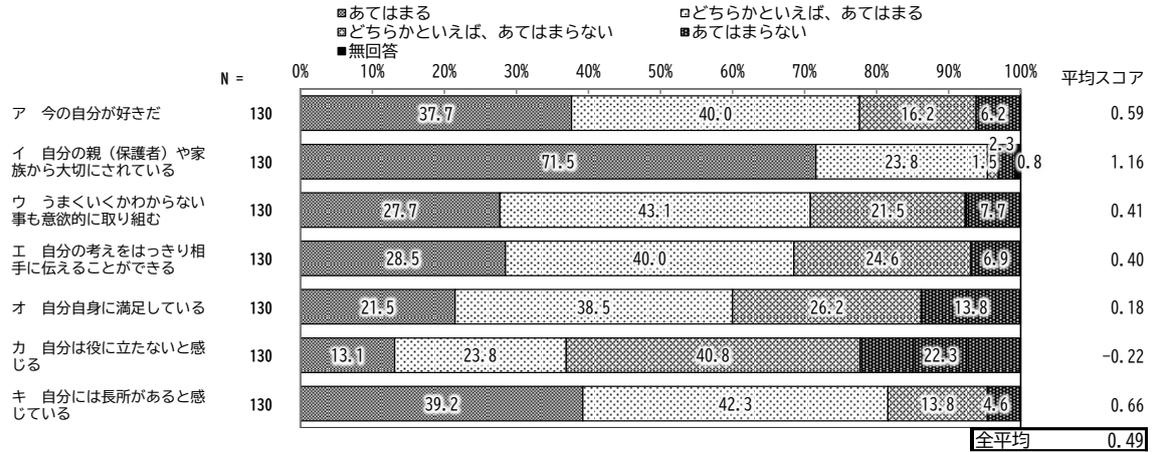


図 2-3

③ 25～29 歳

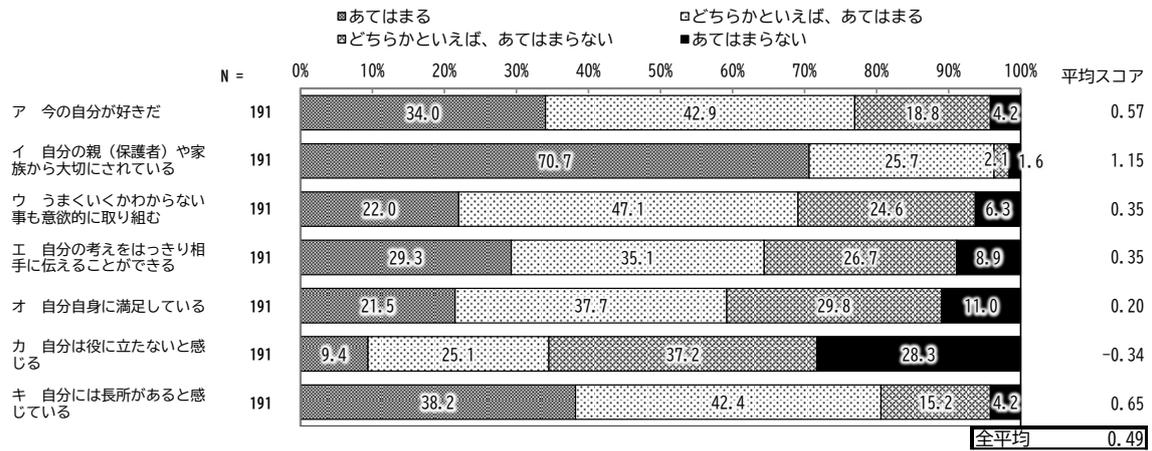


図 2-4

④ 30～34 歳

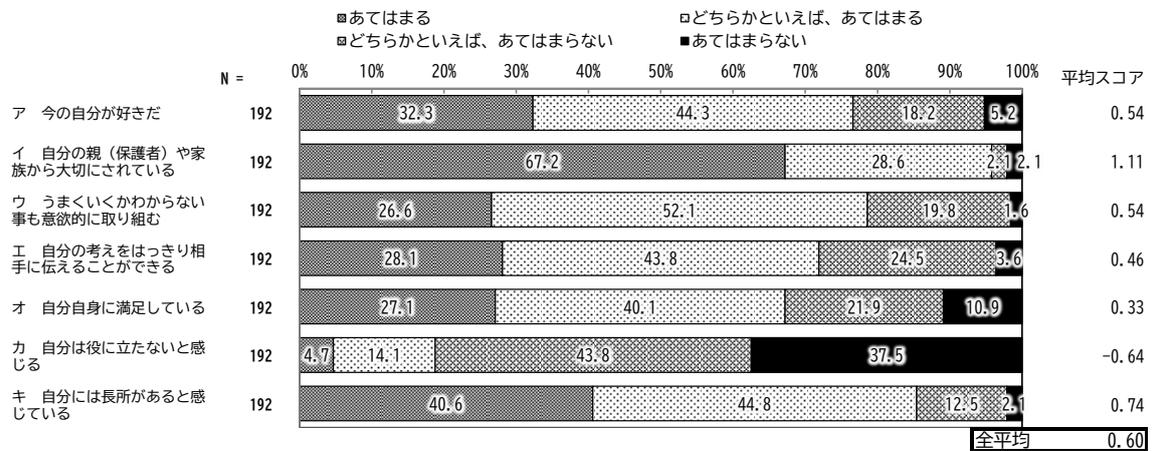


図 2-5

⑤ 35～39 歳

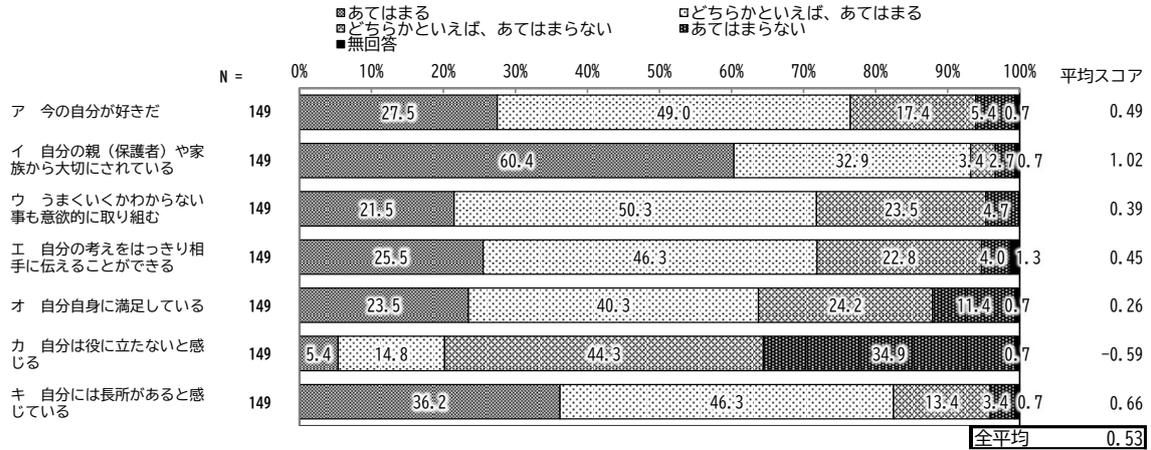


図 2-6

⑥ 単身

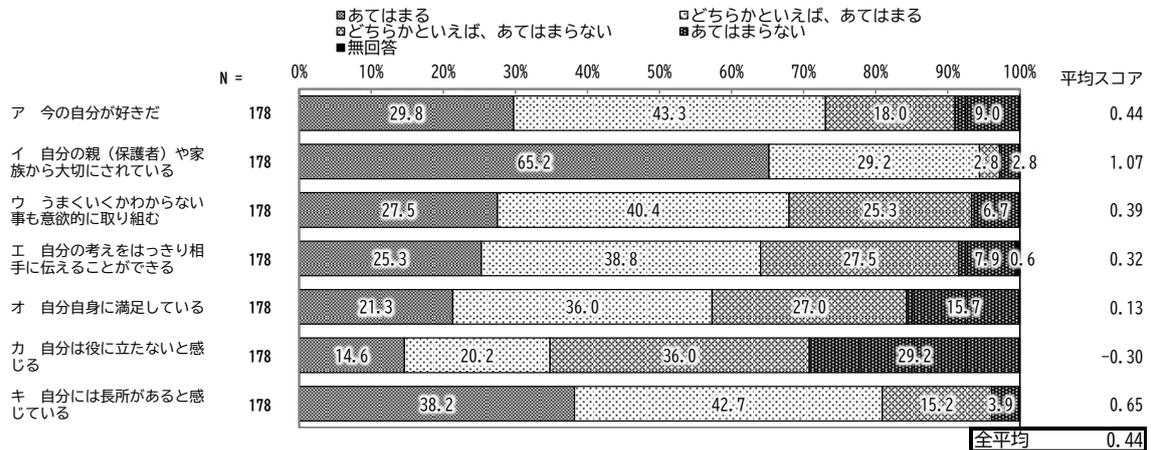


図 2-7

⑦ 夫婦と子ども

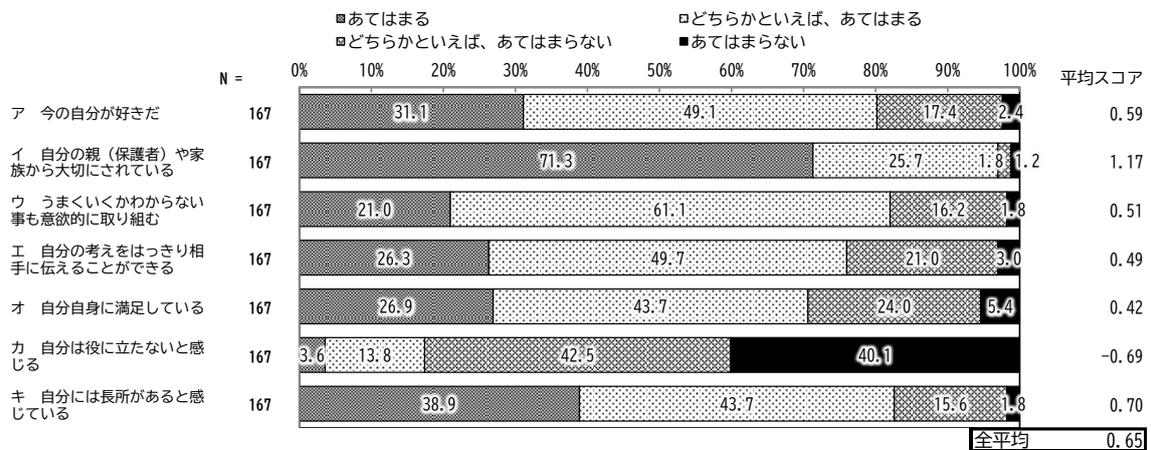


図 2-8

⑧ 夫婦のみ

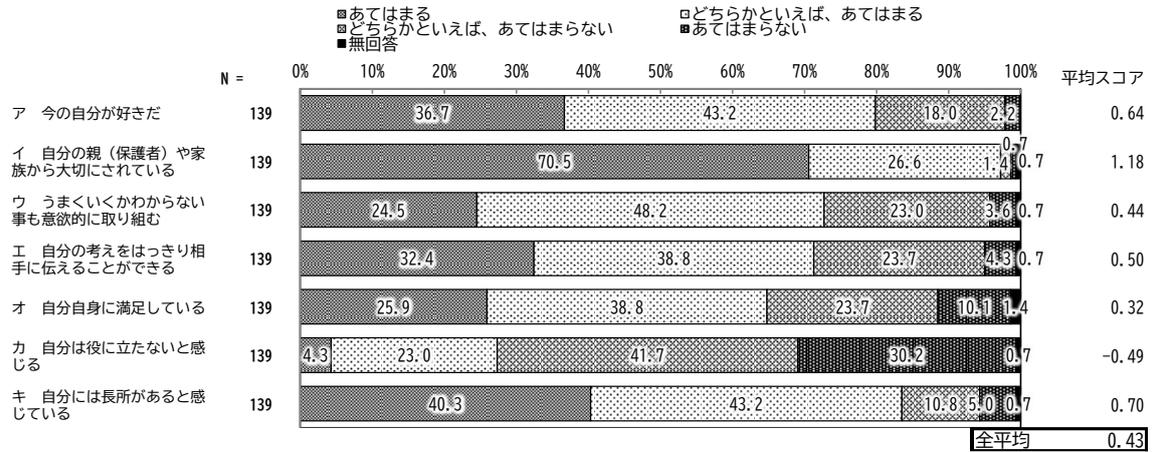


図 2-9

⑨ 親と同居

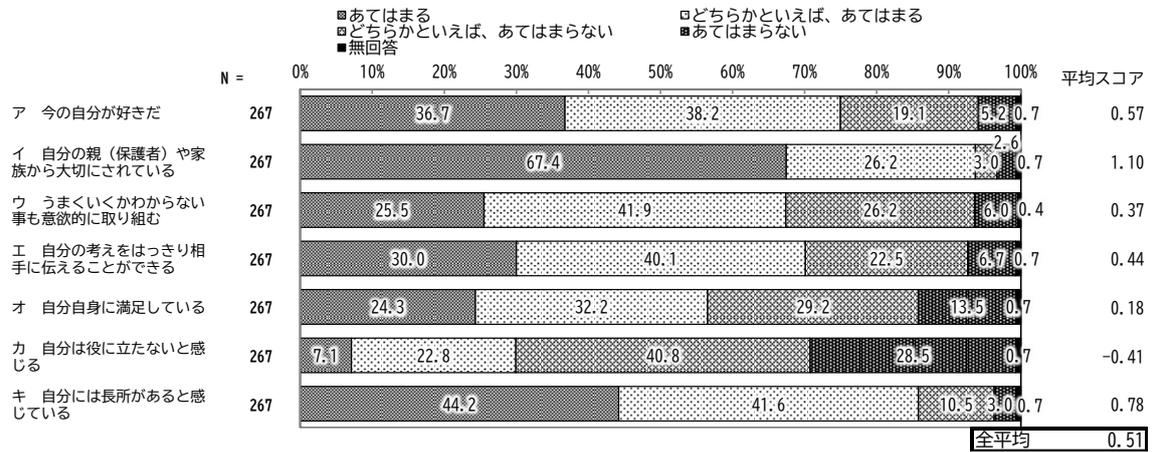


図 2-10

問3 次の場所は、今のあなたにとって居場所となっていますか（単数回答）

問2と同様、4段階評価の平均スコアを算出した。（「あてはまらない、わからない」「無回答」は計算から除外している。）「自分の部屋」の平均スコアが最も高く1.11となった。逆に「地域」が最も低く-0.05、次いで「職場」が-0.01となった。

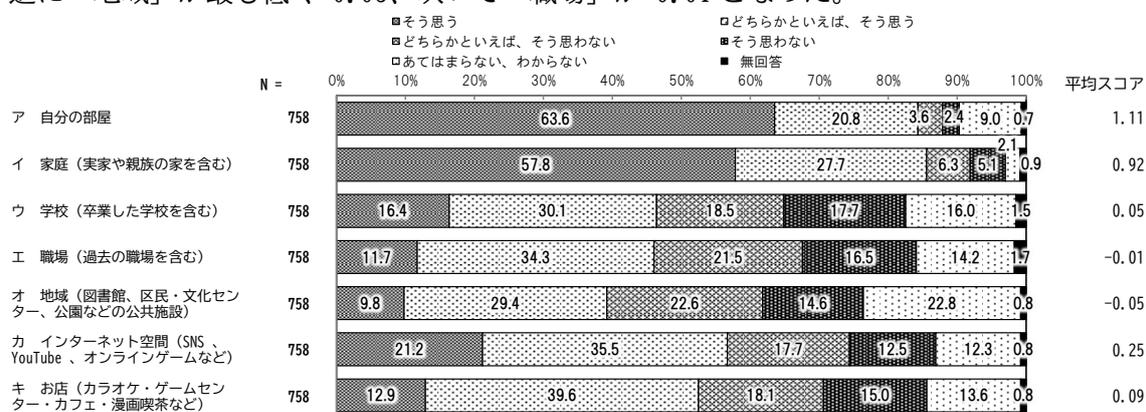


図 3-1

《年代別》

年代別で見ると、15～19歳では、「自分の部屋」、「家庭」、「学校」を居場所と考えている割合が高い。他の年代は、それほど大きな差は見られない。

① 15～19歳

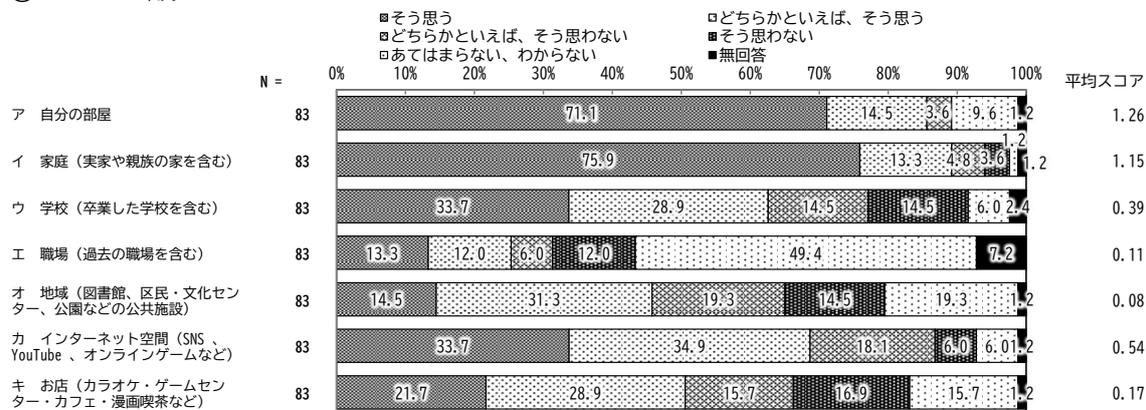


図 3-2

② 20～24 歳

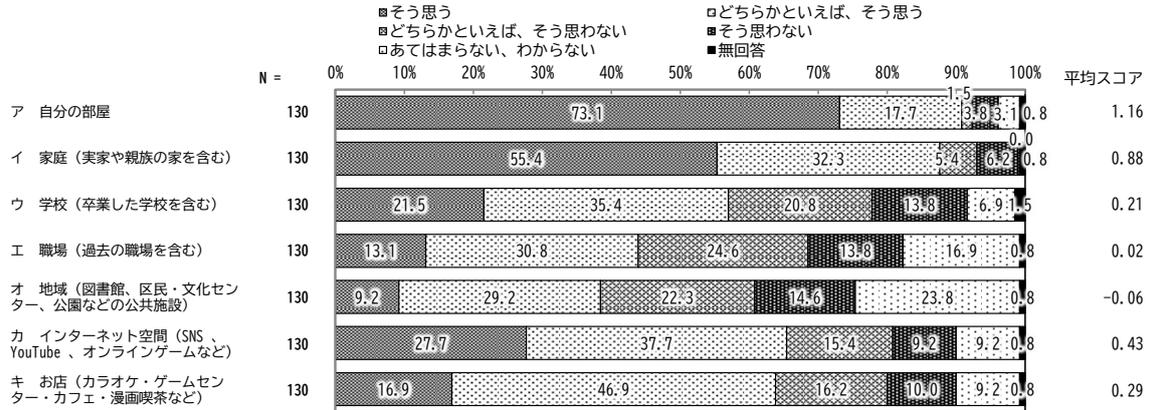


図 3-3

③ 25～29 歳

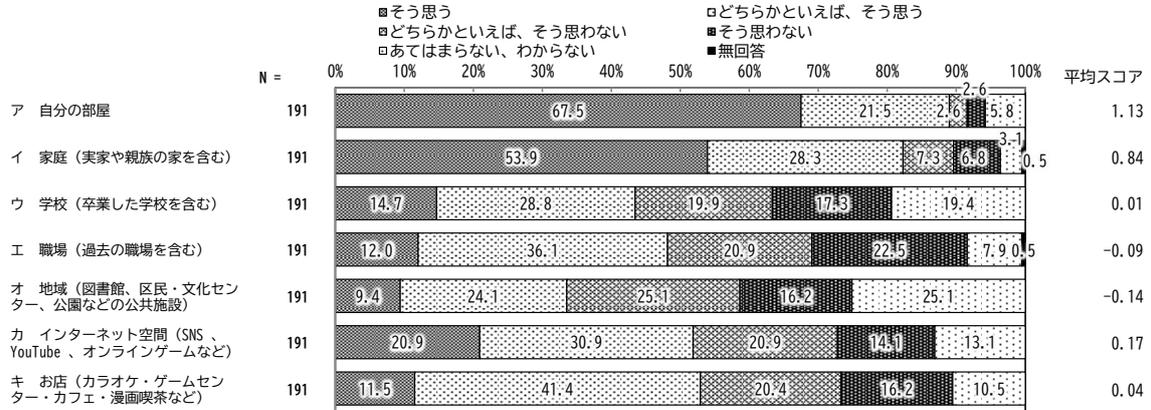


図 3-4

④ 30～34 歳

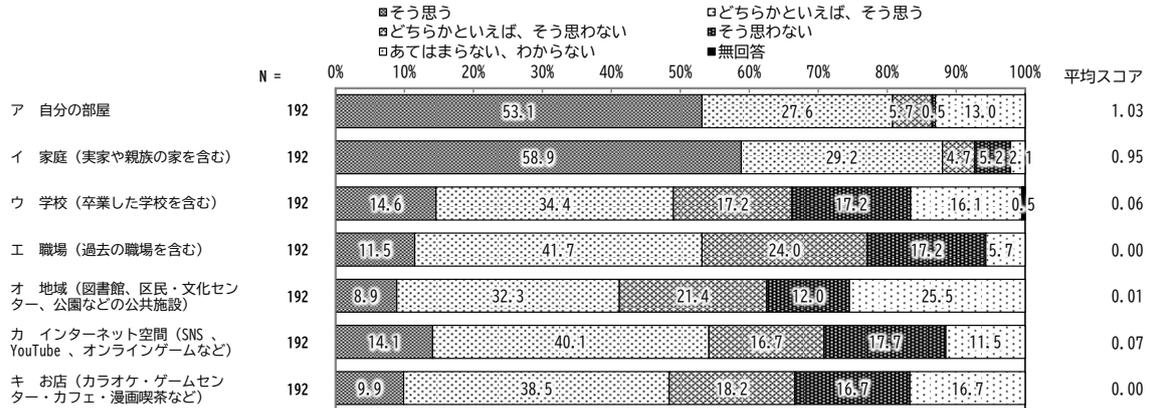


図 3-5

⑤ 35～39 歳

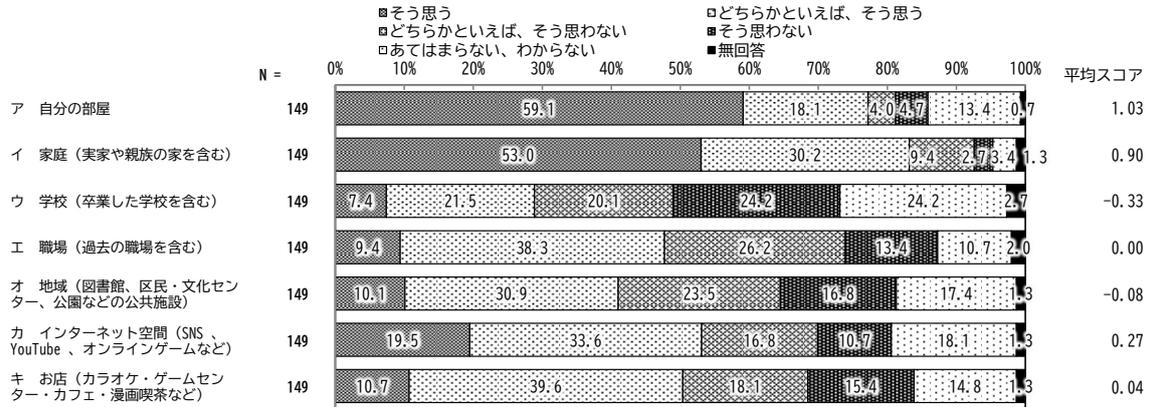


図 3-6

問 3-2 問 3 の選択肢以外で、あなたが居場所になっていると思うものがあれば、お書きください。

- 家族/恋人/友人/ペットと居る時間/空間 (113)
- 一人での時/空間 (11)
- 趣味 (14)
- 布団/ソファー/トイレ (9)
- 映画館/テーマパーク (9)
- 近くの場所 (商店街/遊歩道/神社仏閣/公園等) (9)
- 自然の中 (7)
- 飲食店 (7)
- いろいろなお店 (7)
- 車の中/電車の中 (5)
- 習い事 (4)
- 推し活 (4)
- 銭湯 (3)
- 部活動 (3)
- 静かな場所 (2)
- 仕事 (2)
- 旅 (2)
- 美味しいものを食べているとき
- 自分の国
- 国民の意見が反映された世の中
- 妄想の中
- 地元のイベント
- 個別オンライン授業
- 福祉施設
- 放課後ディサービス

問4 以下の人たちとあなたのかかわりはどのようなものですか（単数回答）

「一緒に住んでいる人、家族、親族」（以後「家族」と表記）、「学校で知り合った友人、職場アルバイト関係の人」（以後「学校・職場」と表記）、「地域の人」（以後「地域」と表記）、「インターネット上の人、グループ」（以後「インターネット」と表記）、「趣味や運動などで知り合った人」（以後「趣味」と表記）のかかわりは、「家族」の全平均スコアが0.93と最も高く、次いで「学校・職場」が0.52であった。一方、「地域」の全平均スコアが最も低く、-0.94であった。

① 一緒に住んでいる人、家族、親族

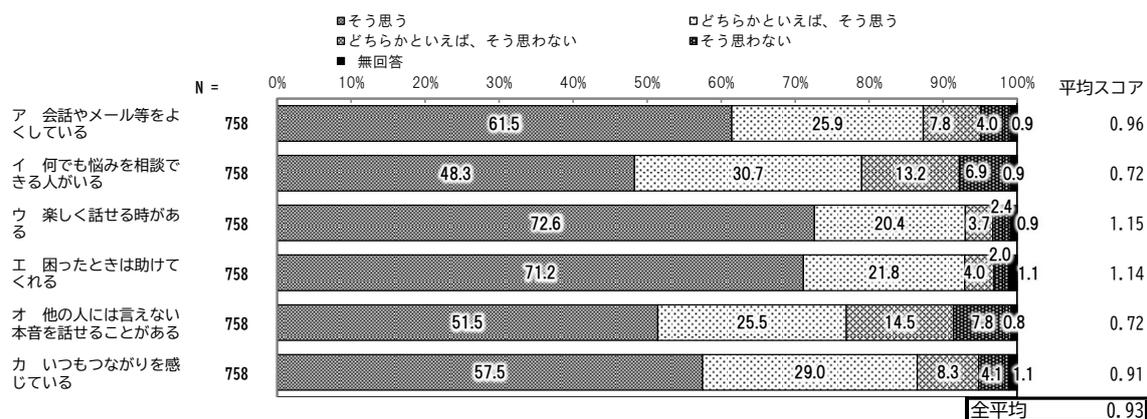


図 4-1

② 学校で知り合った友人、職場アルバイト関係の人

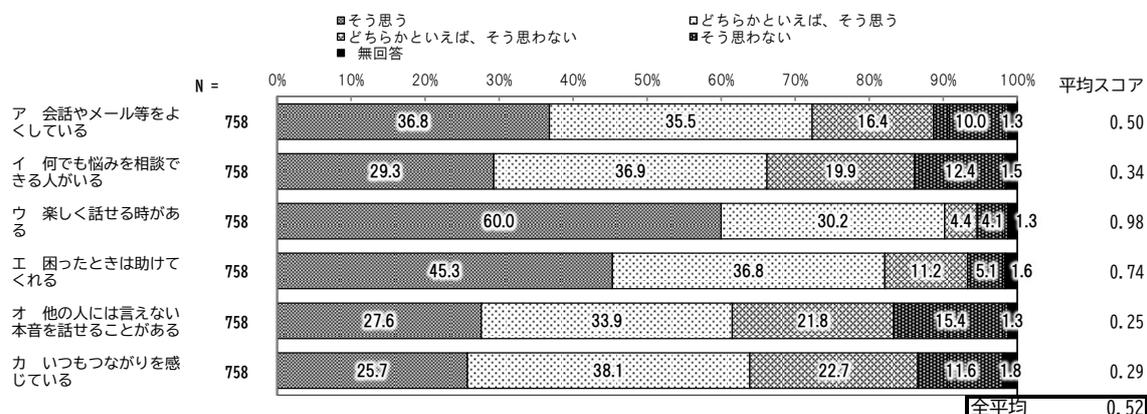


図 4-2

### ③ 地域の人

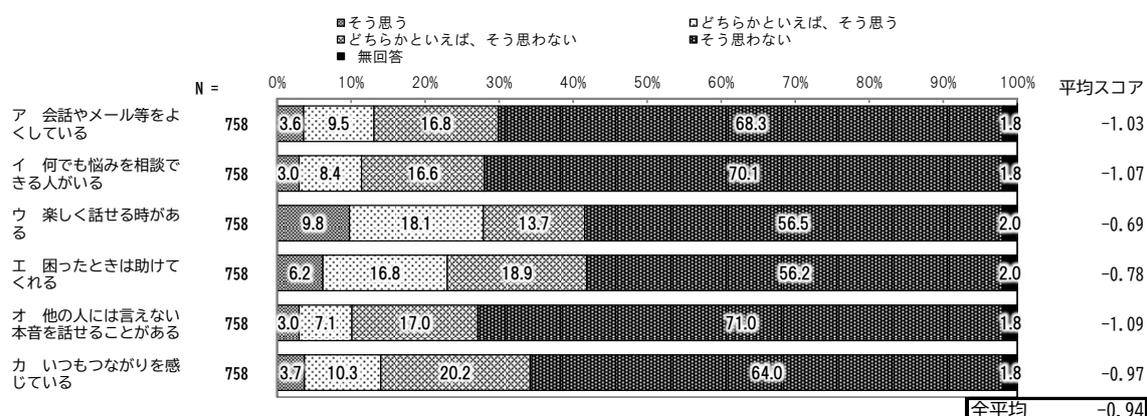


図 4-3

### ④ インターネット上の人、グループ

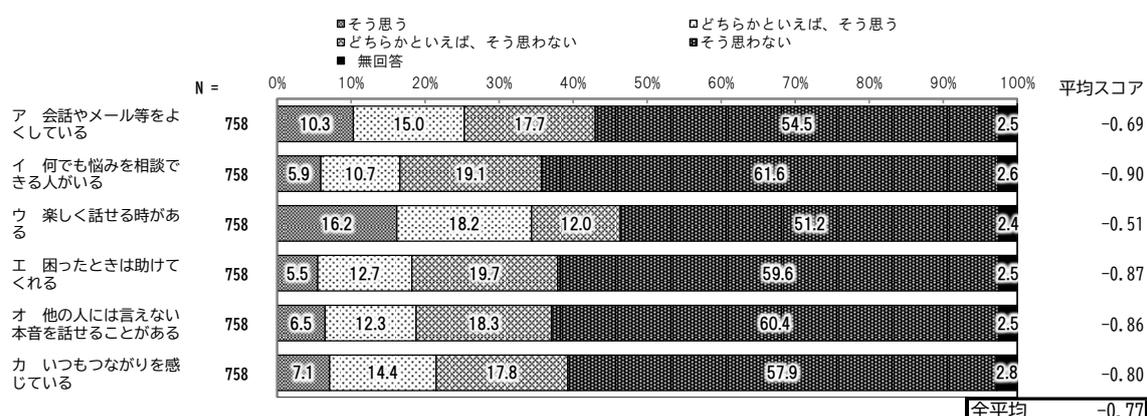


図 4-4

### ⑤ 趣味や運動などで知り合った人

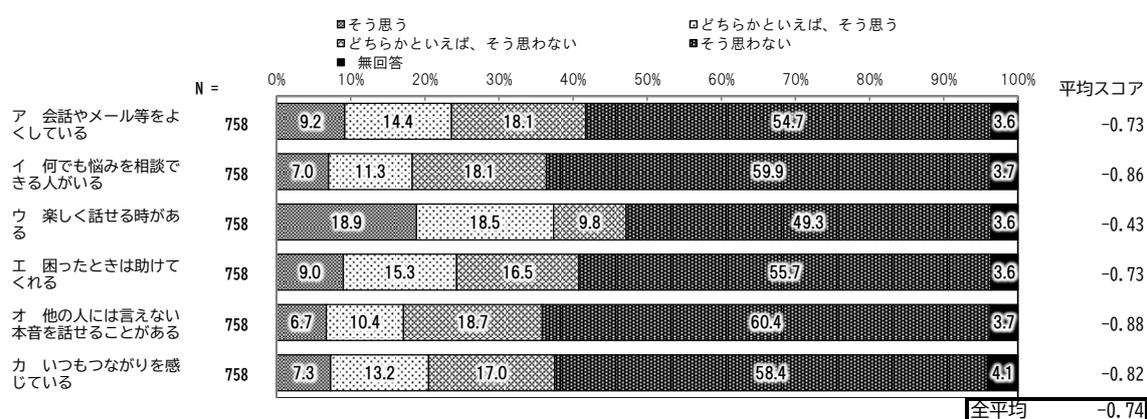


図 4-5

問5 授業や就業時間以外の時間でどんなことに時間を使っていますか（複数回答）

「スマホを利用（選択肢1～9以外のことで）」が最も高く68.9%、次いで「趣味・スポーツ」が52.2%であった。

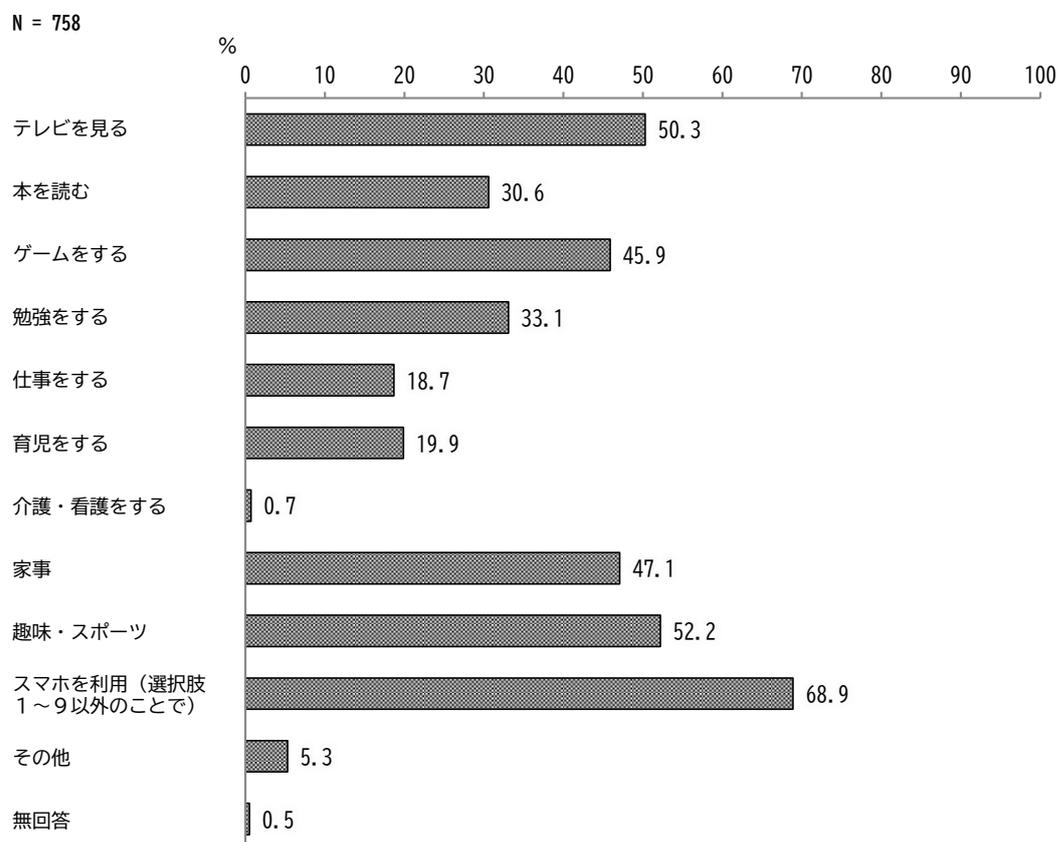


図 5-1

その他自由記述

- 家族/恋人/友人と会う (7)
- お出かけ (7)
- 寝る (6)
- ネット/SNS (5)
- ペットの世話 (4)
- 運動 (3)
- 何もしない (2)
- 教習所に通う
- これから始めようとしている事業の準備
- 考え事

《年代別の過ごし方》

若年層は「ゲーム」「勉強」「趣味」に使い、30歳代は「育児」「家事」を行っている。

N = 758

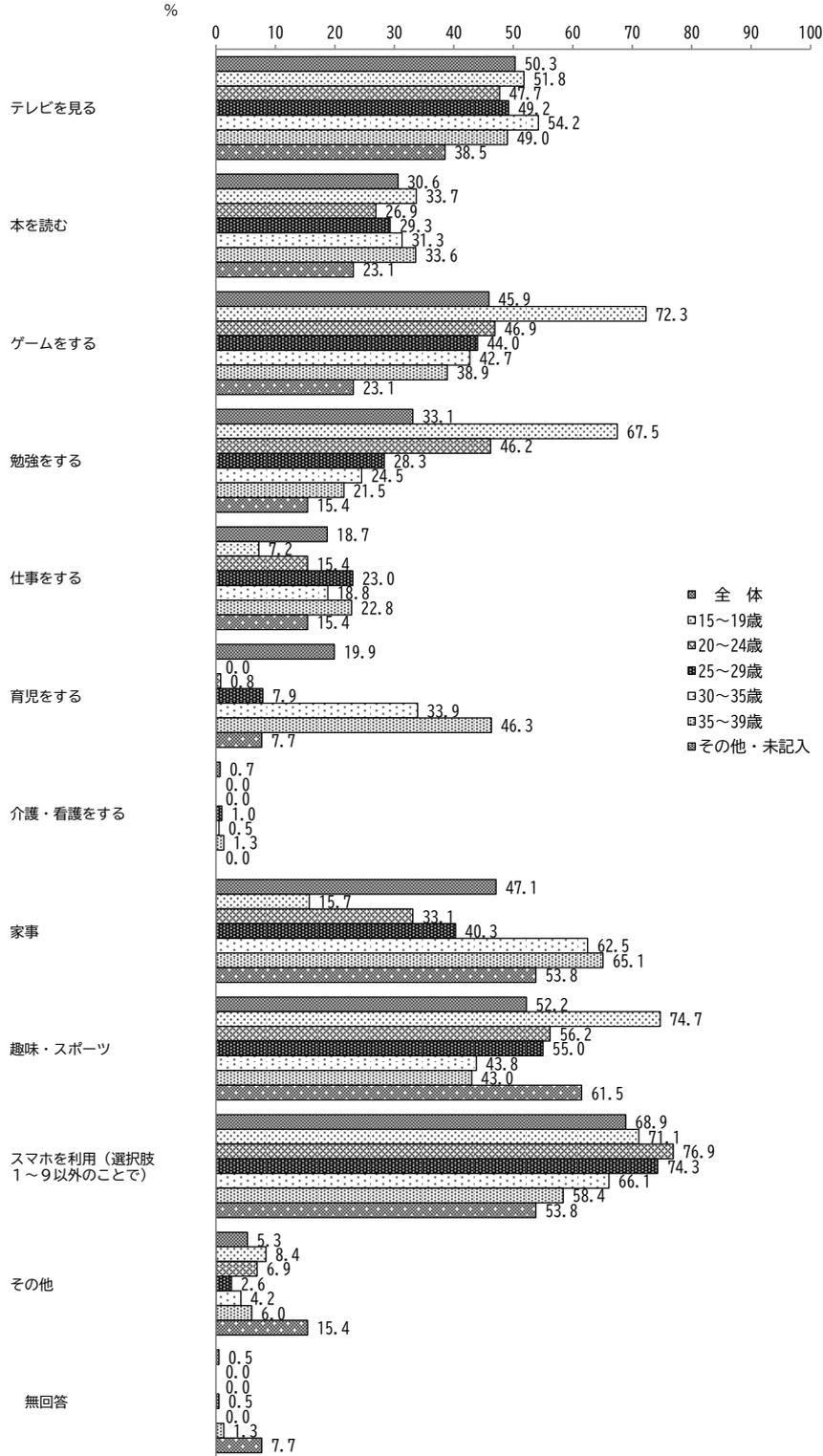


図 5-2

《家族別の過ごし方》

「子どもがいる」家庭は育児や家事に時間を費やしており、その他の時間が少なくなっている。

N = 758

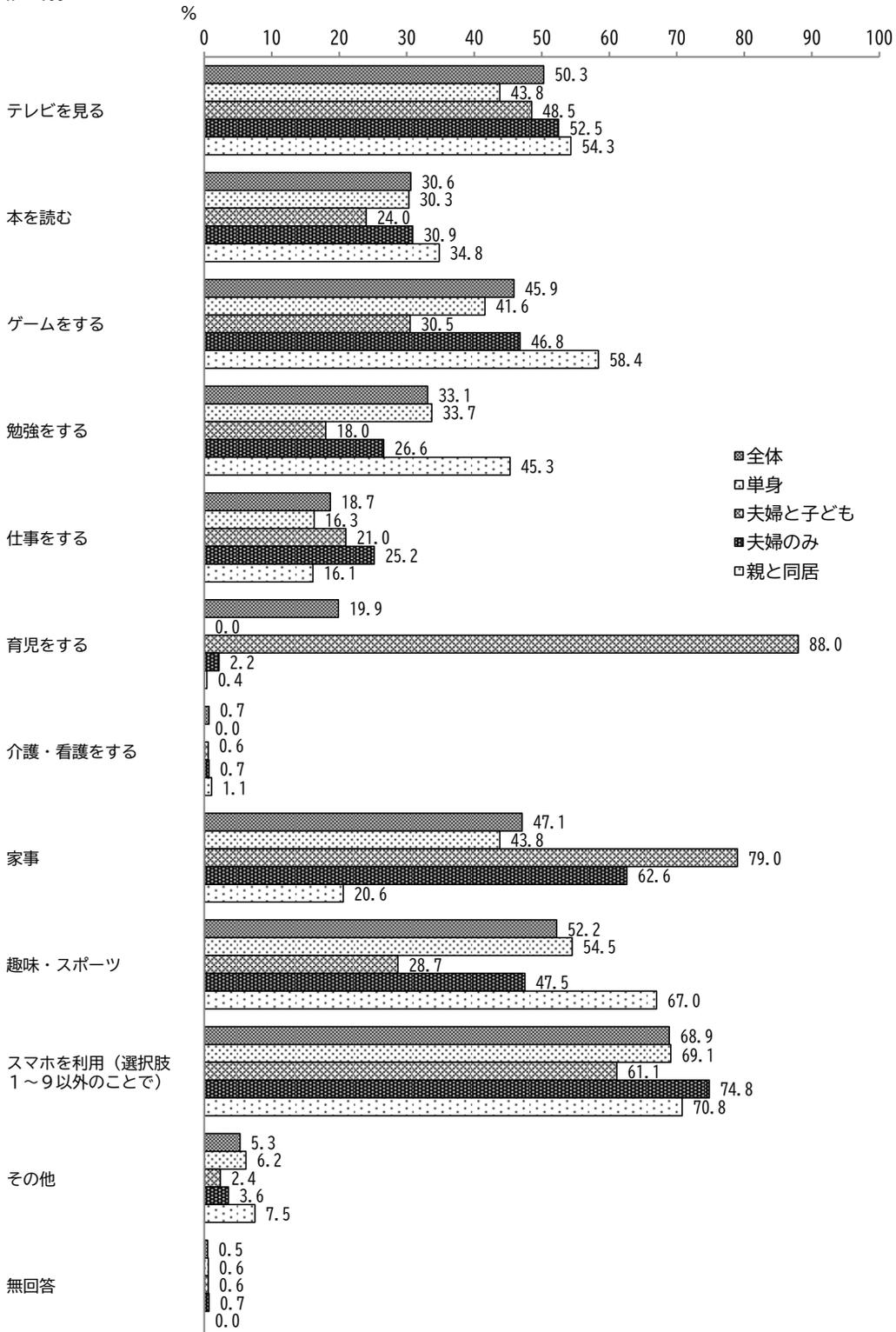


図 5-3

問6 あなたは普段どのくらい外出しますか。(単数回答)

「仕事や学校で平日は毎日、外に出かけている」が最も多く 66.8%、次いで「仕事や学校で週に3~4日、外に出かけている」が 18.5%であった。

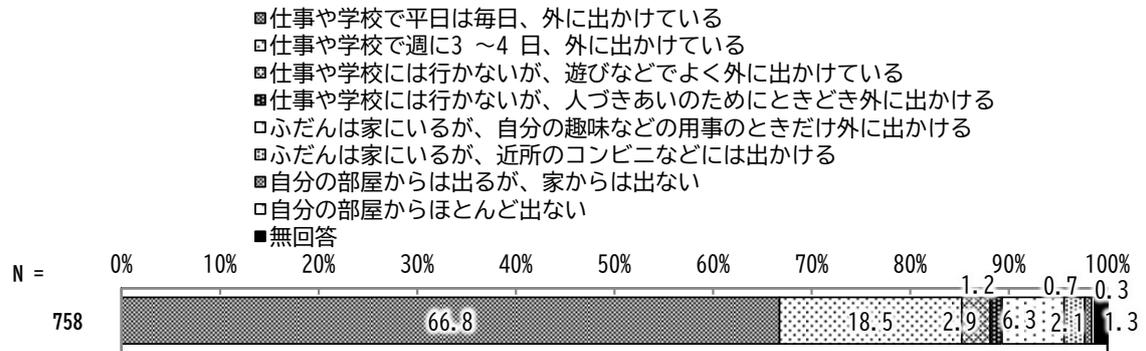


図 6-1

問7 あなたの外出状況が今のようになった主な理由は何ですか。(複数回答)

問6で選択肢5~8を選択したのは71人。うち、「家で仕事や家事などをしている」「妊娠した」「家族の看病やお世話をすることになった」をチェックした人、および、その他として記載されている理由として課題と考えられない人を除く、19名(2.5%)が、外出できない何らかの課題を持っていると考えられる。

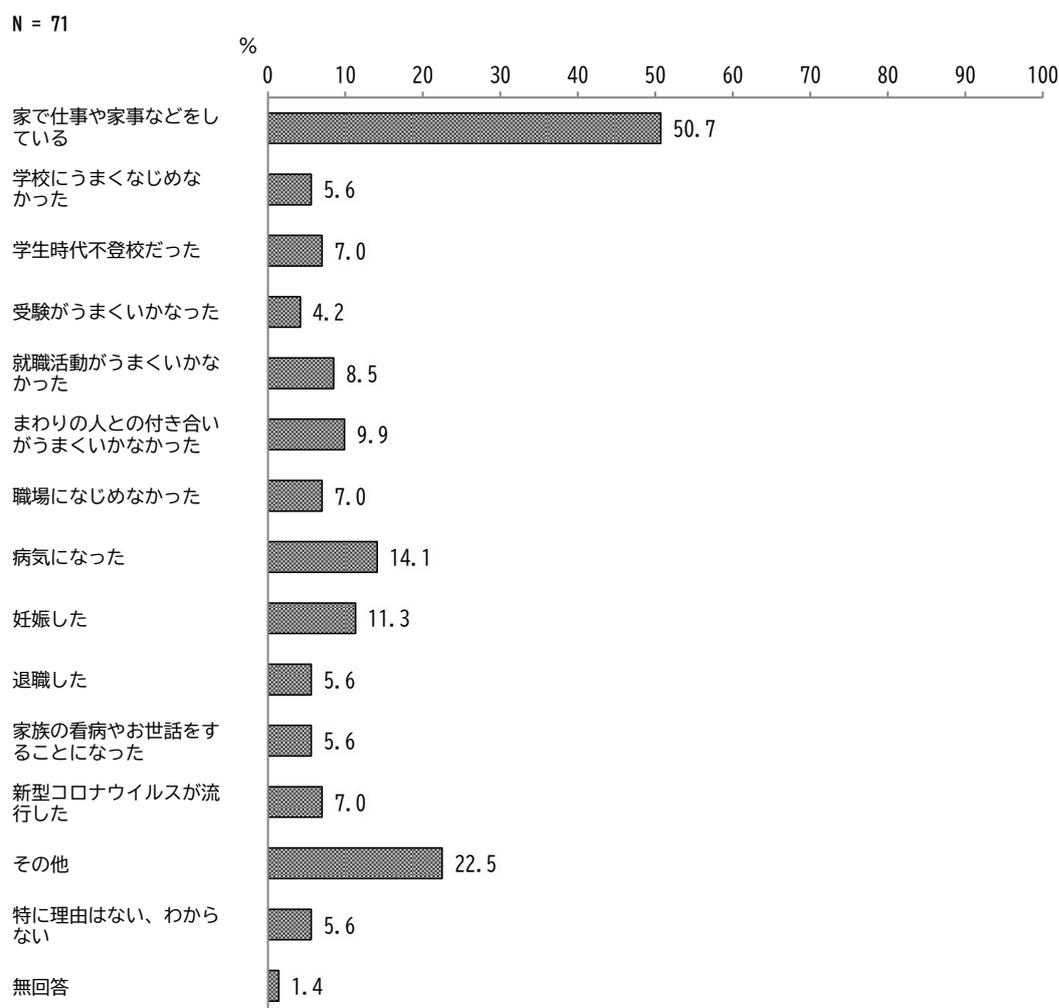


図 7-1

その他自由記述 (記載されたその他の理由は下記の通りで、いずれも課題ではない)

- 育児休業中のため/出産直後のため (8)
- リモートワーク(5)
- 学校が現在週一であるため
- ペットが幼いため
- 大田生活実習所に通所中

《何らかの課題を持っている人の悩みについて》

何らかの課題を持っている人の悩みは「お金のこと」が最も高く78.9%、次いで「就職のこと」が68.4%、「自分の将来のこと」が63.2%であった。

N = 19

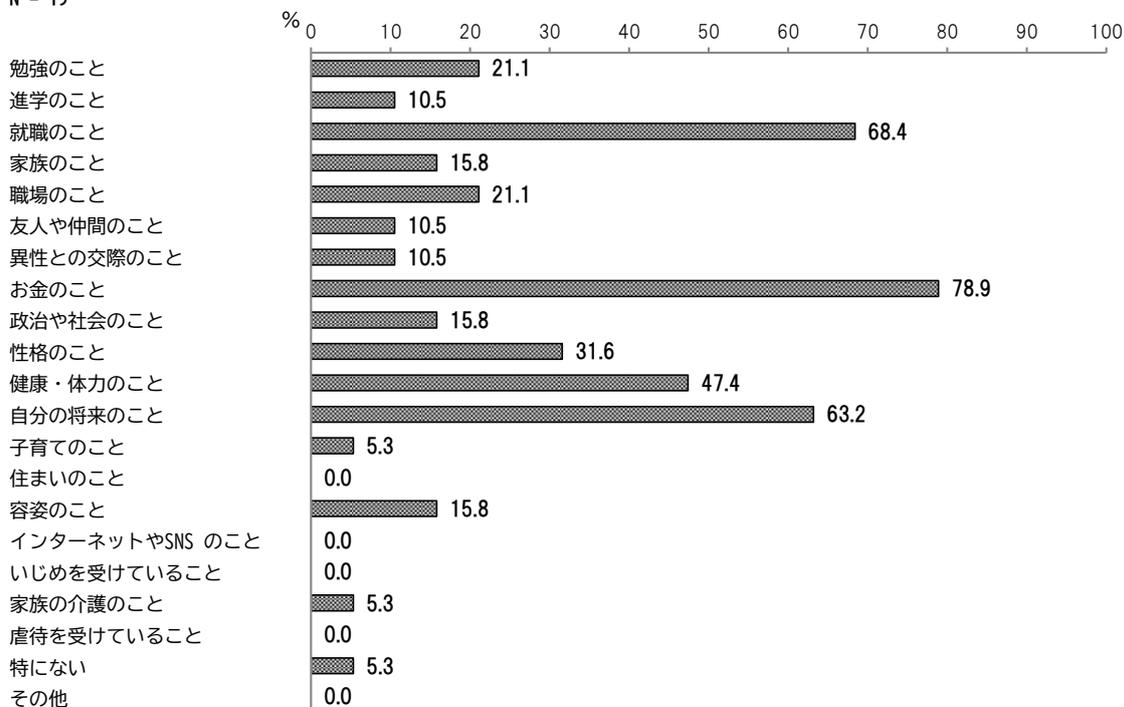
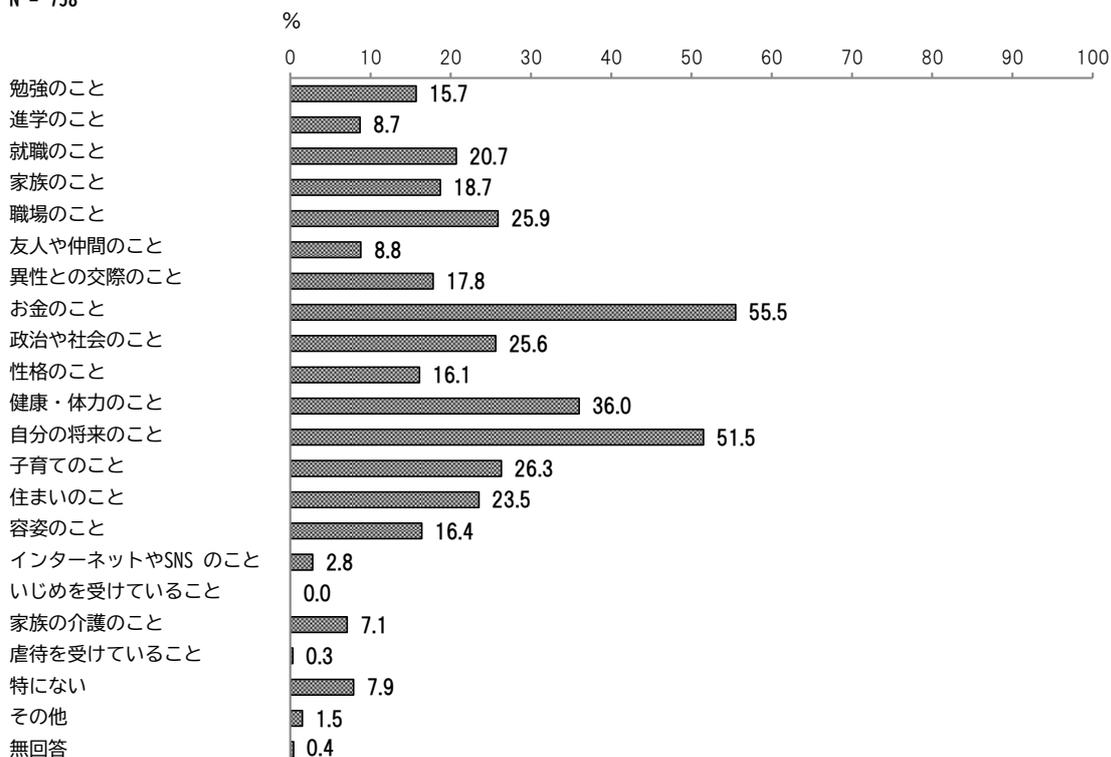


図 7-2

(参考) 一般の悩み (図 9-1 再掲)

N = 758



問8 あなたは、将来の自分がどのようになっていると思いますか（単数回答）

「何でも話せる人がいる」の平均スコアが最も高く 0.79 であった。次いで「自分の収入で暮らせる仕事についている」が 0.76 であった。

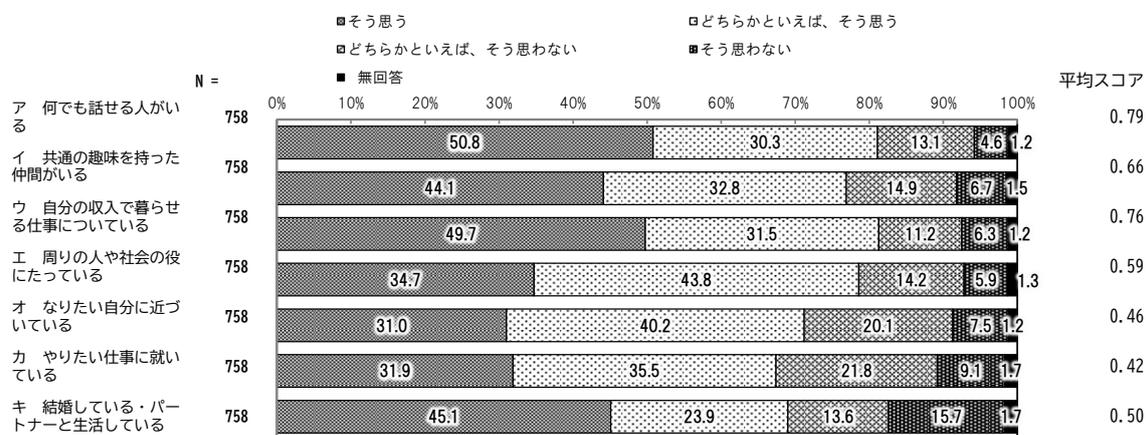


図 8-1

《年代別の将来像》

「キ 結婚している、パートナーと生活している」以外の全平均スコアは、15～19 歳で 0.93 と最も高く、年齢を追うごとに低下していく。「キ」については、20～24 歳が最も低く 0.17 であった。

① 15～19 歳

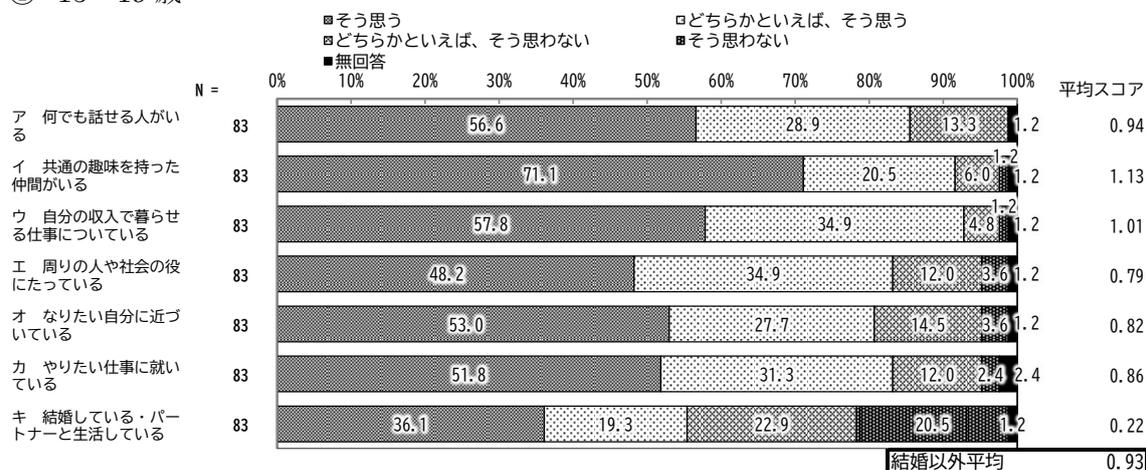


図 8-2

②20～24 歳

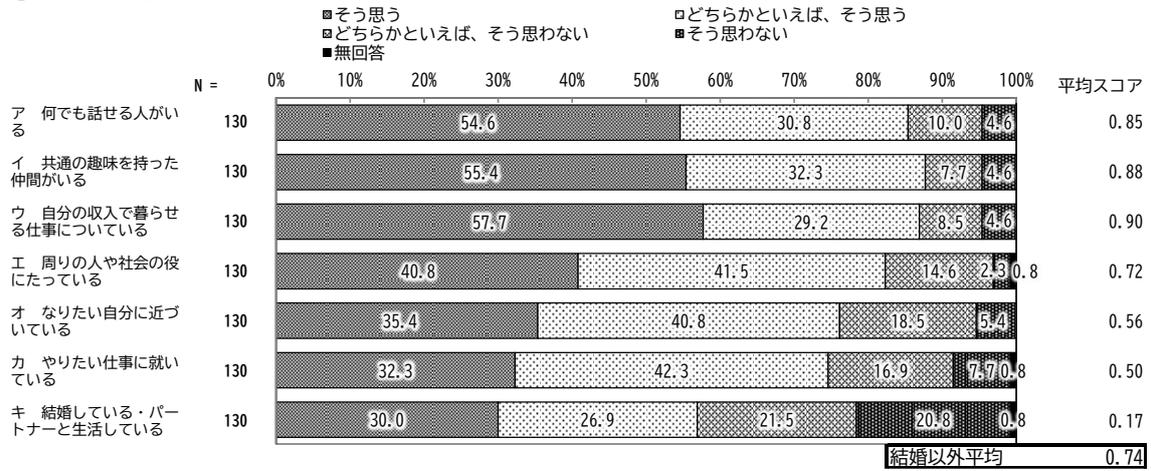


図 8-3

② 25～29 歳

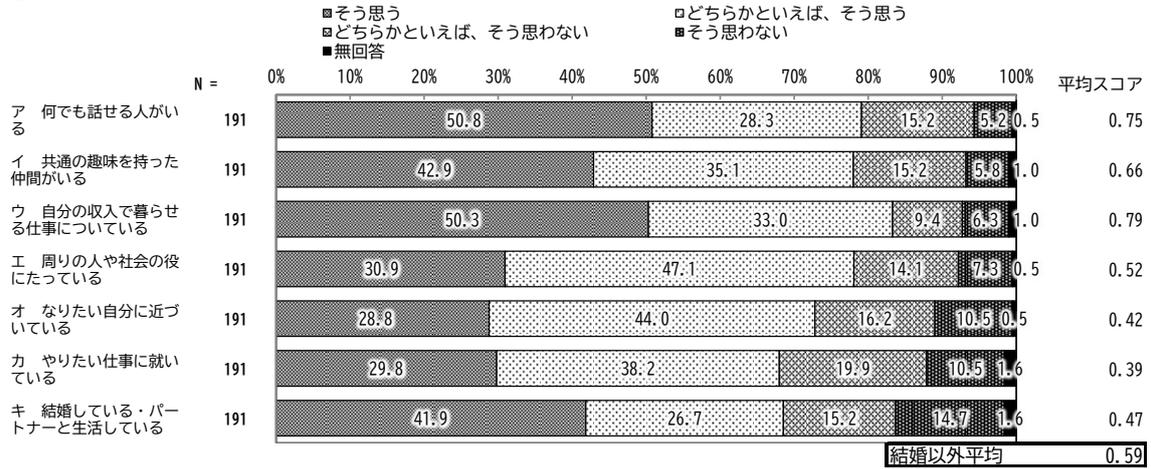


図 8-4

③ 30～35 歳

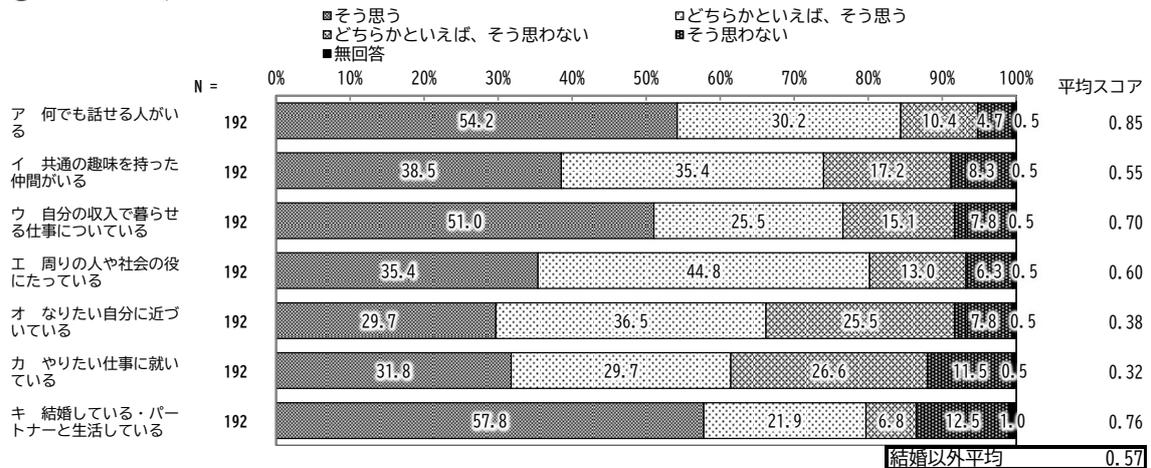


図 8-5

④ 35～39 歳

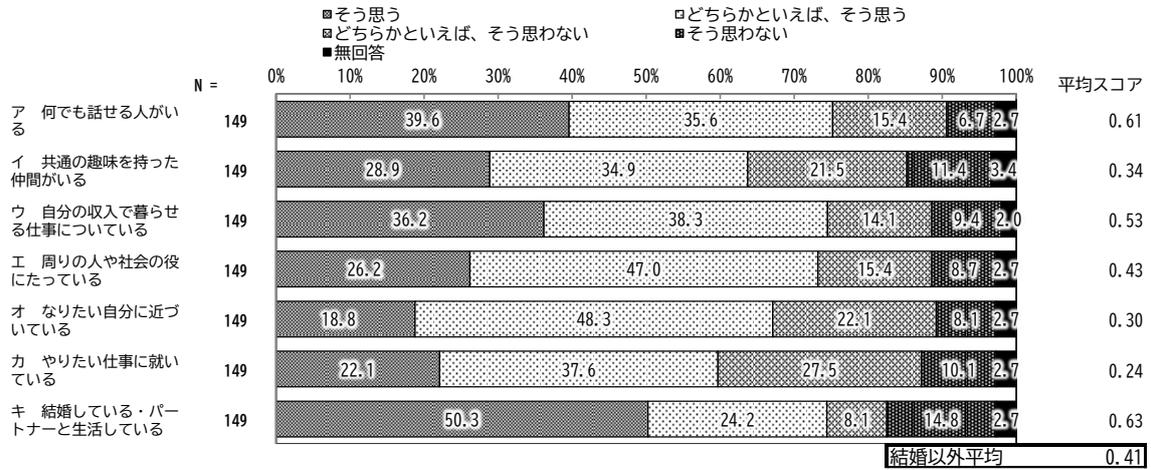


図 8-6

《かかわりと将来像の関係》

図 8-7～図 8-10 に示す通り、問 4 で調査した家族とのかかわりの全平均スコアが、1.5～0.75 (かかわりがある)、0.75～0 (かかわりがややある)、0～-0.75 (かかわりがややない)、-0.75～-1.5 (かかわりがない) のそれぞれの若者について将来像の全平均スコアを調査したところ、かかわりがある若者では全平均スコアが 0.81 であるのに対し、かかわりがない若者では-0.23 と大きな違いがあった。

図 8-11 には、家族以外のかかわりについても比較したものを示す。「学校・職場」とのかかわりにおいても大きな違いがあり、また、「地域」「趣味」においても強い関連性があったが、「インターネット」については大きな違いは無かった。

① 家族とのかかわりがある若者

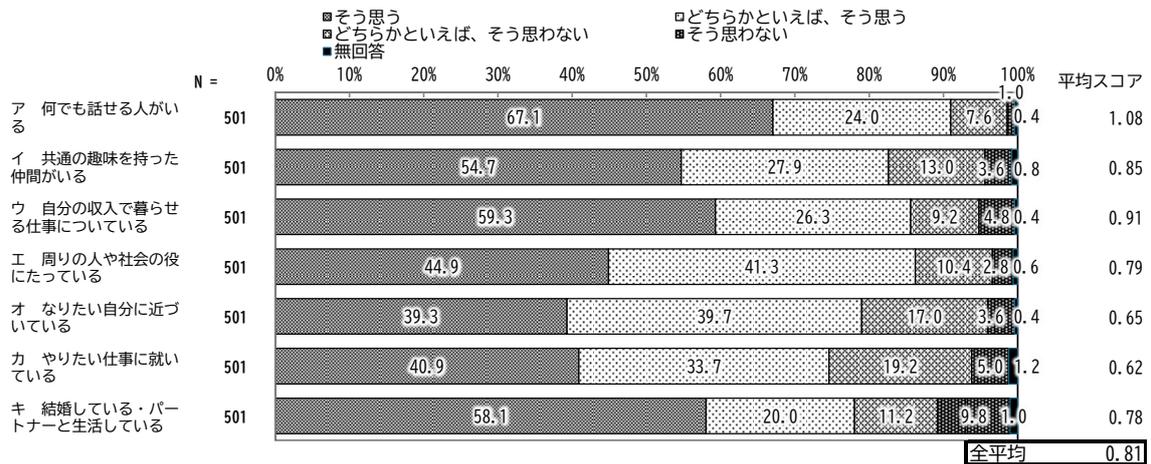


図 8-7

② 家族とのかかわりがややある若者

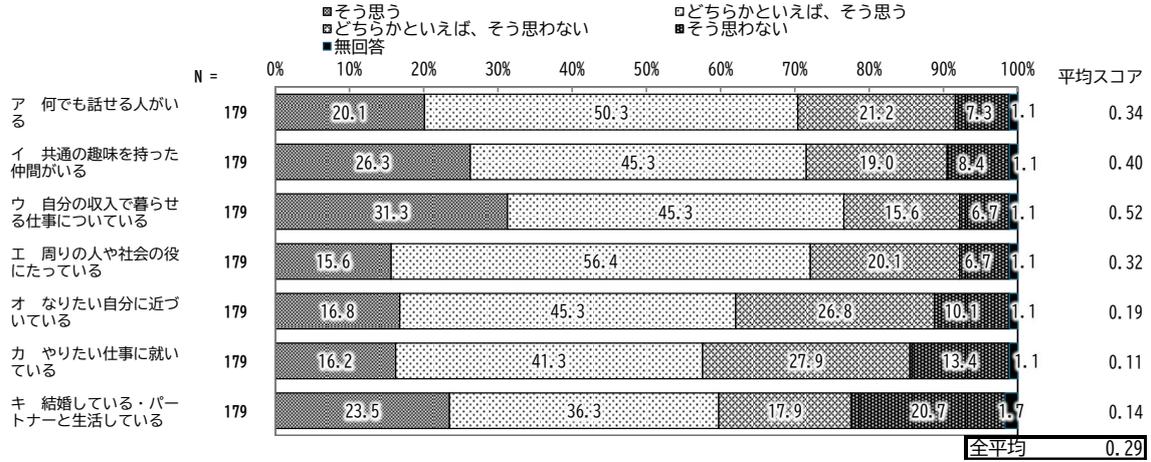


図 8-8

③ 家族とのかかわりがややない若者

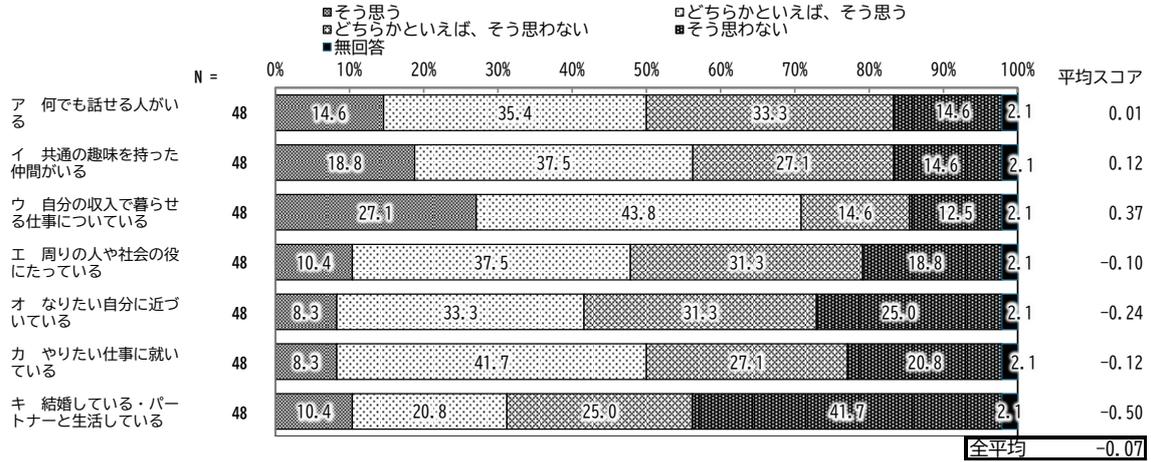


図 8-9

④ 家族とのかかわりがない若者

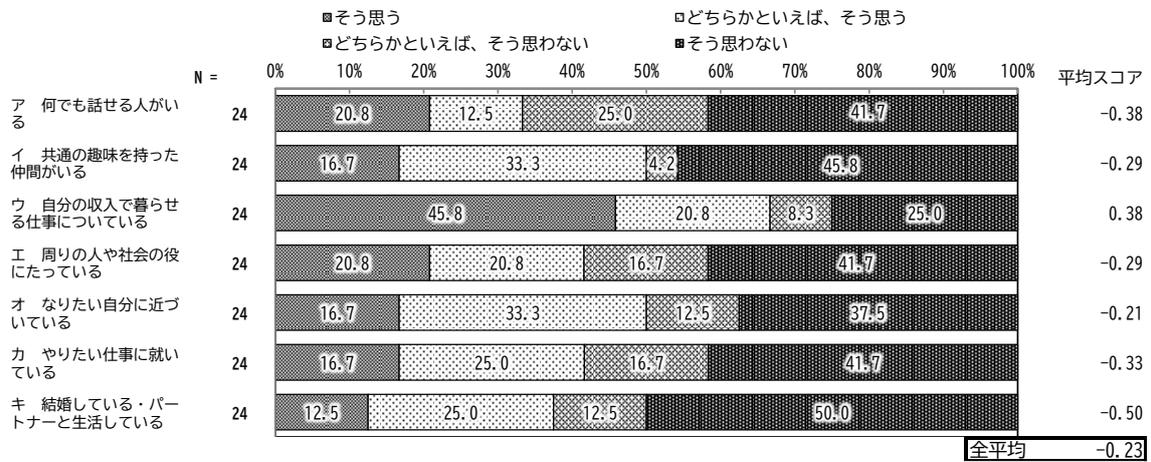


図 8-10

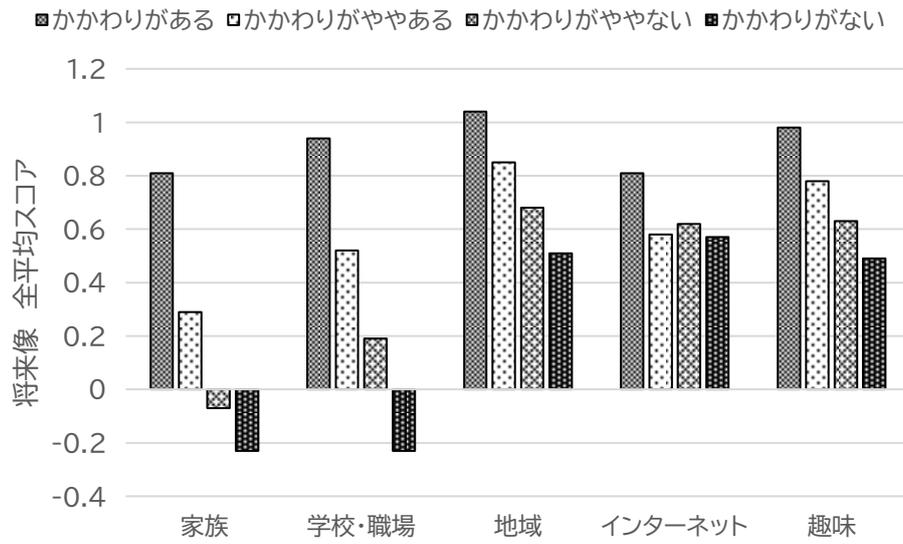


図 8-11

問 9-1 あなたは現在、どのような悩みや相談事がありますか（複数回答）

「お金のこと」が最も高く 55.5%、次いで「自分の将来のこと」が 51.5%であった。

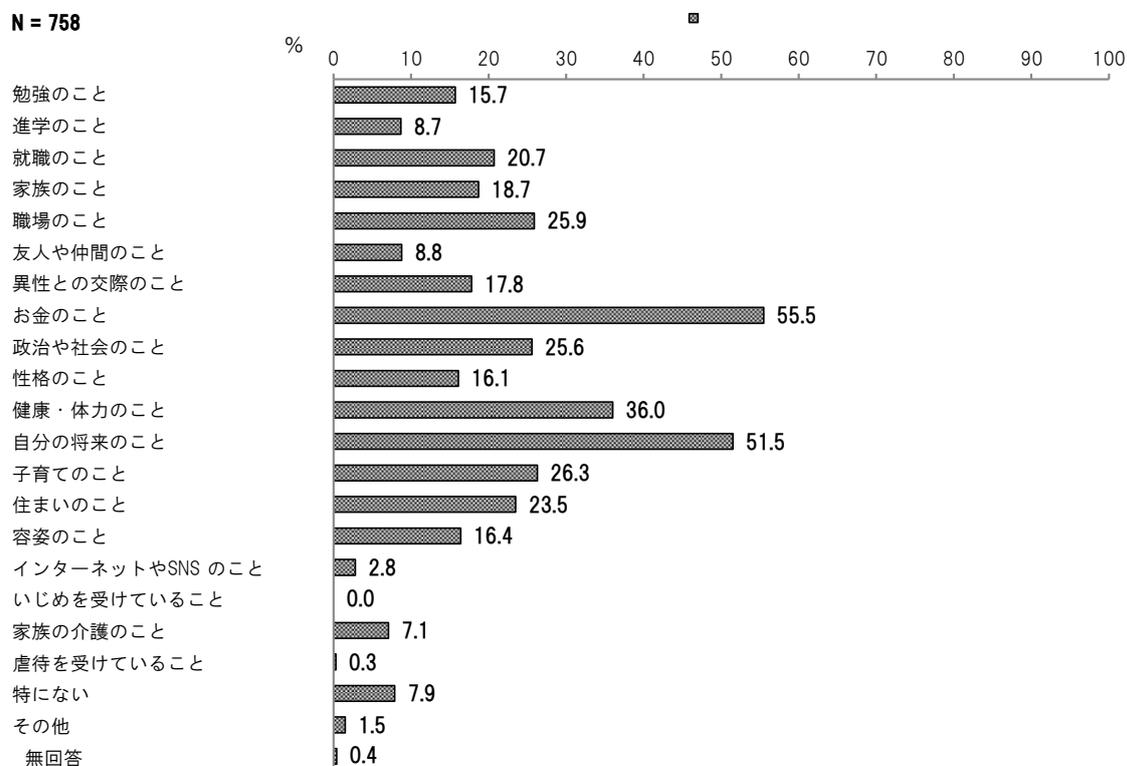


図 9-1

その他自由記述

- 同性愛のこと
- 自分のキャリアについて
- 夫婦関係のこと
- 両親が永眠いたしました後、自分の居場所はどこですか？
- 死を選ばない
- 永住権取得
- 犯罪に巻き込まれないか心配。強盗等テレビで取り上げられている為
- 子育てと仕事の両立
- 仕事内容
- 特になし

《年代別の悩み》

・図 9-2 に示す通り、15～19 歳では、「勉強のこと（62.7%）」、「進学のこと（55.4%）」、「自分の将来のこと（45.8%）」の順で多かった。20～24 歳では、「自分の将来のこと（65.4%）」、「お金のこと（53.1%）」、「就職のこと（33.8%）」、25～29 歳では、「お金のこと（63.9%）」、「自分の将来のこと（59.7%）」、「職場のこと（35.6%）」、30～34 歳では、「お金のこと（53.1%）」、「自分の将来のこと（42.2%）」、「子育てのこと（40.6%）」、35～39 歳では、「お金のこと（63.1%）」、「健康・体力のこと（51.0%）」、「子育てのこと（47.0%）」の順になっている。各世代に共通するのは「お金のこと」、「自分の将来のこと」で、その他は各年代のライフスタイルに応じたものになっている。

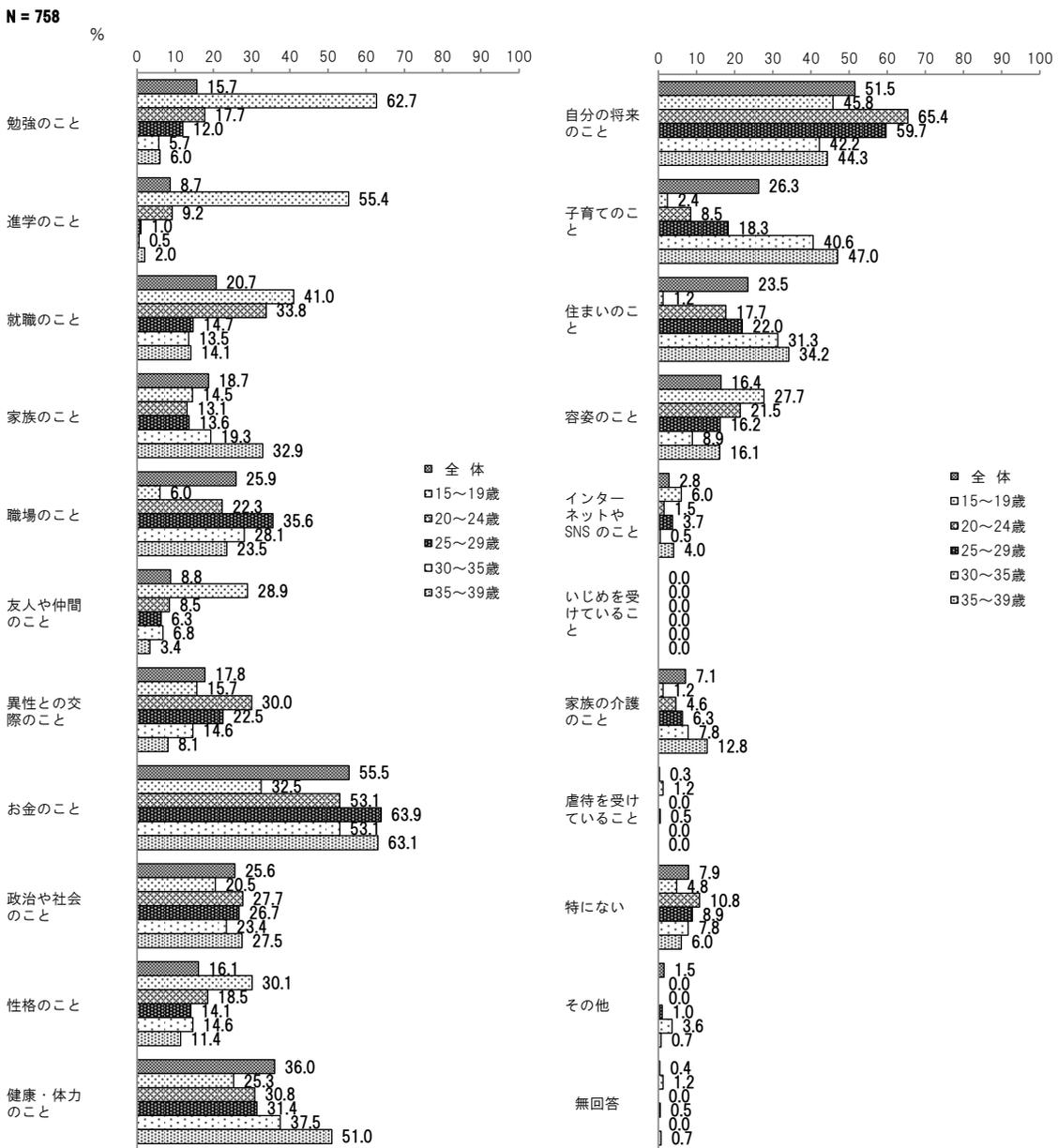


図 9-2

《家族構成別の悩み》

家族構成別では、「単身」世帯では「お金のこと」が最も高く62.4%、「夫婦と子ども」世帯では「子育てのこと」が最も高く74.9%、「夫婦のみ世帯」では「お金のこと」が最も高く61.9%、「親と同居」世帯では「自分の将来のこと」が最も高く56.2%であった。

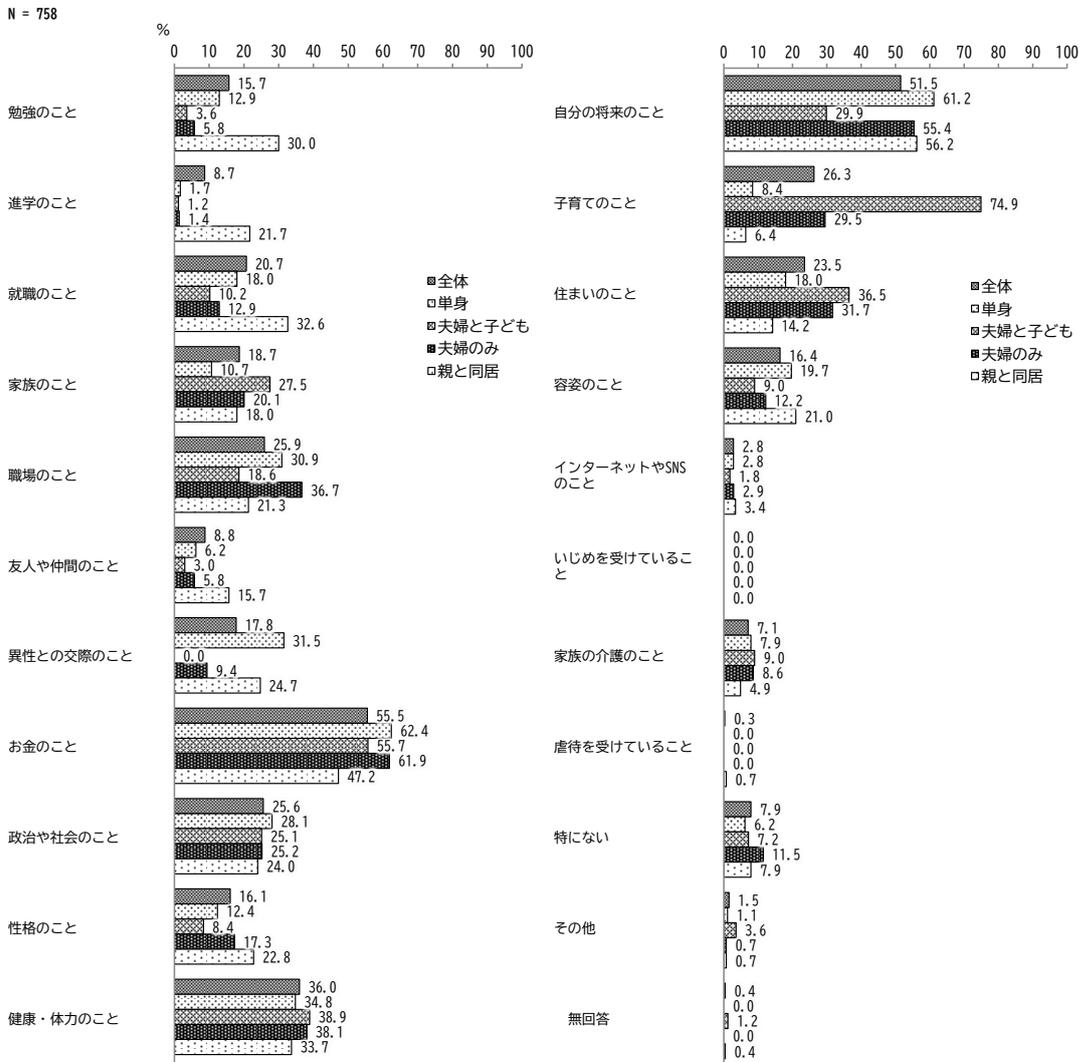


図 9-3

問 9-2 あなたは、悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(単数回答)

「少し思う」が最も高く 33.4%、次いで「思う」が 27.0%であった。

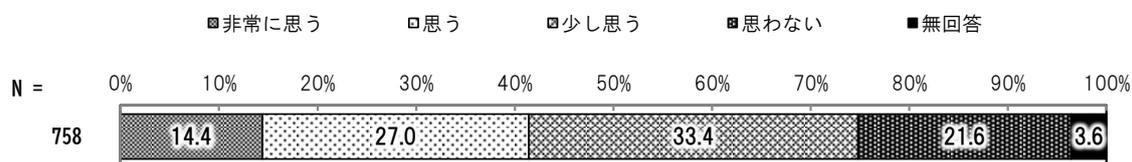


図 9-4

問 9-3 「4 思わない」と選択した理由についてもっとも近いものはなんですか。(単数回答)

問 9-2 で「思わない」と選択した理由のうち、「自身で解決できるから」が最も高く 48.8%、次いで「相談したとしても解決すると思えないから」が 31.1%であった。

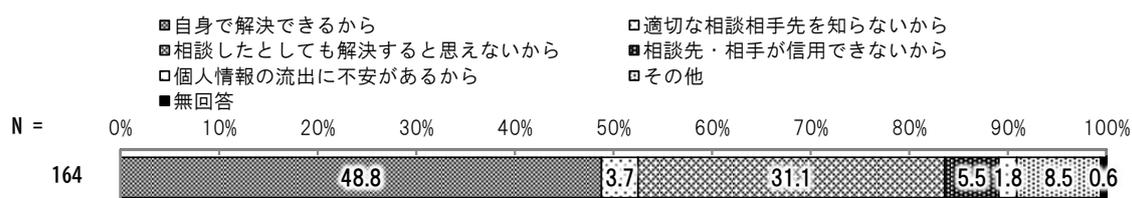


図 9-5

その他自由記述

- 話したくない・面倒 (4)
- 聞いてもらいたい悩みがない (3)
- 相談相手がいる (2)
- 自分で解決したい (2)
- 家や仕事がないときに相談しても何もしてくれなかった
- 障害を持っているから
- 分かりません

《若者の将来像との関係性》

若者の将来像は、自分の悩みを相談したいかどうかにも強く関係していることがわかった。図 9-6～図 9-8 は、悩みを相談することについて「非常に思う」、「思う」、「少し思う」と回答した若者毎の将来像を示す。また、相談したいと思わない理由として、「自分で解決したいから」という若者の将来像を図 9-9、「相談しても解決できると思わないから」等それ以外の理由で相談したくない若者の将来像を図 9-10 に示した。これらと比較すると、最も前向きな将来像を持っているのは「相談したくない（自分で解決したいから）」の若者であるのに対し、最も後ろ向きなのは「相談したくない（それ以外の理由）」の若者であった。

また、悩みを相談したいと「非常に思う」若者の将来像の全平均スコアは 2 番目に高く、悩みを相談したいと非常に思っているからといって自分の将来を悲観しているとは言えないことが分かった。むしろ、悩みを積極的に相談したいと思わない若者のほうが将来像を不安視する程度が大きくなることから、問 8 の《かかわりと将来像の関係》でも見たように、他者とのコミュニケーションの良し悪しが、若者の将来像に影響していると考えられる。

① 将来像（相談したいと非常に思う）

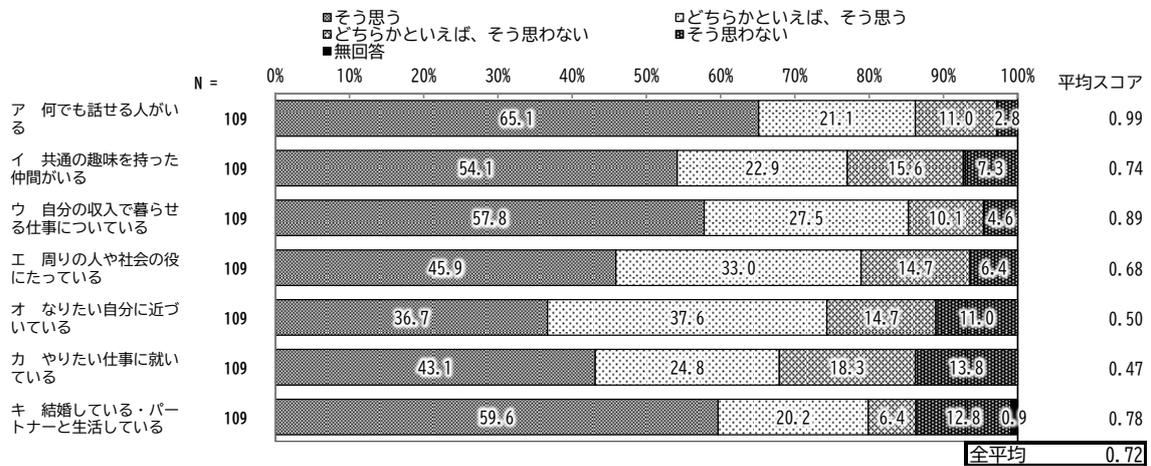


図 9-6

② 将来像（相談したいと思う）

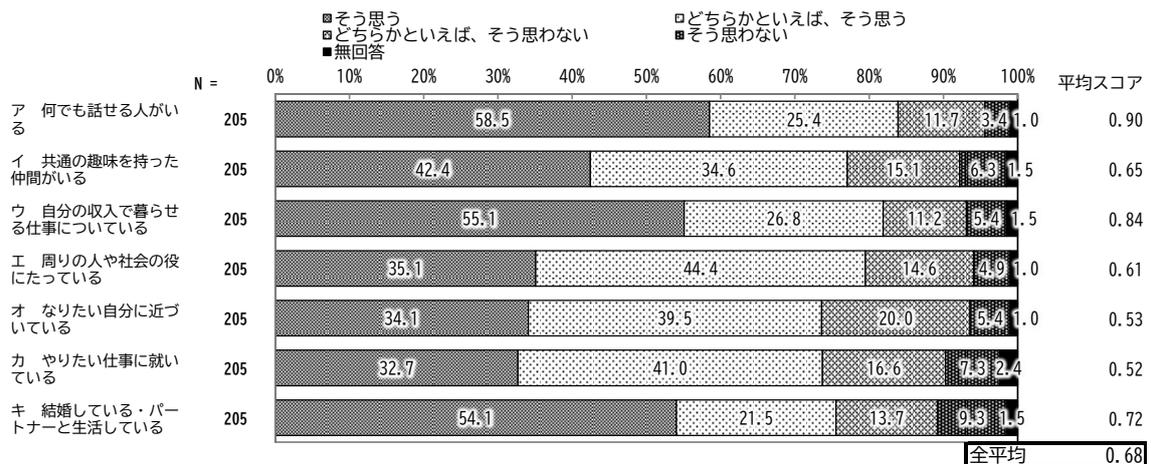


図 9-7

③ 将来像（相談したいと少し思う）

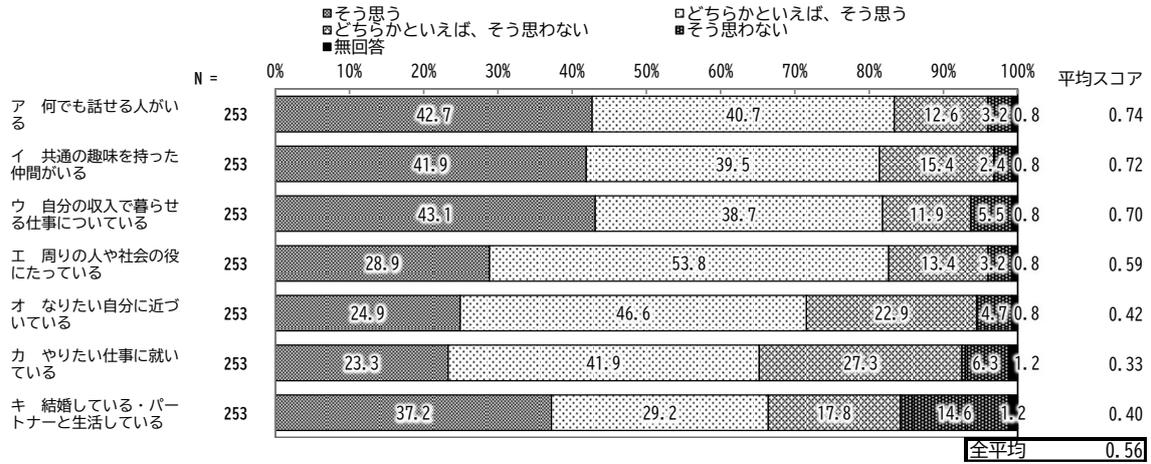


図 9-8

④ 将来像（相談したくない（自分で解決できる））

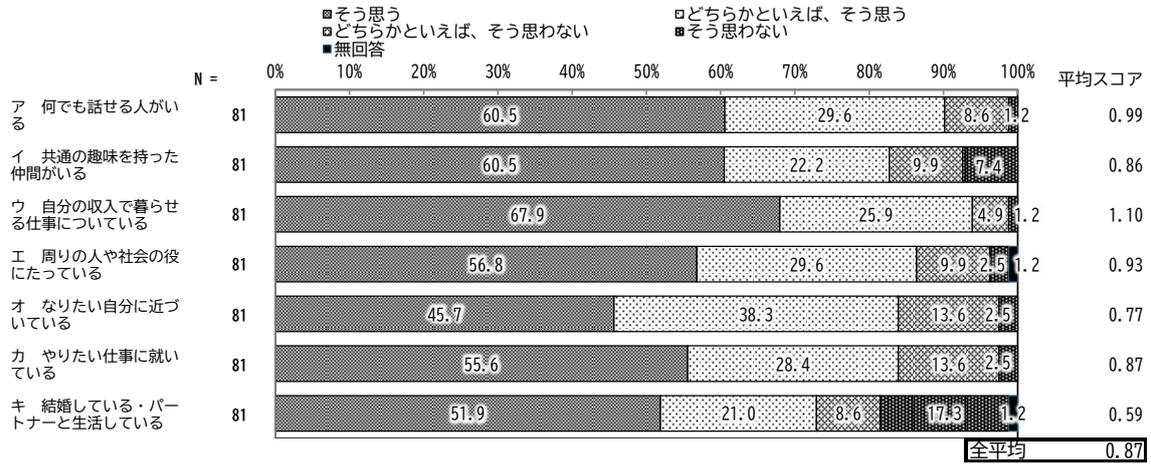


図 9-9

⑤ 将来像（相談したくない（それ以外の理由））

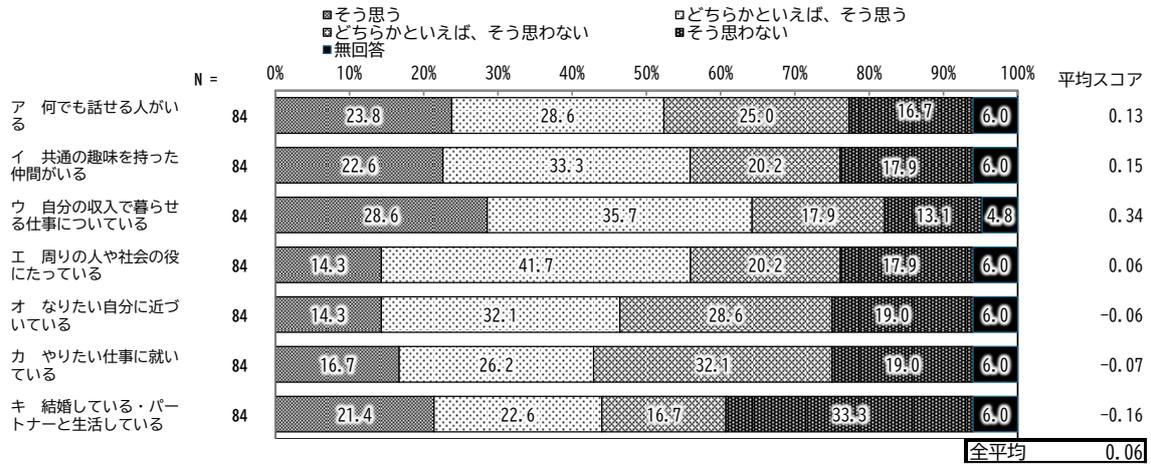


図 9-10

《若者の悩みとの関係性》

「相談したくない（自分で解決する）」、「相談したくない（その他の理由）」「相談したい」の若者の悩みを比較したところ、「相談したくない（自分で解決する）」若者の悩みの割合は相対的に低かったが、「相談したくない（その他の理由）」と「相談したい」若者の割合はあまり変わらなかった。

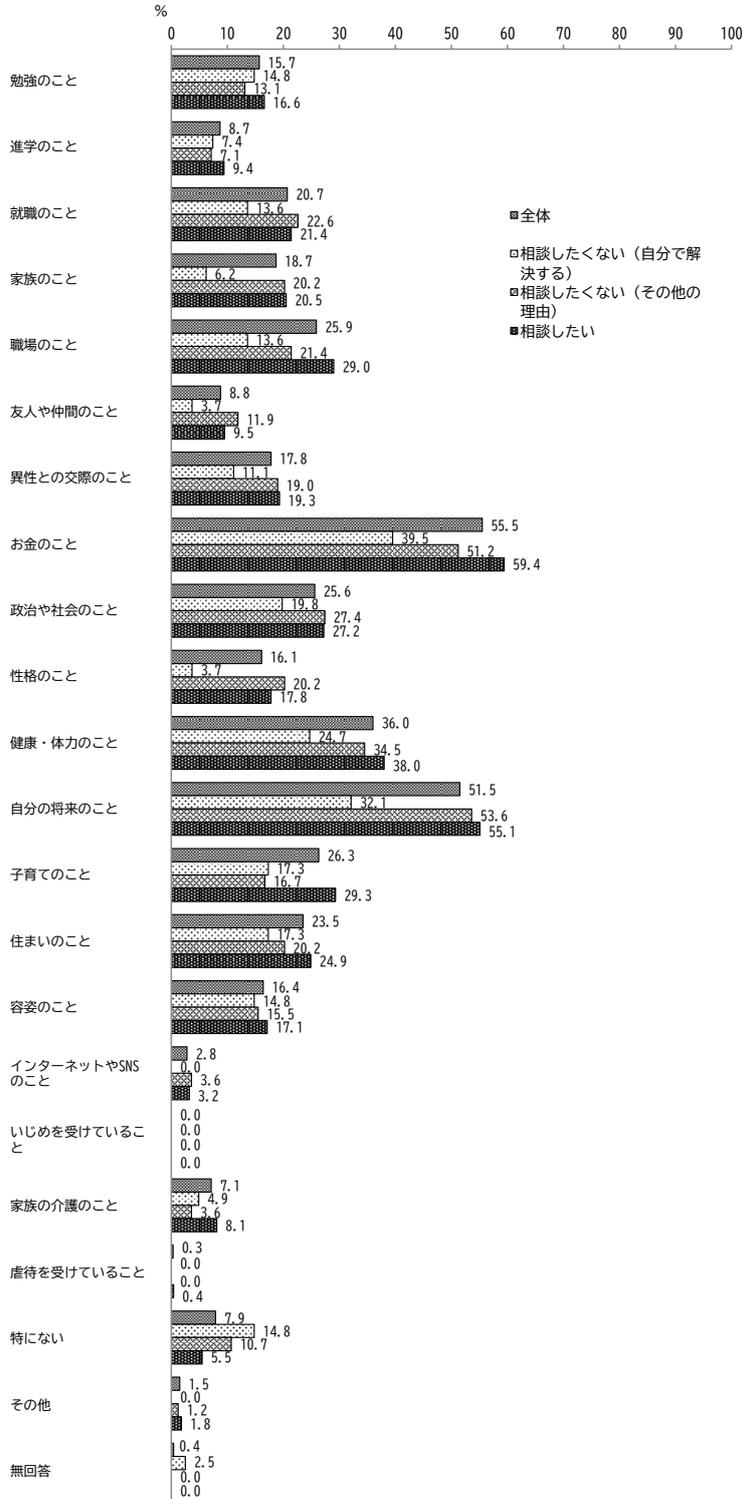


図 9-11

問 9-4 あなたは普段悩み事を誰に相談しますか。(複数回答)

「親」が最も高く 60.8%、次いで「知人・友人」が 57.5%であった。「カウンセラー・精神科医」、「区役所などの専門機関の人」、「NPO など民間の相談機関の人」など、外部専門家への相談の割合はいずれも低かった。

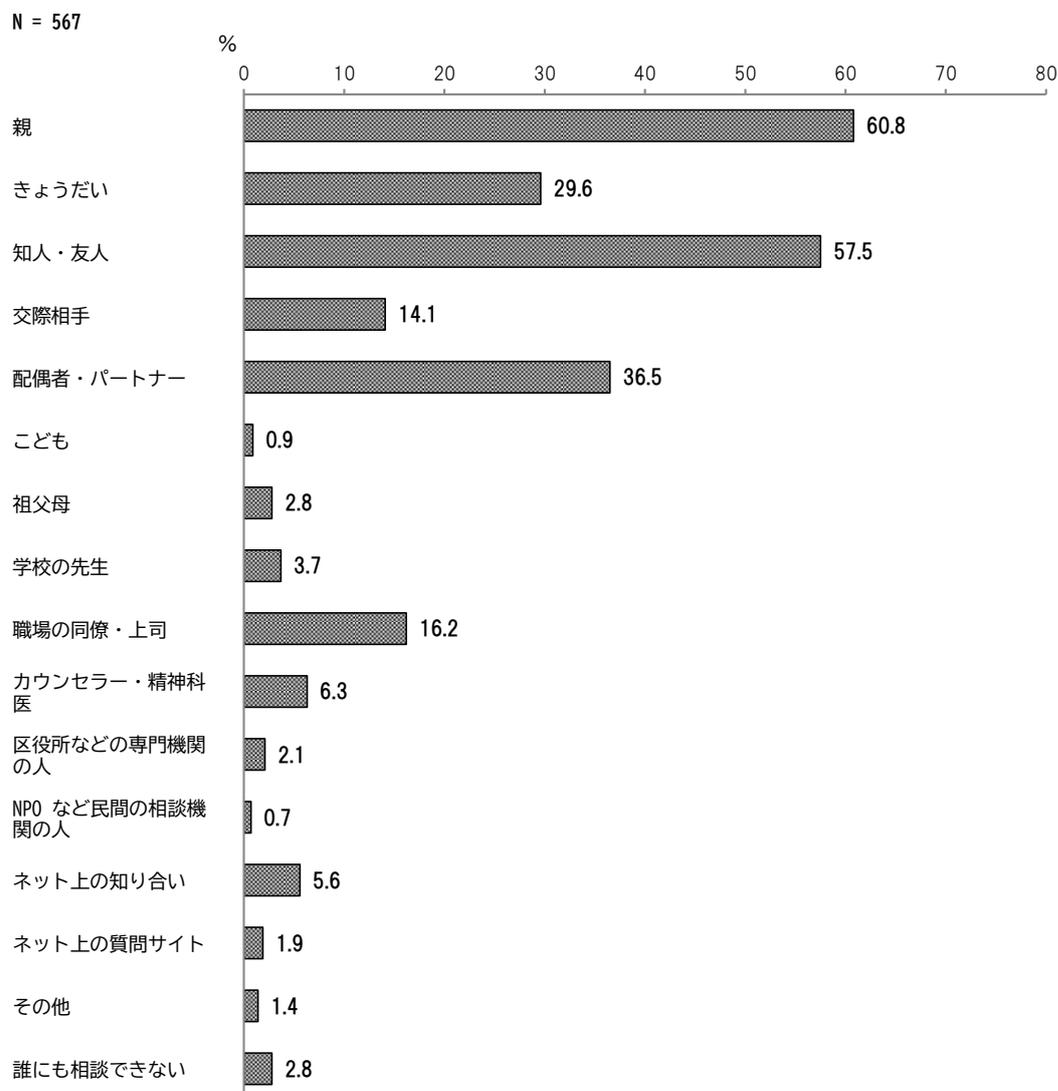


図 9-12

その他自由記述

- チャット GPT(2)
- 友人
- スポーツ仲間
- 習い事の先生
- 親戚(おば、おじ)
- May dairy books& God
- Twitter に吐き捨てる

《家族構成別の相談先》

「単身」世帯は「知人・友人」が最も高く 64.7%、「夫婦と子ども」、「夫婦」世帯はいずれも「配偶者・パートナー」が最も高く 85.8%、76.5%、「親と同居」世帯は「親」が最も高く 71.0%であった。

N = 567

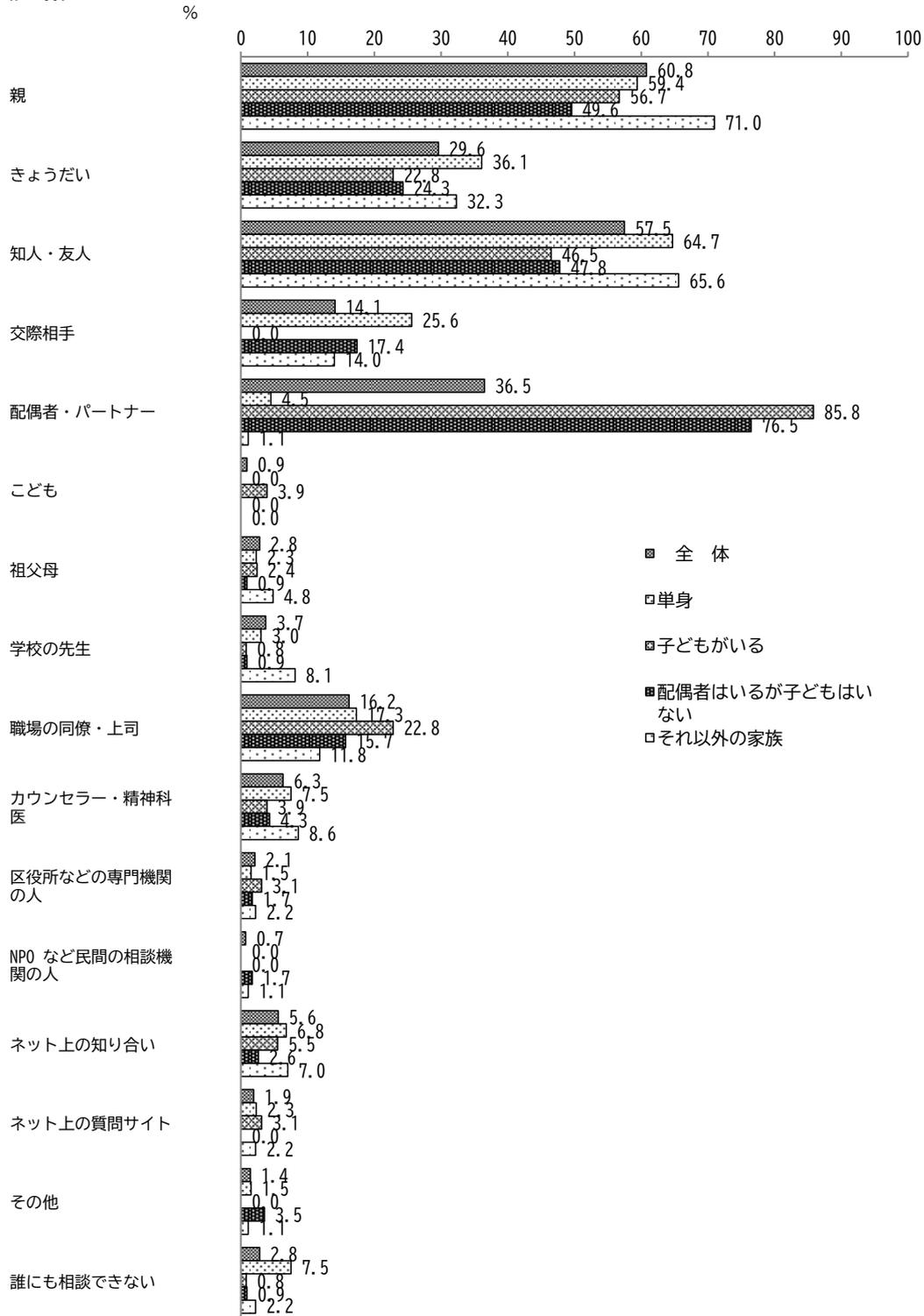


図 9-13

問 9-5 「16 誰にも相談できない」と選択した理由をお聞かせください。

- 相談できる人がいない。
- 相談できる相手がいない。幼少期の家庭環境により弱音や悩みを吐露するのが不得手。
- ふさわしい相手がいない。また、自分でも考えがまとまらない。
- 普段相談できる人がいない。
- 他の人と違う経歴のため理解者（親族含め）がいないため。
- 外国人だから友達とか少ないし、新しくできた友達には深い話まではしづらい。
- 誰も信頼できないから。
- 相談すれば親身になって聞いてくれると思われる人は何人もいるけれど、相談しても解決する物事ではないから話しても意味ないと思っている。
- 言ったところで無駄だから。
- あまり相談しないで自分で抱えるタイプです。
- 自分の中で留めてしまう。
- うまく説明出来ないから。
- 誰に相談していいか分からない。
- 漠然と話したいという気持ちと、誰にも話したくないという気持ちが両方ある。

問 9-6 相談した結果、改善した経験がありましたか（単数回答）

「改善した」が最も高く 38.7%、次いで「少し改善した」が 32.5%であった。

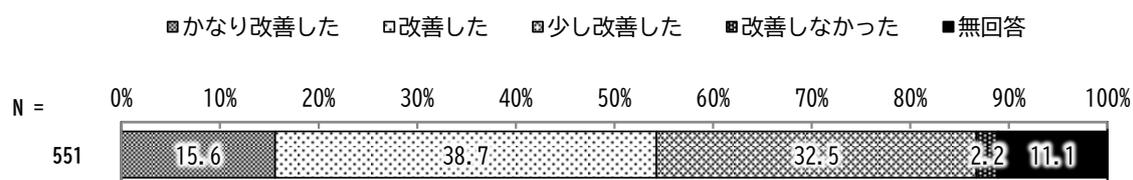


図 9-14

問 10 悩みの相談以外で、若者に対する必要な施策、制度はどのようなものだと思いますか。

「生活や就学のための経済的援助」が最も高く 55.3%、次いで「自由に過ごせる場」が 44.2%であった。

N = 758

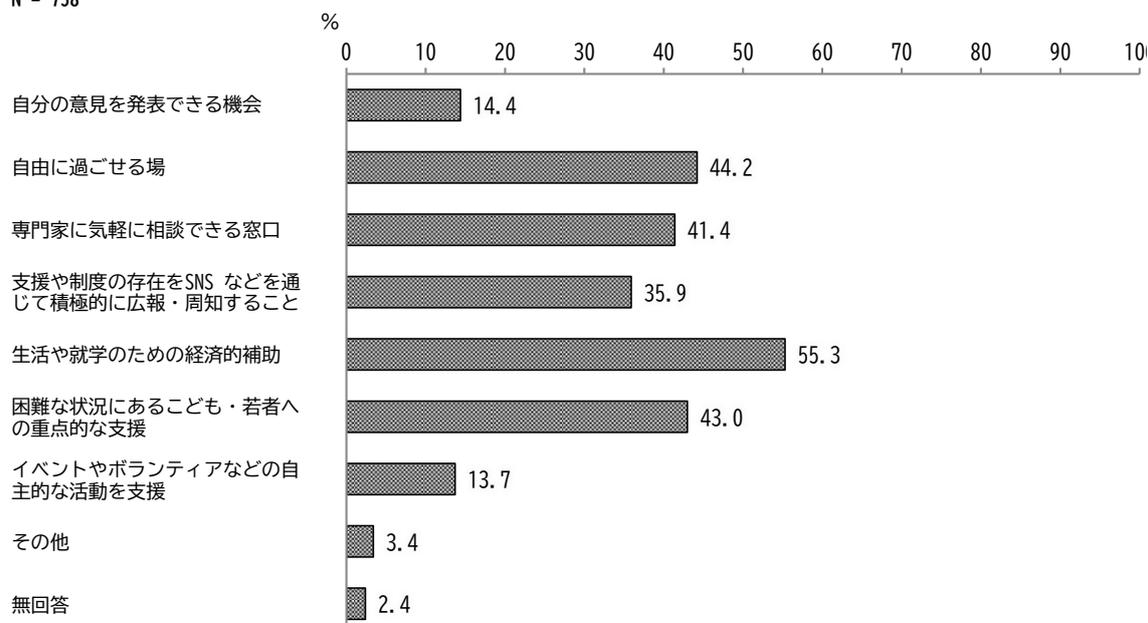


図 10-1

#### その他自由意見

- 将来を考える機会/知識/起業などの支援 (5)
- 金銭的な支援 (3)
- 居場所・空間づくり (3)
- 子育て支援 (3)
- 意見を言える場 (2)
- 質の高い義務教育
- 予防歯科
- 特に男性に対して若年時からの家事、育児、介護能力向上施策、精神的自立を促す施策
- 悩みに対して柔軟（都合が良い）対応
- 年少扶養控除の復活、社会保険料負担の見直し
- 光バイト
- 基本的マナーや態度、ストレス解消法などを教えてもらえる場所
- わからない

《年代別の必要と考える施策・制度》

必要な施策・制度は、平均値が最も高い「生活や就学のための経済的援助」、3番目に高い「困難な状況にある子ども・若者への支援」については年代別に差はなかった。2番目に平均値が高い「自由に過ごせる場」については15～25歳において最も高い割合となった。4番目に高い「専門家に気軽に相談できる窓口」については、25歳以上で高い割合となった。

N = 758

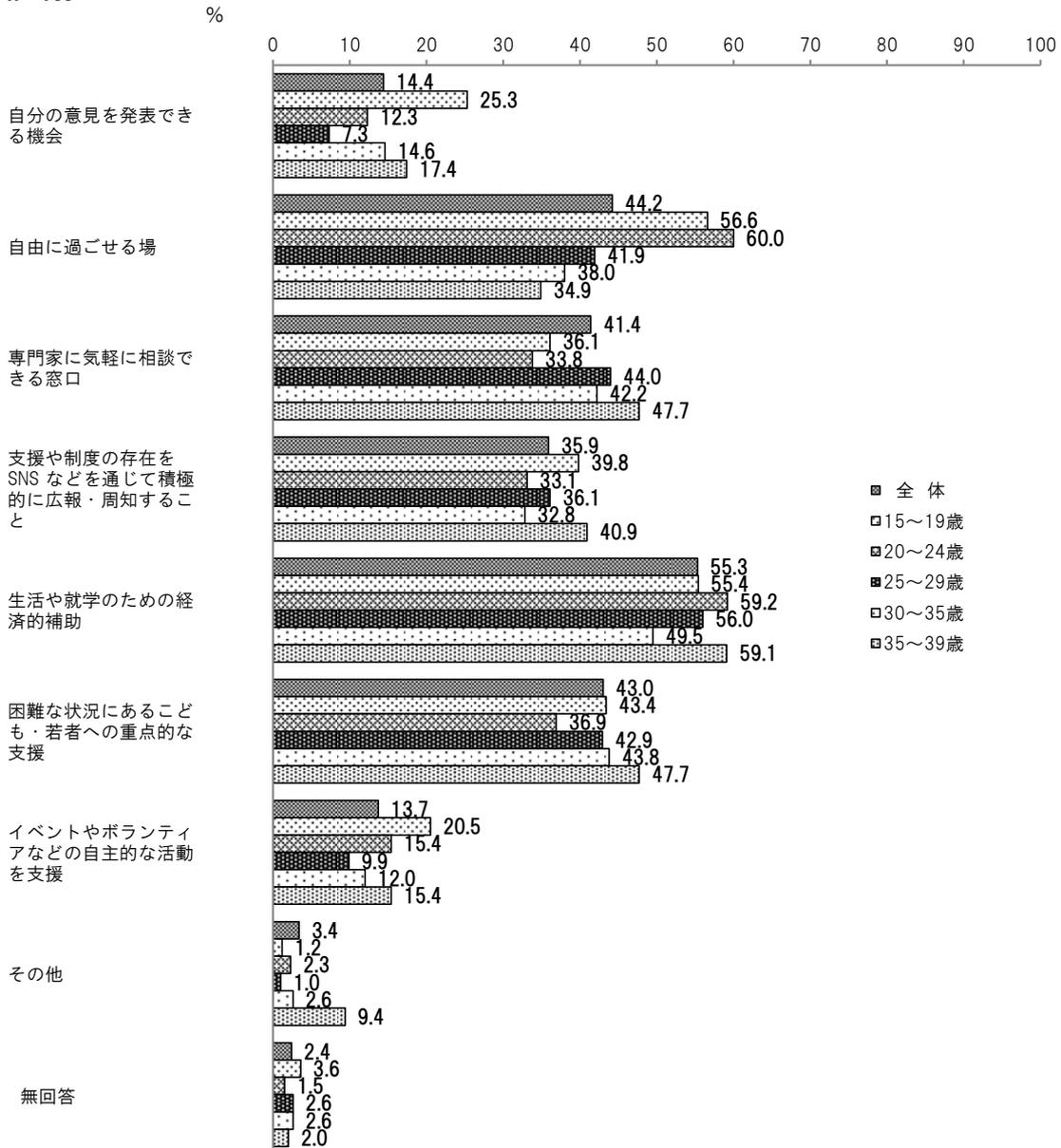


図 10-2

《家族構成別》

「単身」世帯と「夫婦と子ども」世帯は「生活や就学のための経済的援助」が最も高く、57.9%、56.3%であった。「夫婦のみ」世帯は、「生活や就学のための経済的援助」と「困難な状況にある子ども・若者への重点的な支援」が48.2%、「親と同居」世帯は「自由に過ごせる場」が最も高く55.1%であった。「専門家に気軽に相談できる窓口」に対する割合が最も高かったのは「夫婦のみ」世帯で46.8%であった。

N = 758

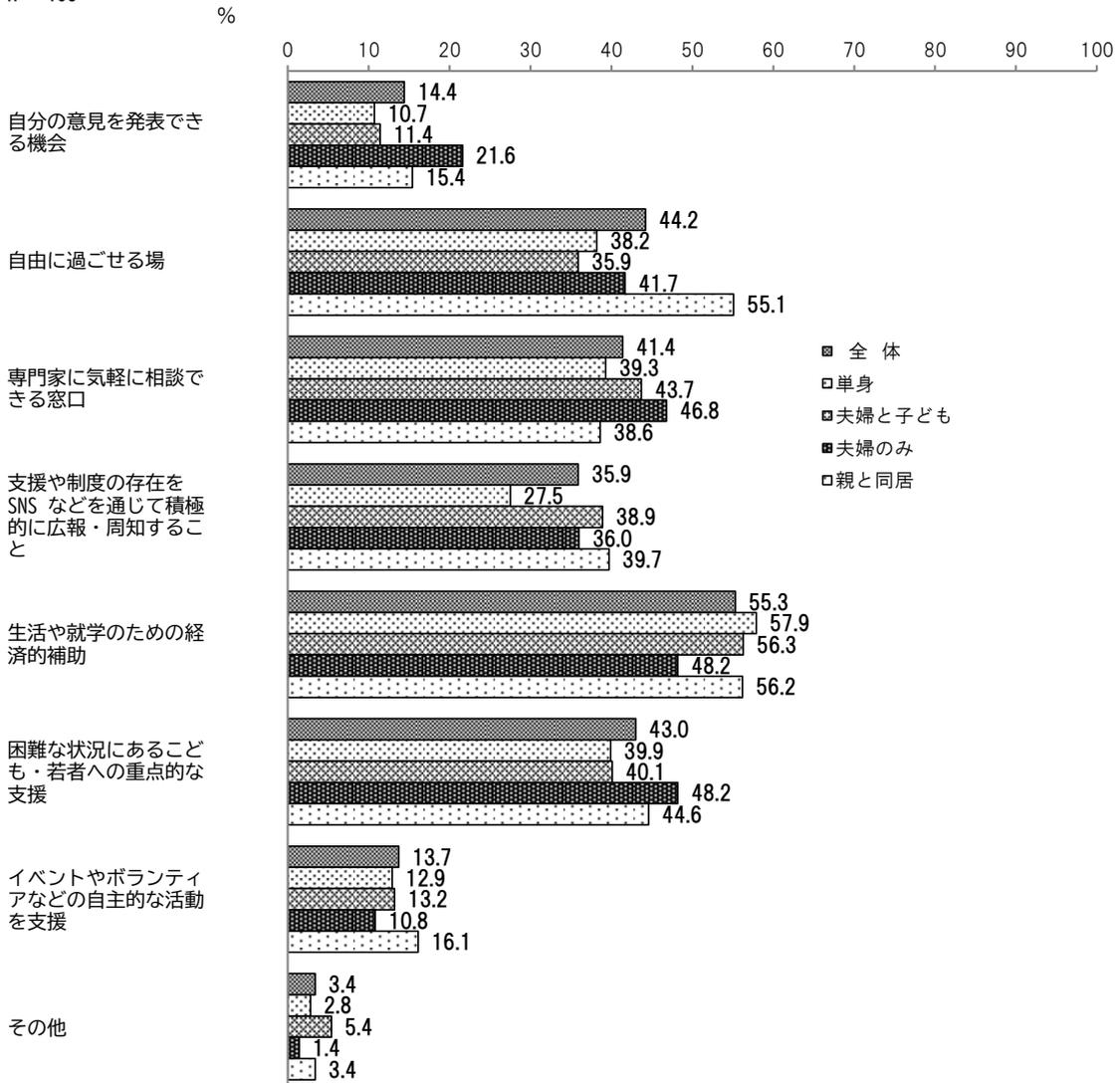


図 10-3

問 11 あなたは次のようなトラブルの経験はありますか。

「迷惑メールを受け取った」が最も高く 70.4%、次いで「インターネットの長時間利用により睡眠不足になった」が42.0%であった。

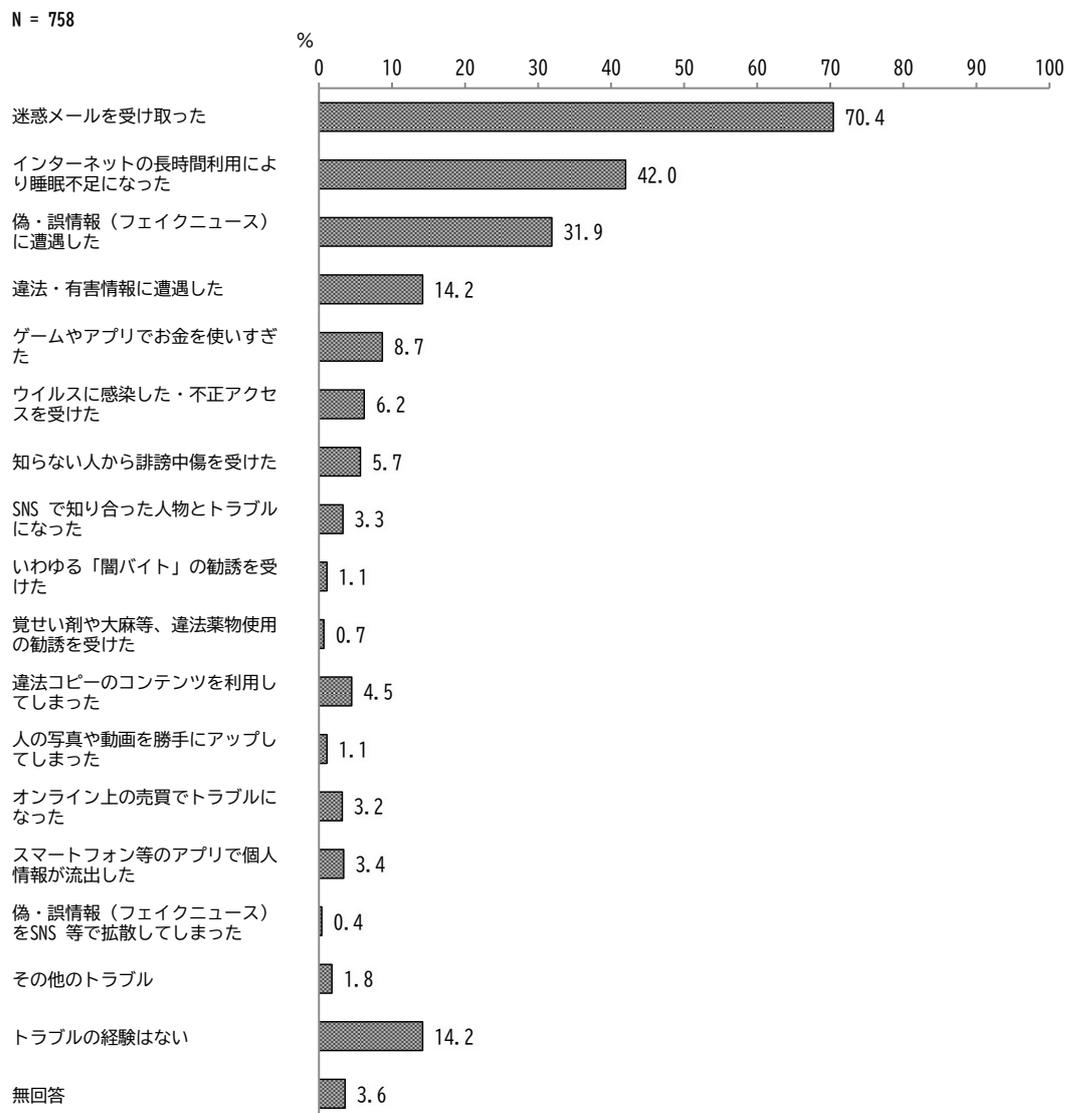


図 11-1

#### その他自由記述

- ネット上で個人情報が無断で記載された、記載してしまった (4)
- クレジットカードの不正利用 (2)
- プリペイドカードを買わされた
- 電車での痴漢/無断で写真撮影
- 酔っ払いに絡まれた/事業化集団と呼ばれる団体に声をかけられた/変な宗教の人から狙われた/詐欺の電話がかかってきた
- 兄弟の非行
- 落とし物
- 政治家による私生活の危機

《年代別のトラブル経験》

年代毎に大きな差はないが、「違法・有害情報に遭遇した」、「ウイルスに感染した・不正アクセスを受けた」、「知らない人から誹謗中傷を受けた」等、比較的重大なトラブルは年齢層が高いほど高くなった。また、「トラブルの経験はない」と回答した年齢のうち、15～19歳の割合は、他の年代に比較し高かった。

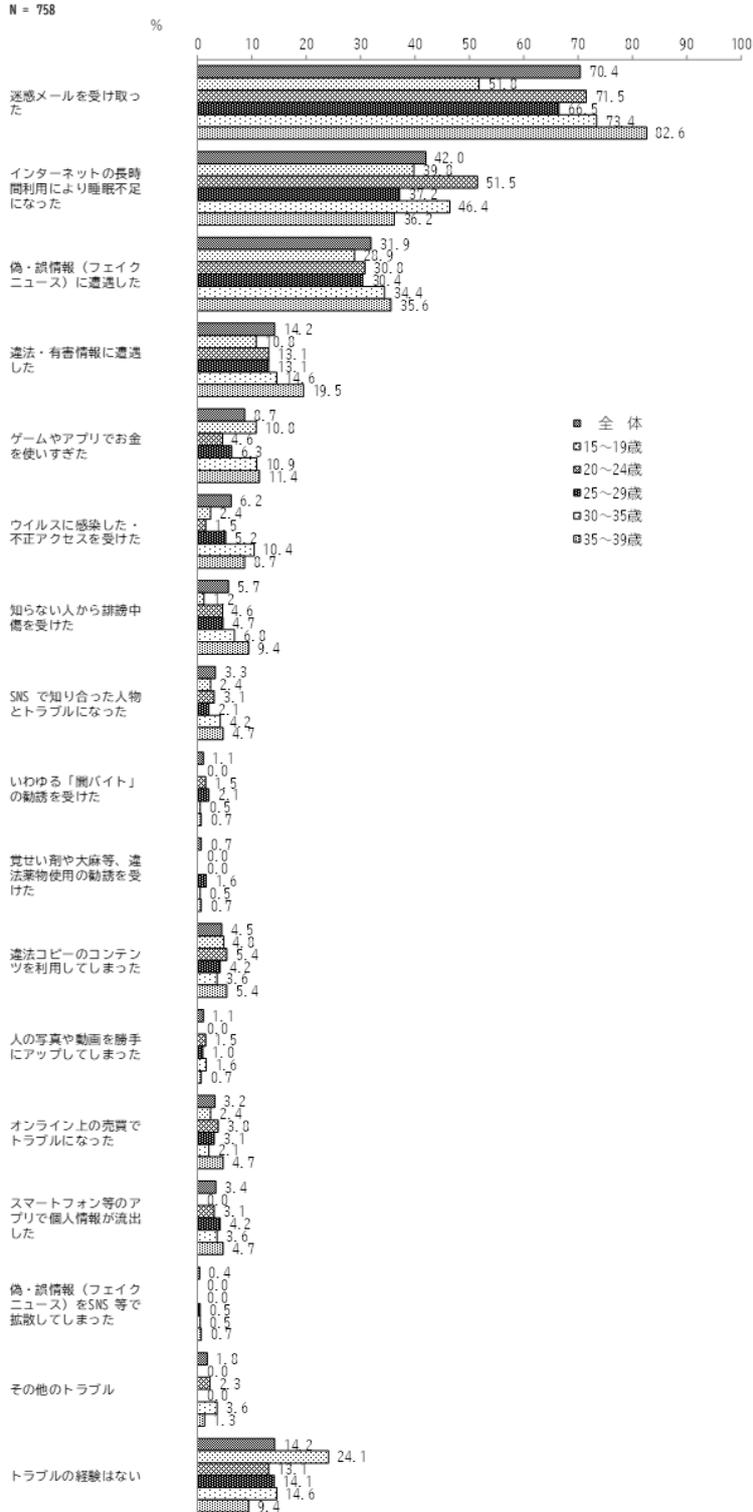


図 11-2

問 12 あなたは、地域のお祭りや行事・イベント等にどのくらい参加していますか。(単数回答)

「ある程度参加している」が最も多く 36.9%、次いで「参加したことがない」が 28.0%であった。

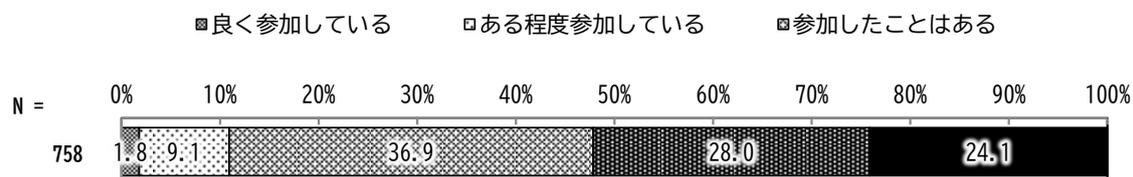


図 12-1

《年代別参加率》

「15～19歳」の参加割合が高くなった。

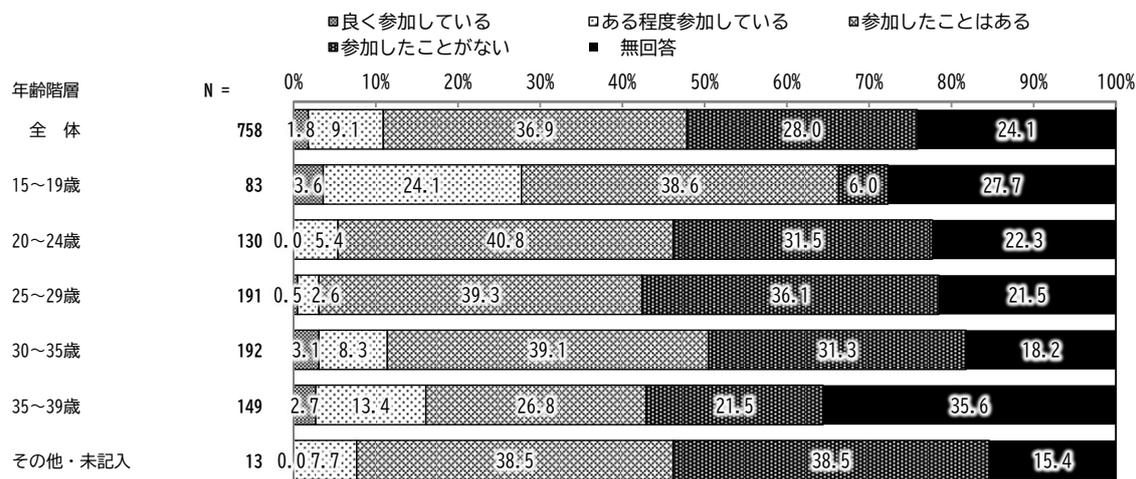


図 12-2

《家族構成別》

「夫婦と子ども」世帯の参加率が最も高く合計 67.1%となった。参加率が最も低いのは「単身」世帯で合計 25.8%であった。

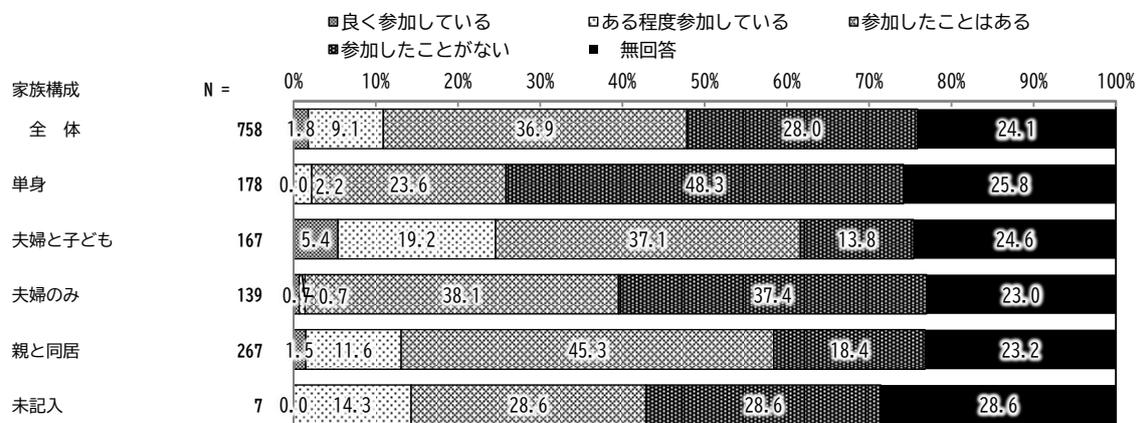


図 12-3

問 13 「4 参加したことがない」と選択した理由についてもっとも近いものはなんですか。(複数回答)

「興味がない」が最も多く 36.8%、次いで「仕事、学業で忙しい」が 26.9%であった。

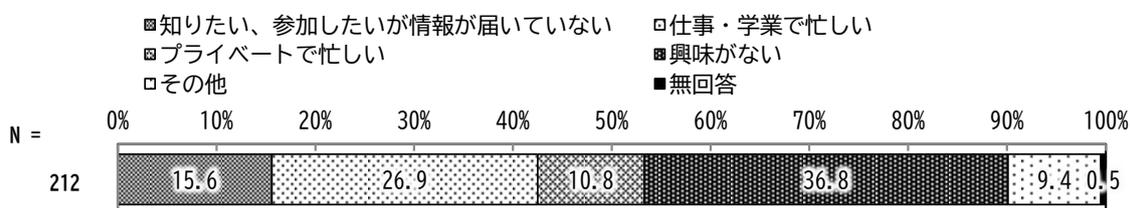


図 13-1

その他自由記述

- 一人で参加しづらい (4)
- 地域との繋がりががないので参加しづらい (4)
- 存在を知らない
- 参加の方法がわからない
- 子供がまだ小さい。たくさん人がいる所に連れていくのが大変

《将来像との関係》

参加したことがない理由について、将来像とのクロスを取ると、最も全平均スコアが高かったのは「プライベートで忙しい」で 0.79、最も全平均スコアが低かったのは「興味がない」で 0.26 だった。

① 知りたい、参加したいが情報が届いていない

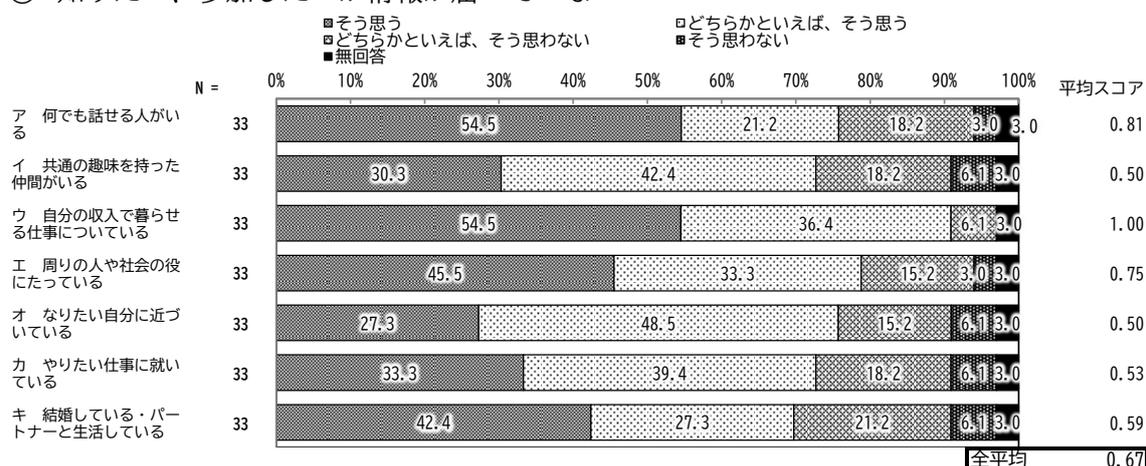


図 13-2

② 仕事・学業で忙しい

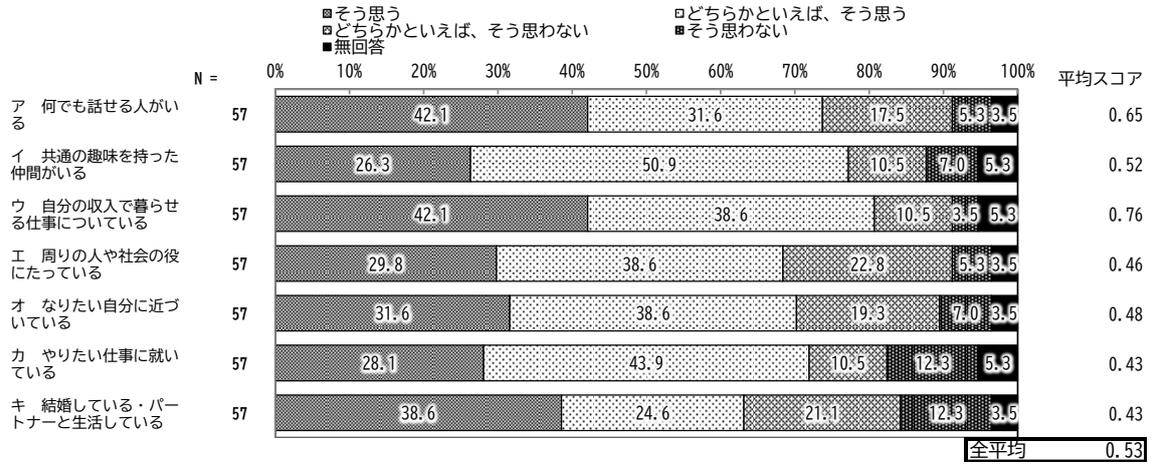


図 13-3

③ プライベートで忙しい

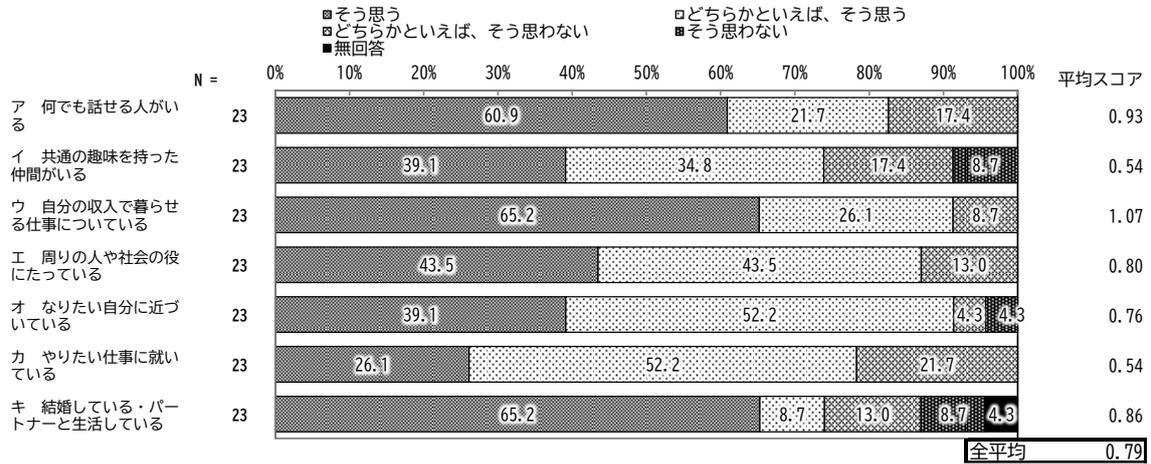


図 13-4

④ 興味が無い

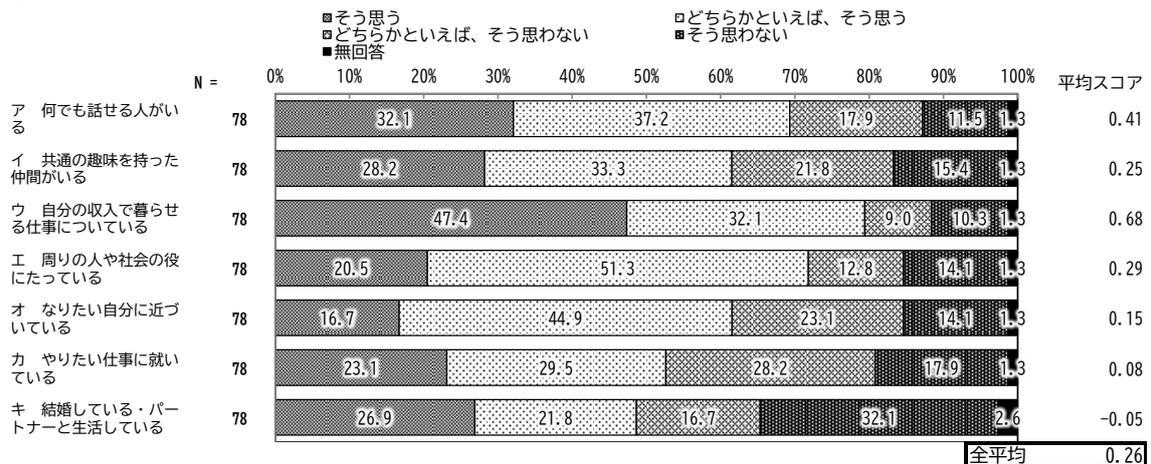


図 13-5

問 14 下記の青少年事業を知っていますか。(複数回答)

「全て知らない」が最も多く 60.6%、次いで「こども SOS の家」が 29.3%であった。

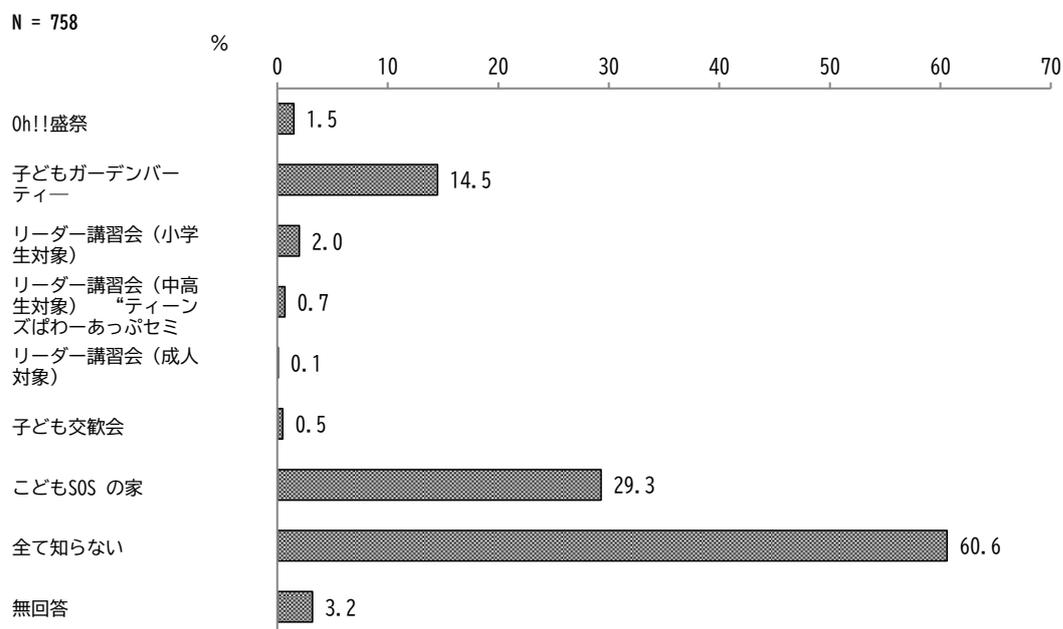


図 14-1

《年代別》

15～19歳の知っている割合が最も高く、次いで35～39歳の割合が高くなった。

N = 758

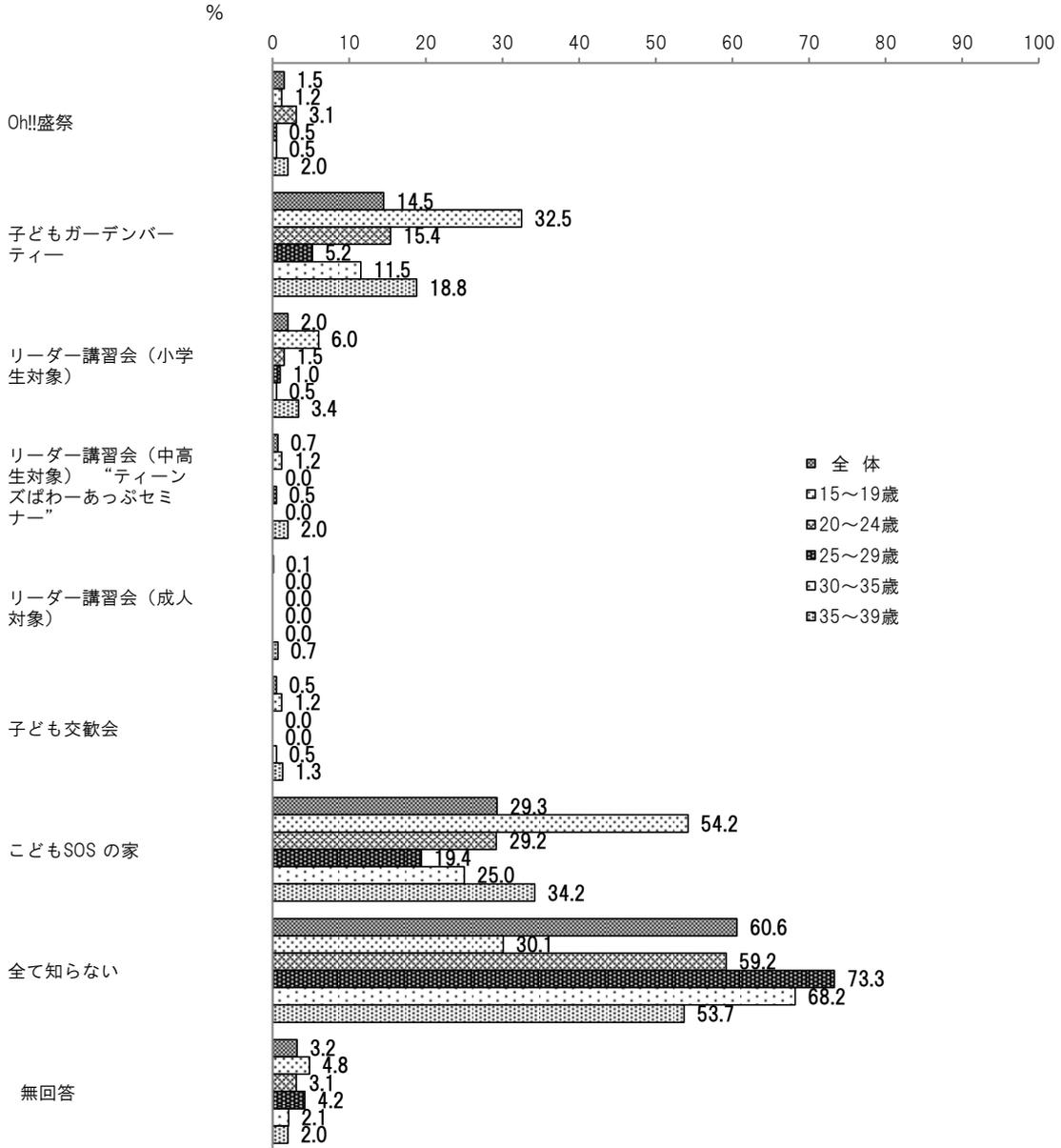


図 14-2

問 15 あなたは区からの情報や地域でのイベント等行政情報をどのような手段で見えていますか。(複数回答)

「そもそも見ない」が最も多く41.7%、次いで「大田区報」が27.0%であった。

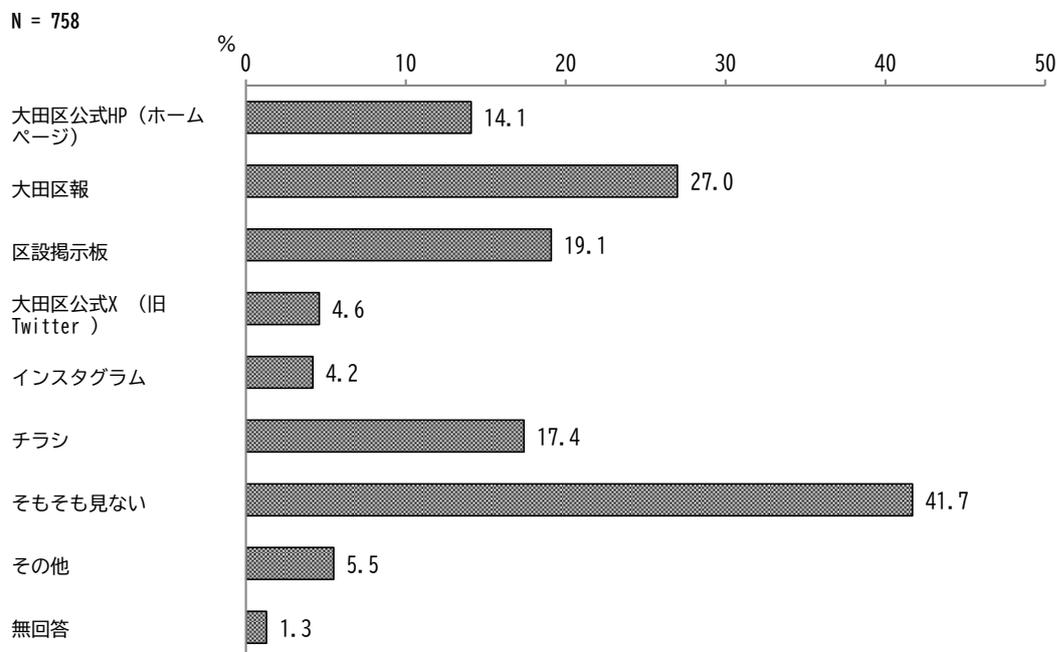


図 15-1

その他自由記述

- LINE (13)
- 回覧板、駅のポスター等 (8)
- インターネット、SNS等 (5)
- 親や友人 (4)
- 学校・保育園 (4)
- 区役所インターン
- 手段を知らない/受け取っていない (3)

《家族構成別》

「単身」、「夫婦のみ」、「親と同居」世帯では「そもそも見ない」の割合が最も高かったが、「夫婦と子ども」世帯では「そもそも見ない」割合は18.0%と低くなった。「夫婦と子ども」世帯では、「大田区報」が41.9%と最も高く、次いで「区設掲示板」が29.9%となっている。

N = 758

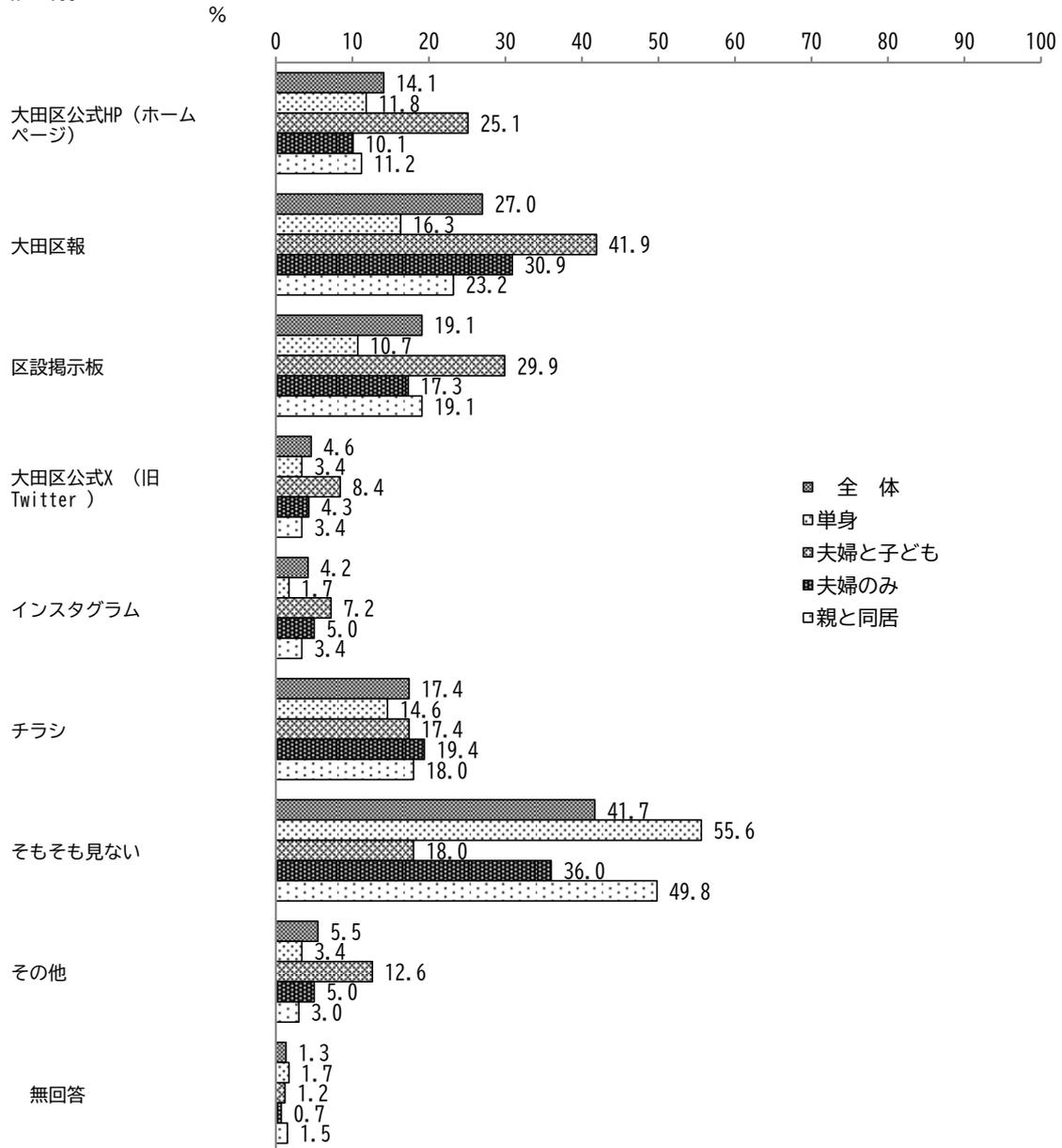


図 15-2

問 16-1 あなたは次のア～ケの施設・機関を利用したことがありますか（単数回答）

「知らない」割合が最も少ないのは「大田区立消費者生活センター」で 63.9%、次いで「大田区子ども家庭支援センター」の 74.1%であった。

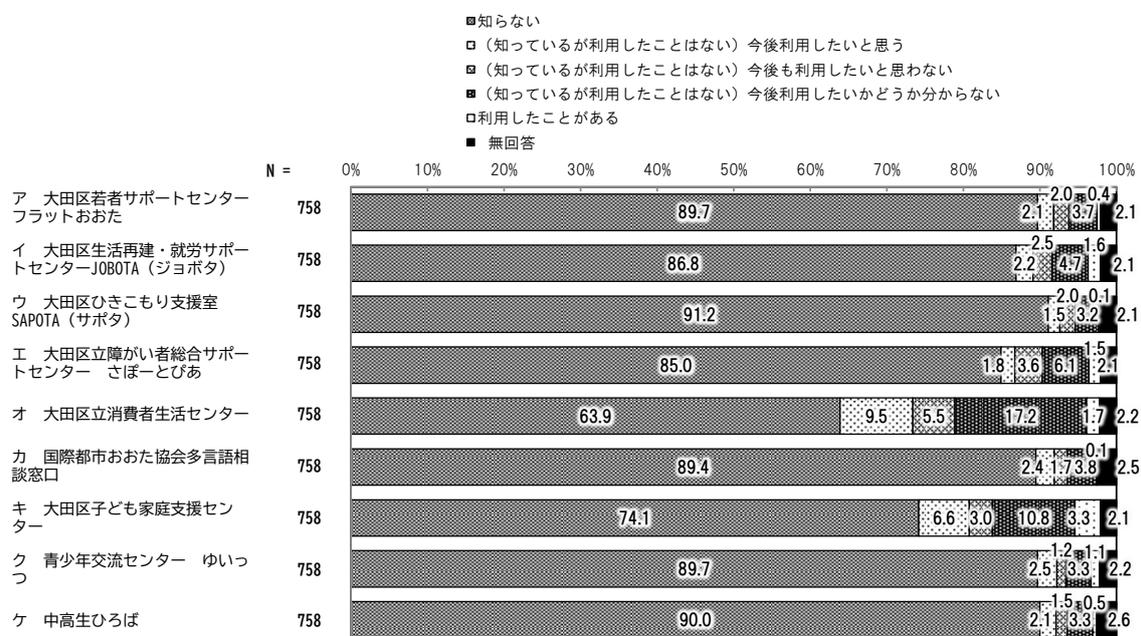


図 16-1

「今後も利用したいと思わない」「今後利用したいかどうかわからない」理由自由記述

- 知らない・分からない (17)
- まだ必要になったことがない (11)
- 役に立たない、事なかれ主義、自己保身で何もしてくれなかったから
- 職員の質が悪い、当事者意識での相談には乗ってくれず何処か他人事
- 以前、ハローワークを利用したこともありましたが、自分に合ったサポートを受けられず、親身になって聞いてもらえなかったな、との思いが残りました。その時のイメージから、区  
のサービスでは親身になって悩みを聞いてもらえないのではないかと考えています。また、  
施設のある所まで行かなければいけないというハードルもあります。若者サポートや  
JOBOTA などが最寄りの出張所に来ていただけたら利用しやすくなると思います。
- 精神的に疲れるし、監視されているみたいで辛いから。
- 利用しない方がよくないですか？
- 利用することに少し抵抗がある。対象でないものもある。
- 今は自分が利用する未来を想像したくないから
- 事前登録や予約が面倒だから
- 利用しようと踏み切れるほどの勇気が出ることがわからないから
- 興味が持てないです。よろしくお願いします
- 実生活が多忙な為、時間確保が困難である

《年代別、家族構成別認知度》

年齢層が高くなるほど、大田区子ども家庭支援センターの認知度が高くなった。大田区立消費者生活センターの認知度は50%程度だが、それ以外の施設・機関の認知度は年代によらず低い。家族構成別では、「夫婦と子ども」世帯における大田区子ども家庭支援センターの認知率は高くなっており、「知らない」割合は、48.5%となった。

① 15～19 歳

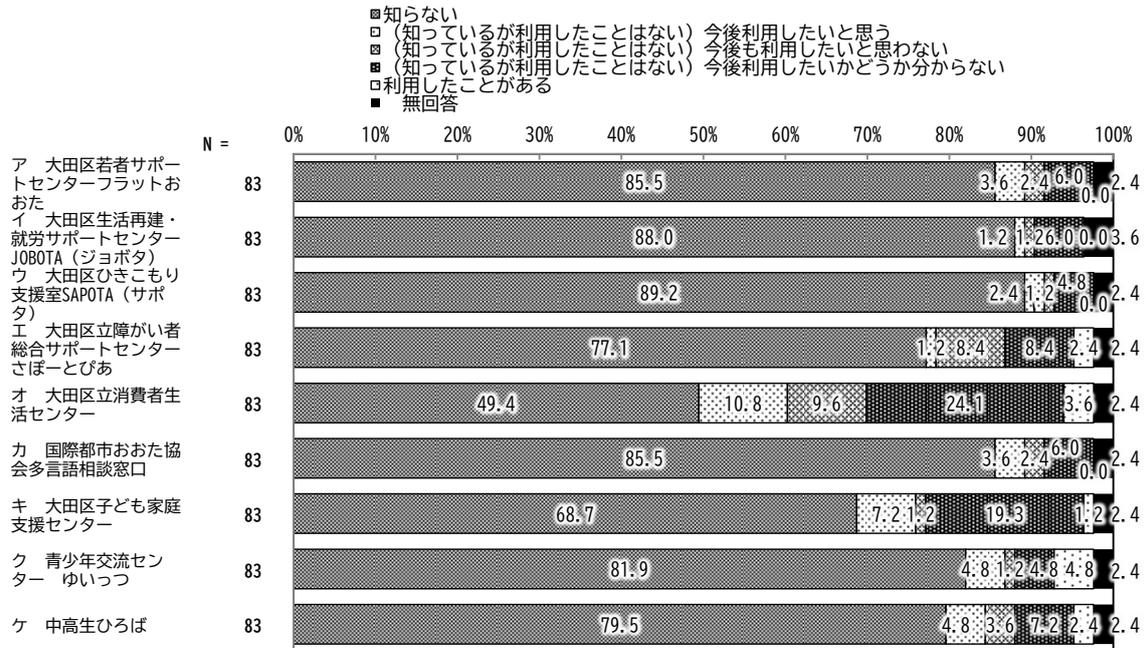


図 16-2

② 20～24 歳

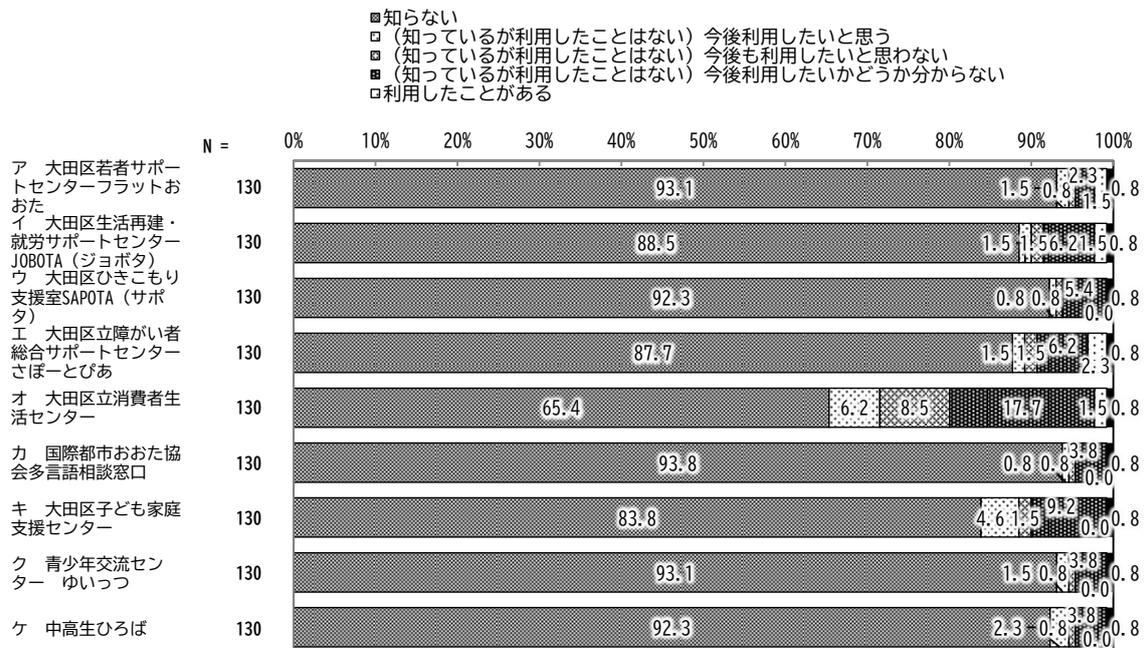


図 16-3

③ 25～29 歳

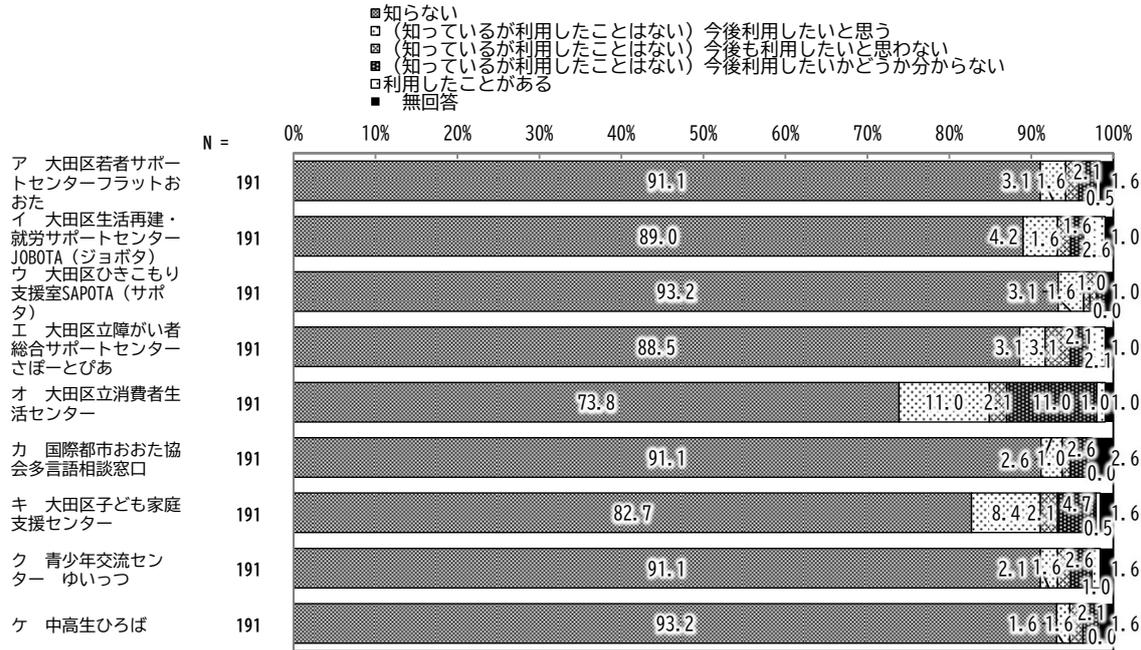


図 16-4

④ 30～34 歳

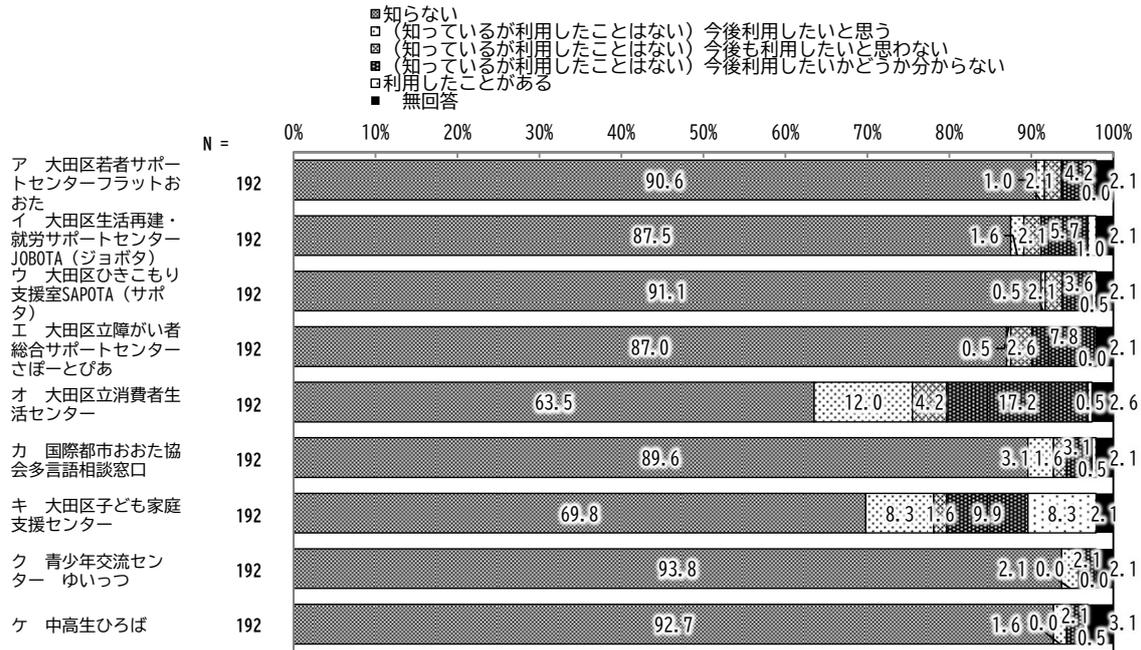


図 16-5

⑤ 35～39 歳

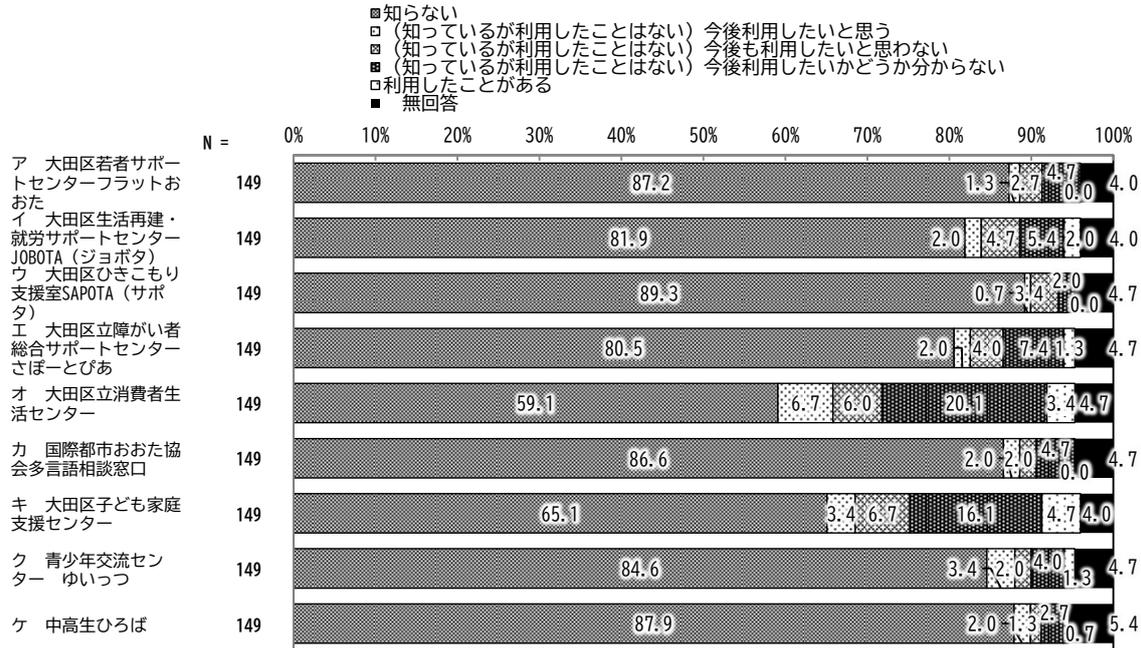


図 16-6

⑥ 単身

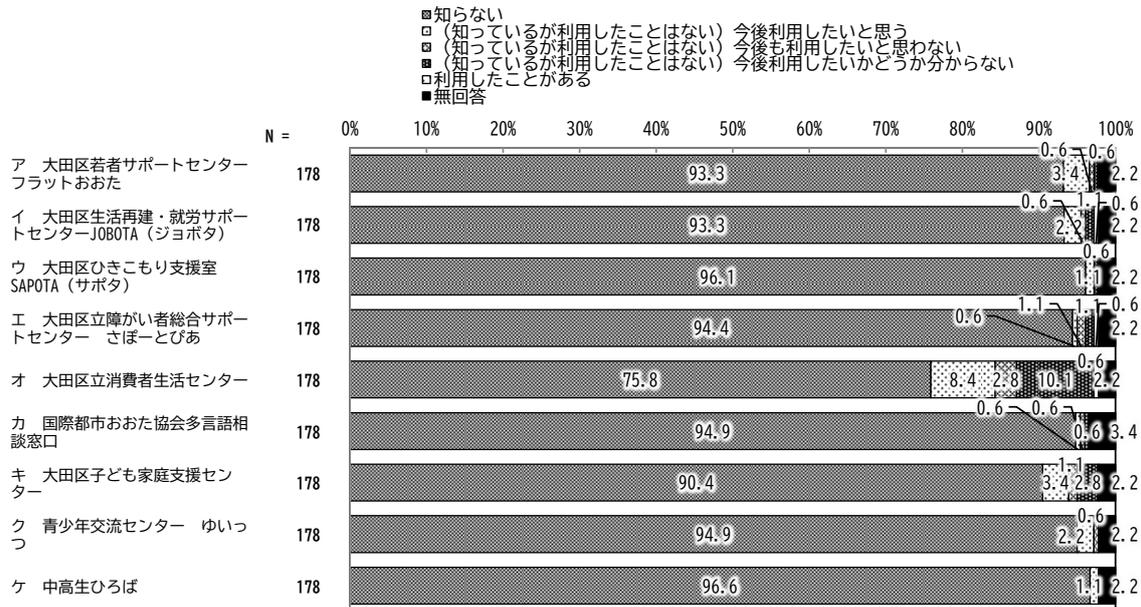


図 16-7

⑦ 夫婦と子ども

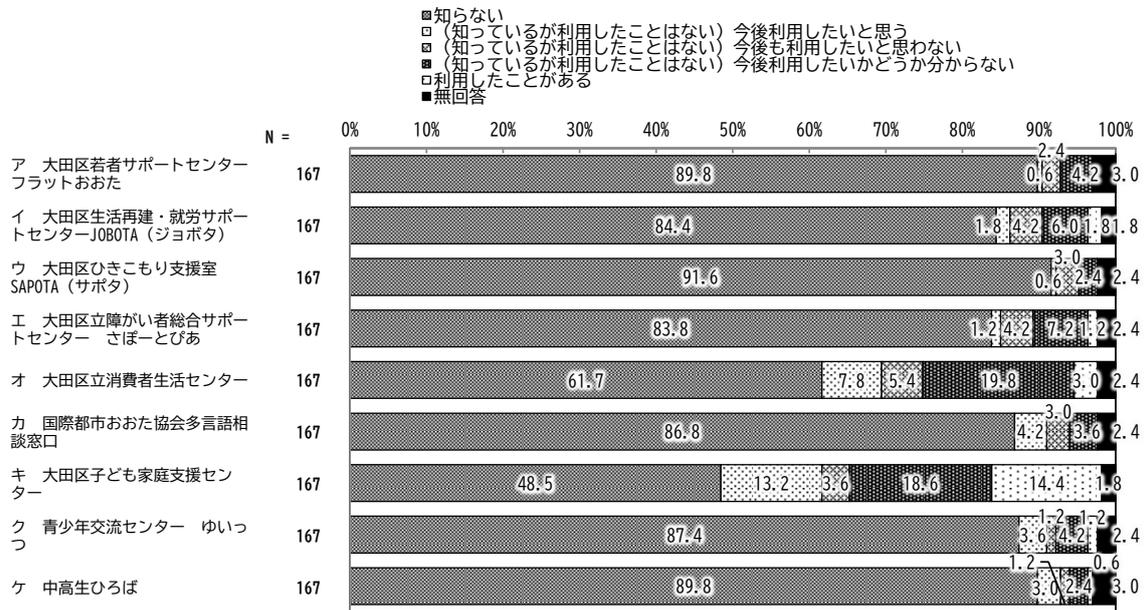


図 16-8

⑧ 夫婦のみ

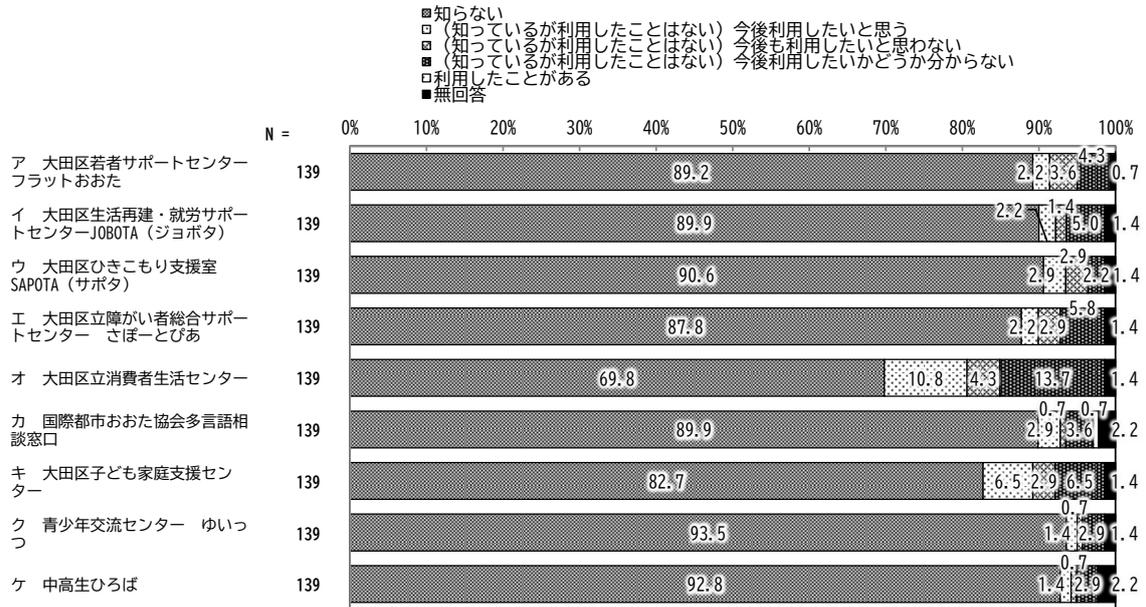


図 16-9

⑨ 親と同居

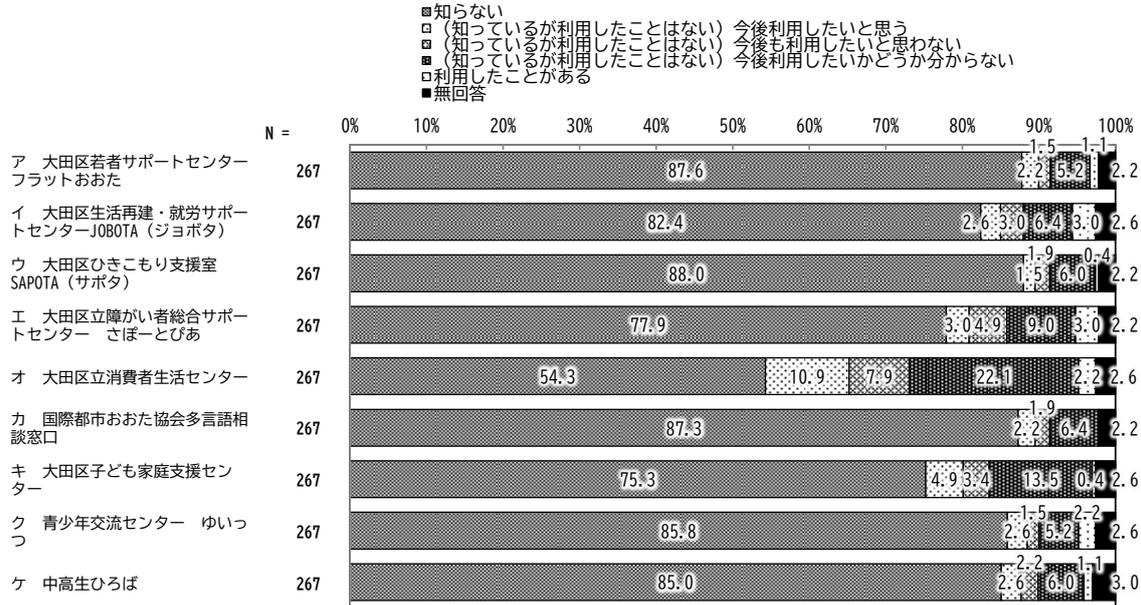


図 16-10

《悩みの相談希望別認知度》

悩みを誰かに相談したいと「非常に思う」、「思う」、「少し思う」の間で、認知度の大きな差は無かった。

① (悩みを誰かに相談したいと) 非常に思う

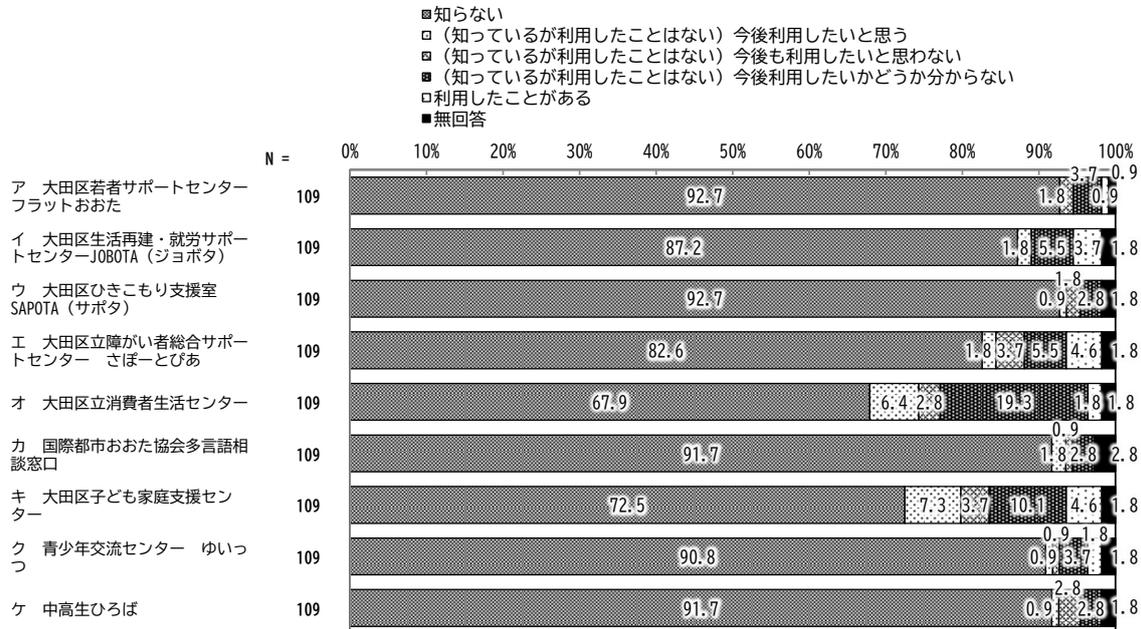


図 16-11

② (悩みを誰かに相談したいと) 思う

- 知らない
- (知っているが利用したことはない) 今後利用したいと思う
- ▨ (知っているが利用したことはない) 今後利用したいと思わない
- (知っているが利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない
- 利用したことがある
- 無回答

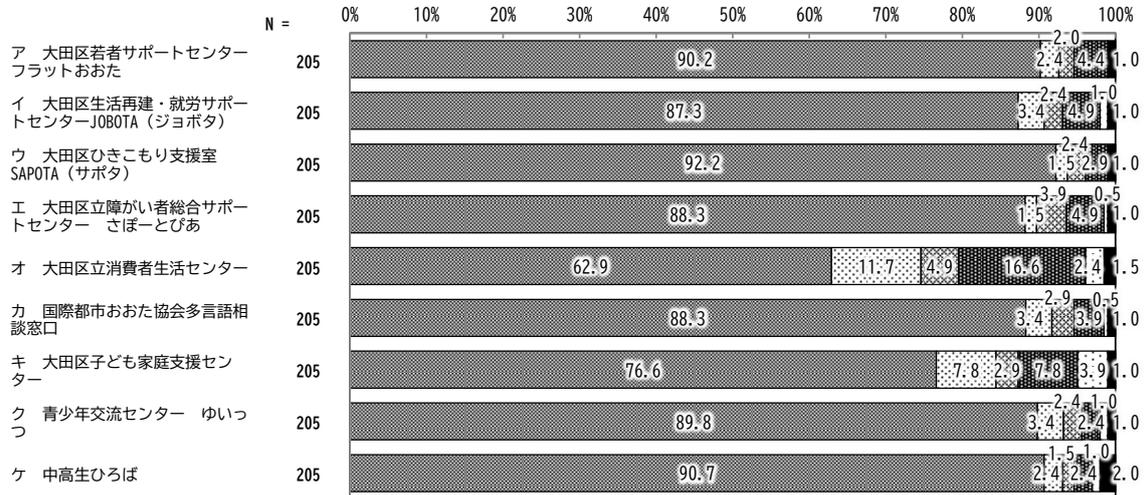


図 16-12

③ (悩みを誰かに相談したいと) 少し思う

- 知らない
- (知っているが利用したことはない) 今後利用したいと思う
- ▨ (知っているが利用したことはない) 今後利用したいと思わない
- (知っているが利用したことはない) 今後利用したいかどうか分からない
- 利用したことがある
- 無回答

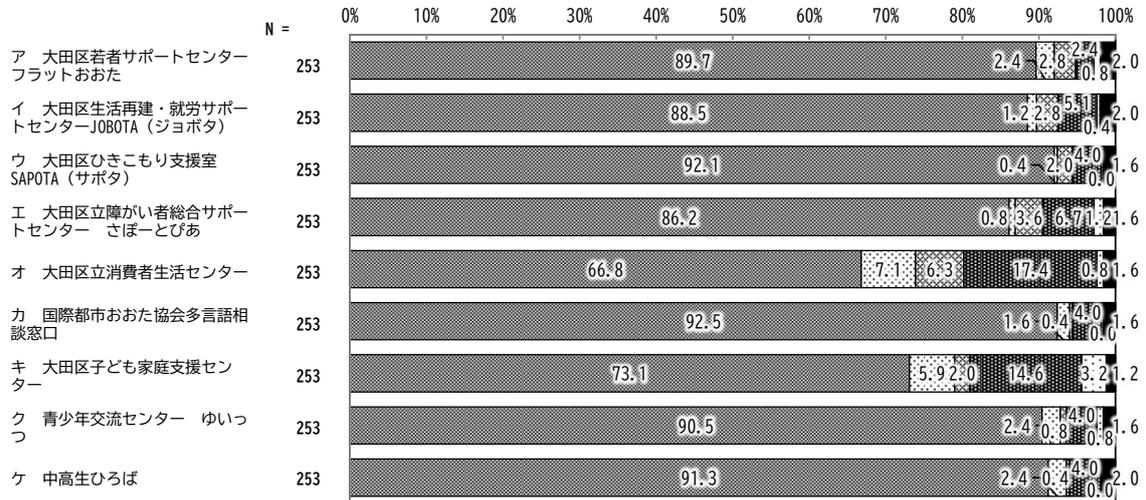


図 16-13

### 3. 「フラットおおた」におけるアンケート結果

今回のアンケートと全く同じものを「フラットおおた」を利用する若者にも同じ時期に実施し、26名の回答を得た。以下に主要な結果について示す。

#### 問2 (自己肯定感) あなた自身で次のことがどのくらいあてはまりますか (単数回答)

フラットおおた利用者の自己肯定感は一般アンケートに比べ全般的に低くなった。

##### 《フラットおおた》

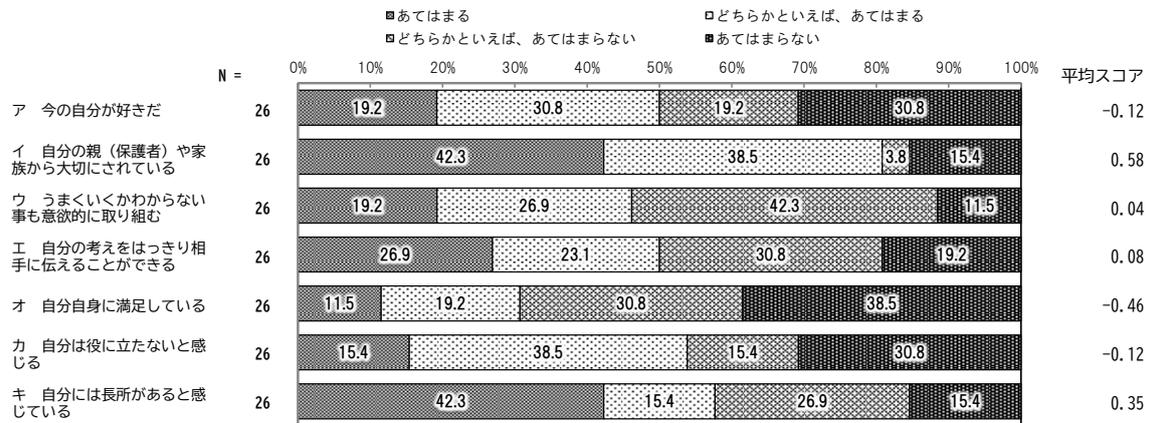


図 17-1

##### 《一般アンケート》

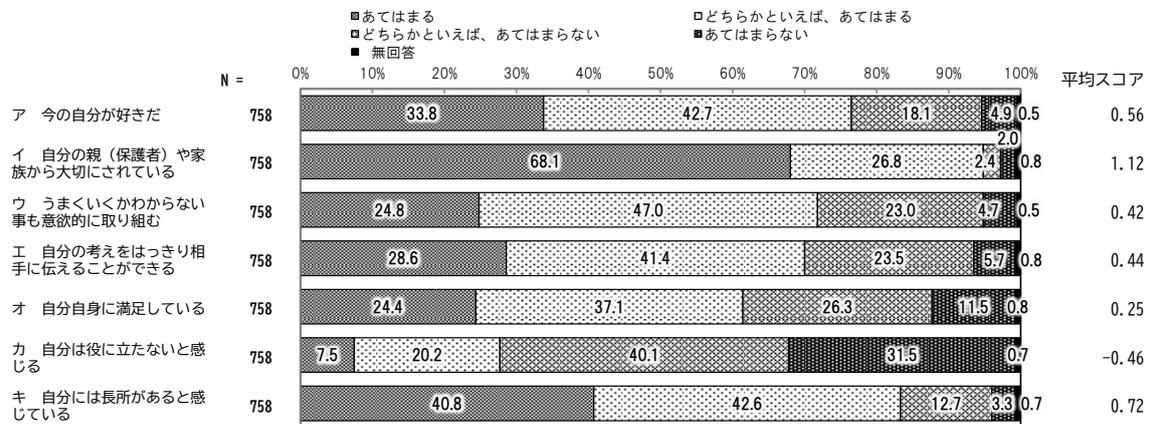


図 17-2

問3 次の場所は、今のあなたにとって居場所となっていますか（単数回答）

「自分の部屋」、「家庭」、「学校」、「職場」に対する平均スコアは一般アンケートに対して低くなった。「地域」に対する平均スコアは0.41と一般アンケートに比べて非常に高くなった。「インターネット」、「お店」に対する平均スコアも一般アンケートより0.2ポイント程度高くなっている。

《フラットおおた》

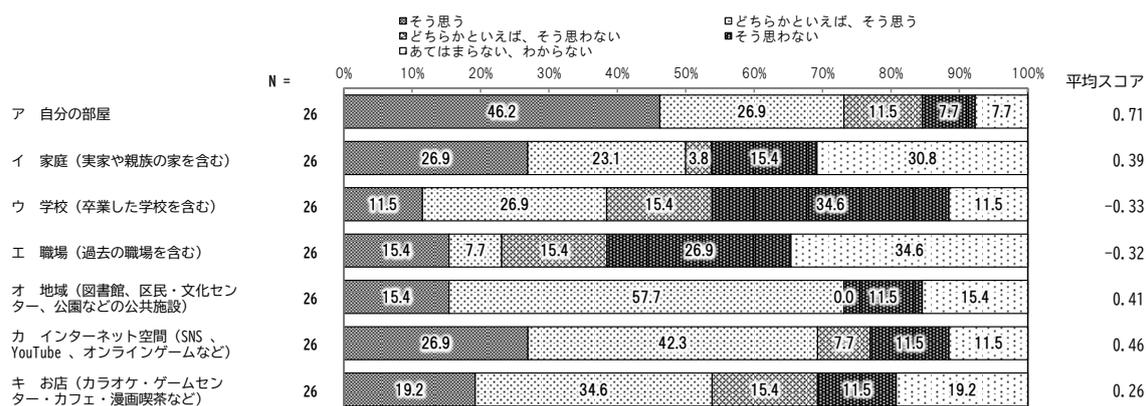


図 17-3

《一般アンケート》

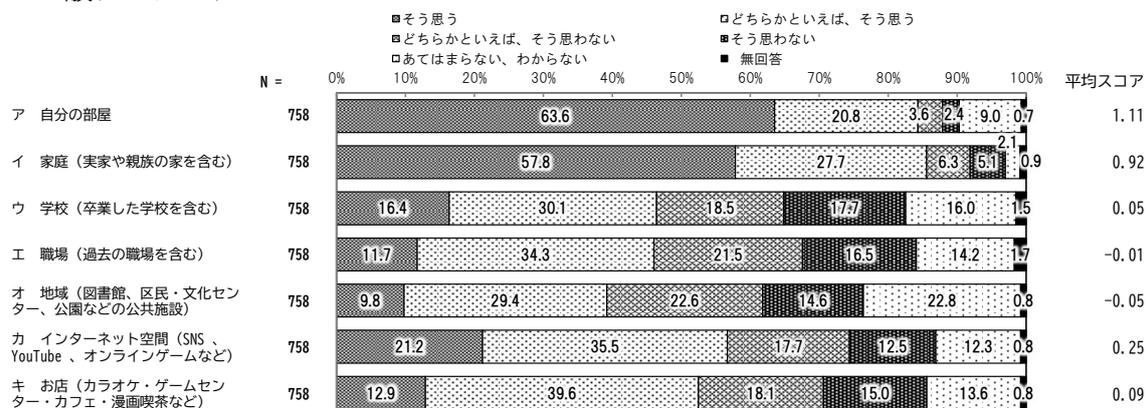


図 17-4

問4 以下の人たちとあなたのかかわりはどのようなものですか（単数回答）

かかわりの全平均スコアを比較すると、「家族」「学校・職場」のかかわりについては一般アンケートよりも低い値となった。逆に「地域」のかかわりについては一般アンケートよりも非常に高い値となっており、フラットおおた等地域におけるかかわりが大きいと考えられる。「インターネット」「趣味」のかかわりについては差がなかった。

①一緒に住んでいる人、家族、親族

《フラットおおた》

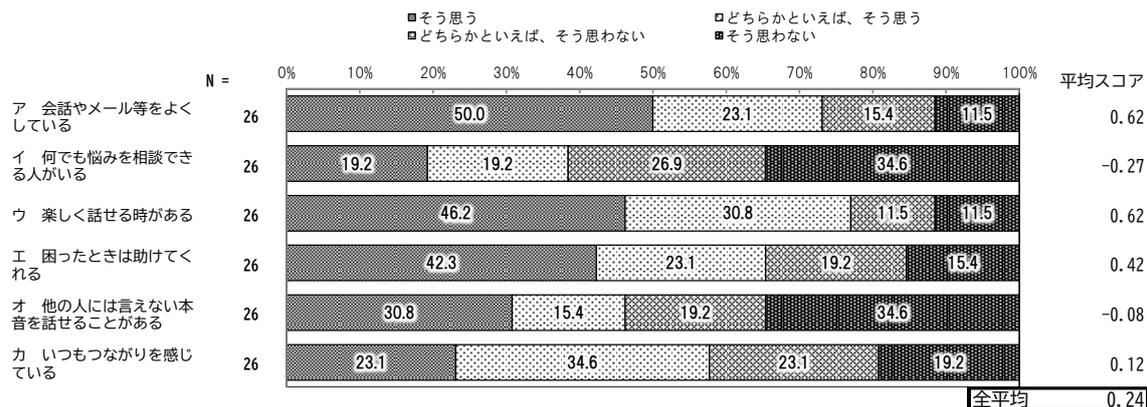


図 17-5

《一般アンケート》

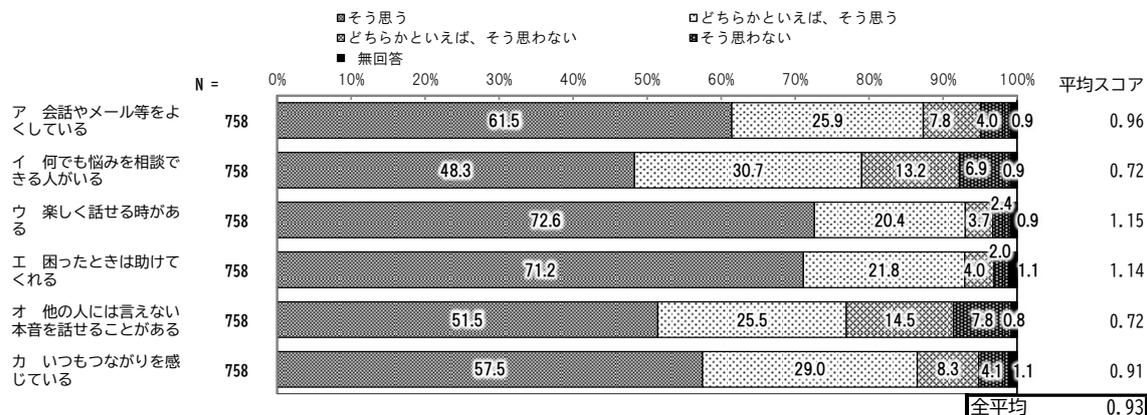


図 17-6

②学校で知り合った友人、職場アルバイト関係の人  
 ≪フラットおおた≫

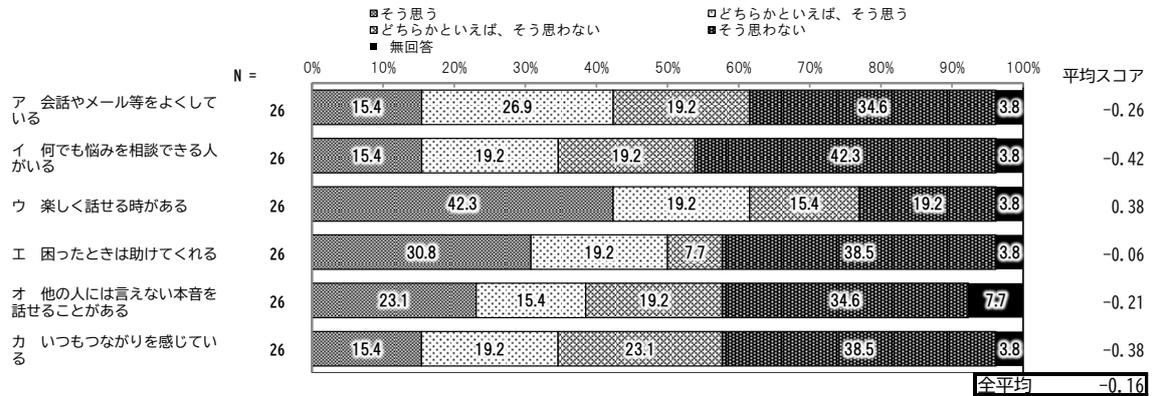


図 17-7

≪一般アンケート≫

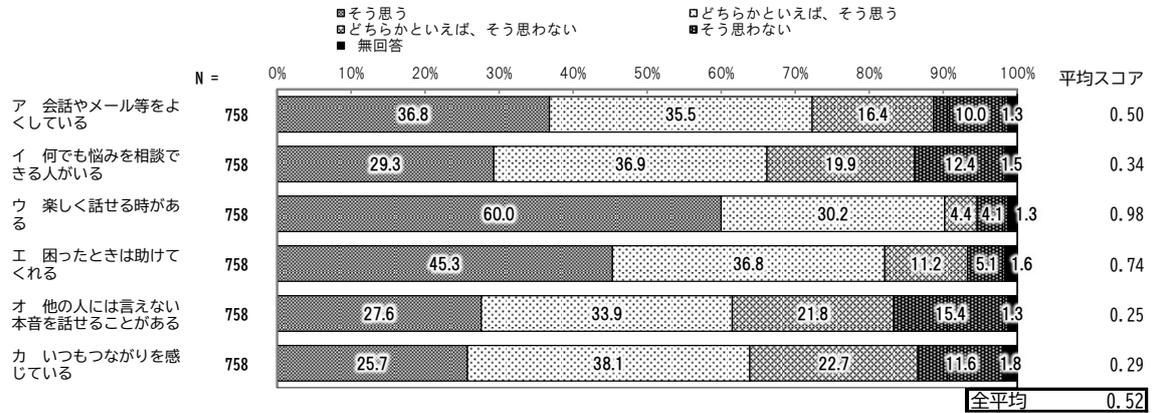


図 17-8

### ③地域の人

#### 《フラットおおた》

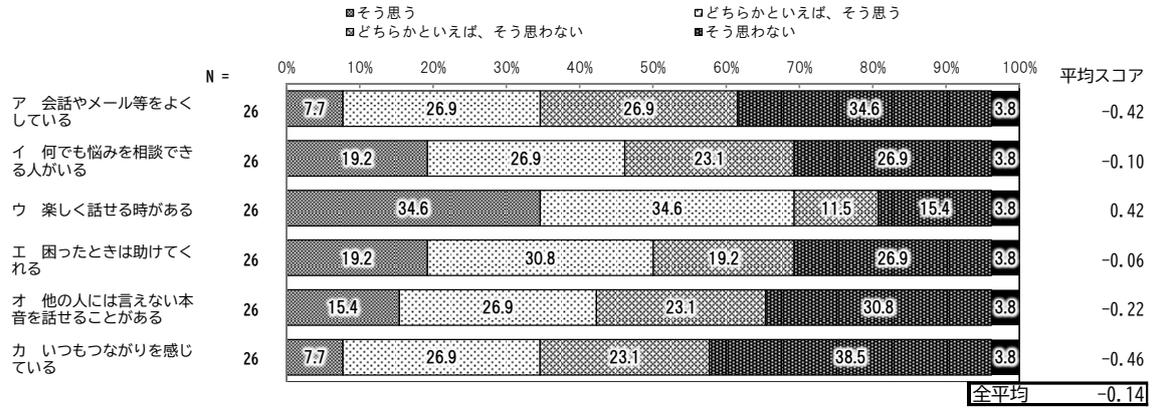


図 17-9

#### 《一般アンケート》

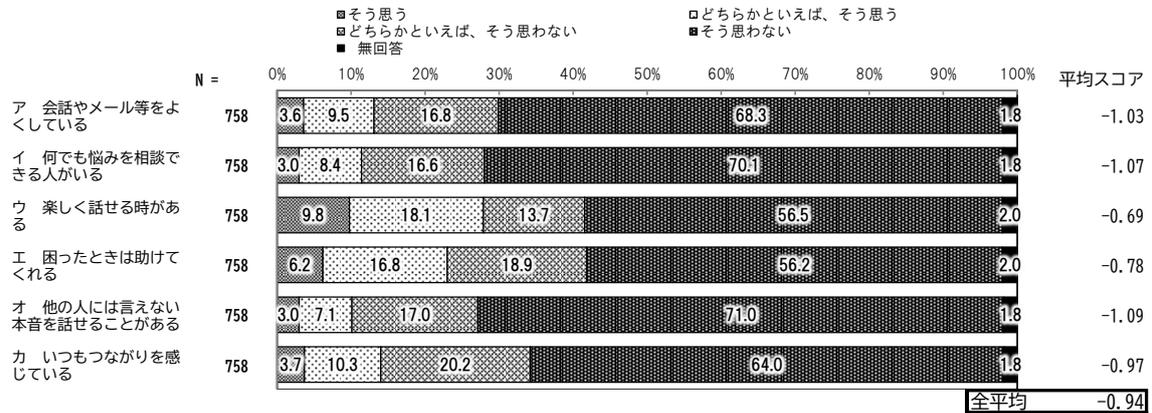


図 17-10

④インターネット上の人、グループ  
 ≪フラットおおた≫

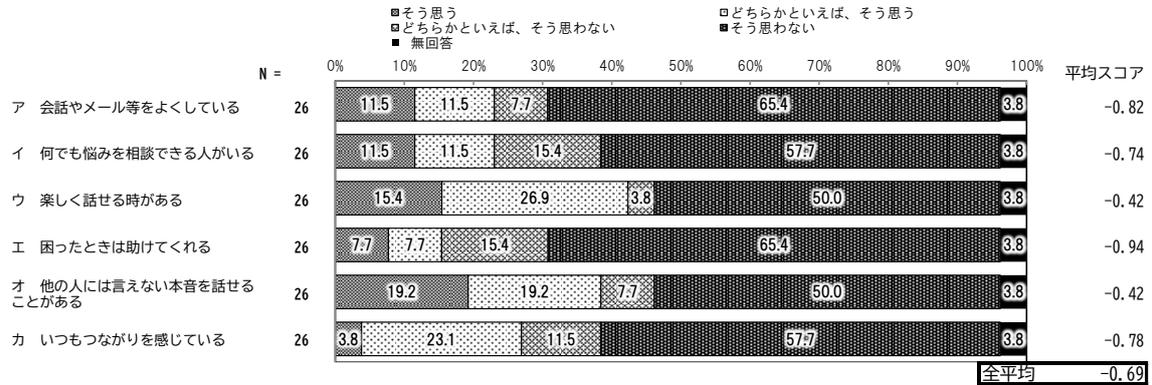


図 17-11

≪一般アンケート≫

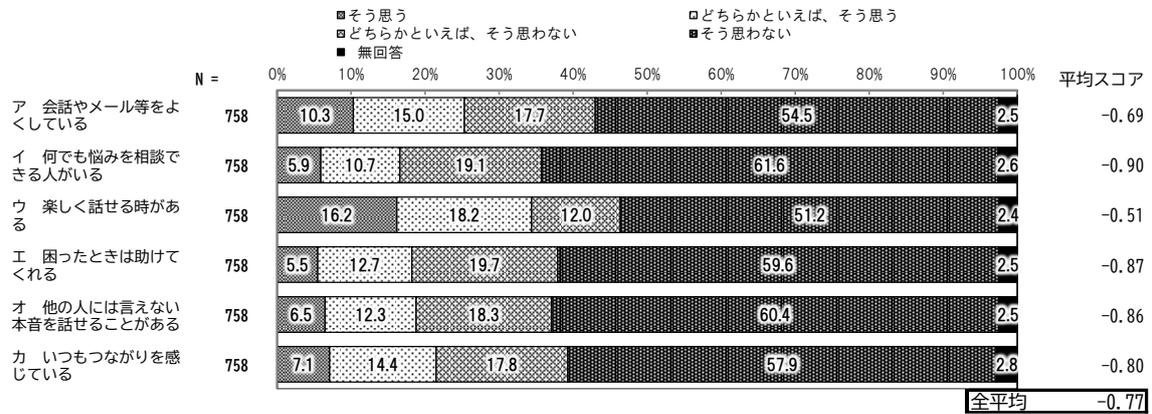


図 17-12

⑤趣味や運動で知り合った人

《フラットおおた》

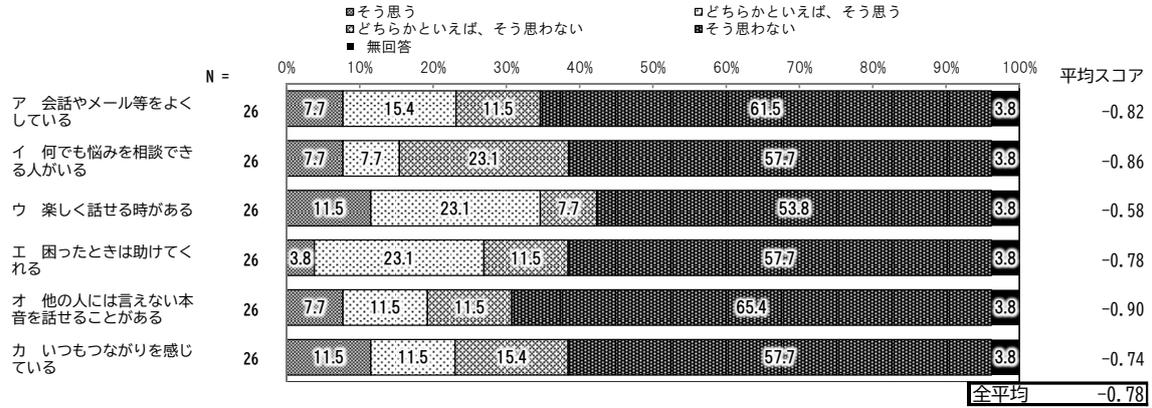


図 17-13

《一般アンケート》

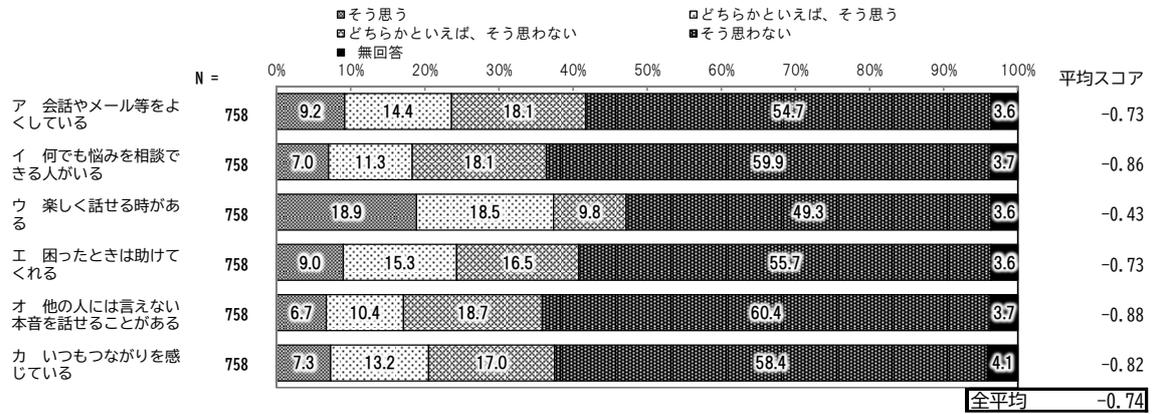


図 17-14

問8 あなたは、将来の自分がどのようになっていると思いますか（単数回答）

一般アンケートに比べて平均スコアが低くなっており、特に結婚に対する将来像の値は非常に低くなっている。一方、「そう思う」という回答だけを見ると一般アンケートとの割合の差は低く、多様な将来像を持つ利用者が居ることが分かった。

《フラットおおた》

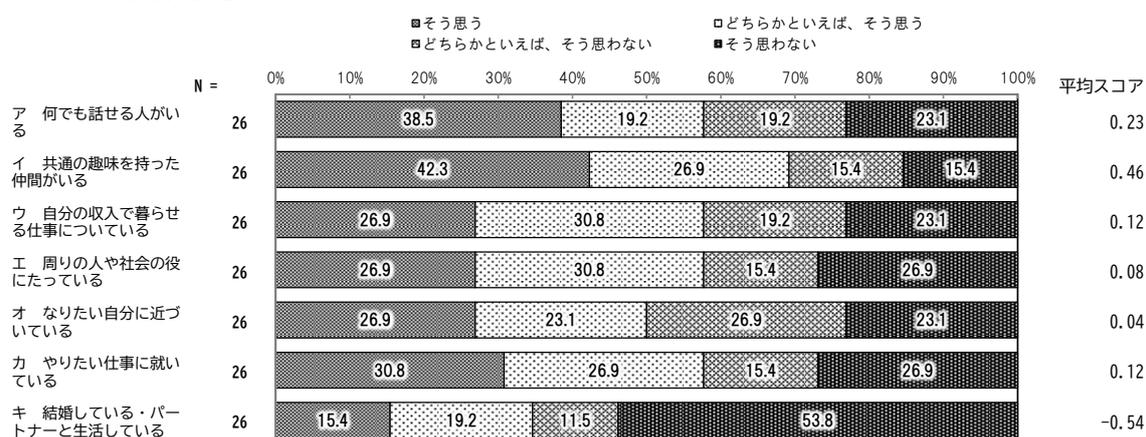


図 17-15

《一般アンケート》

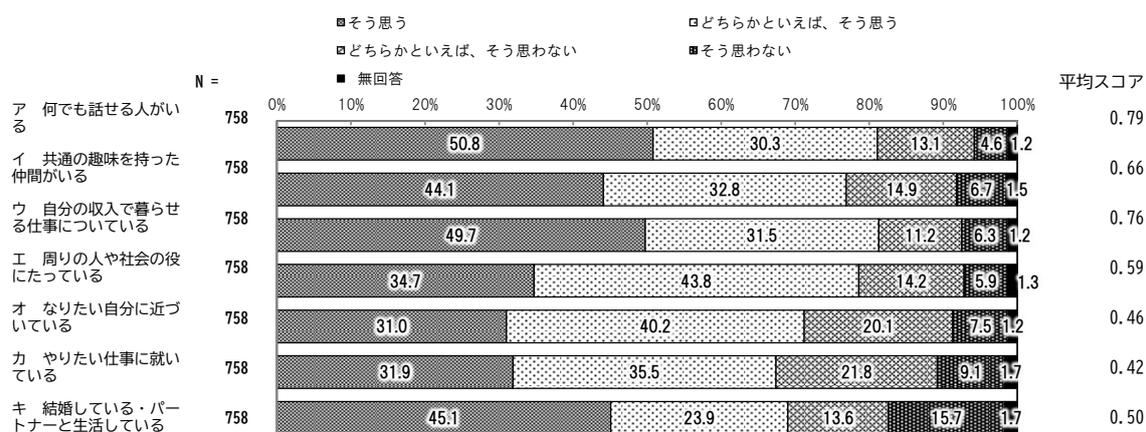


図 17-16

問 9-1 あなたは現在、どのような悩みや相談事がありますか（複数回答）

ベスト3が「お金のこと」、「健康・体力のこと」、「自分の将来のこと」であることは変わらなかった。一般アンケートに比べ20ポイント以上高い悩みは、「進学のこと」、「就職のこと」、「健康・体力のこと」であった。

《フラットおおた》

N = 26

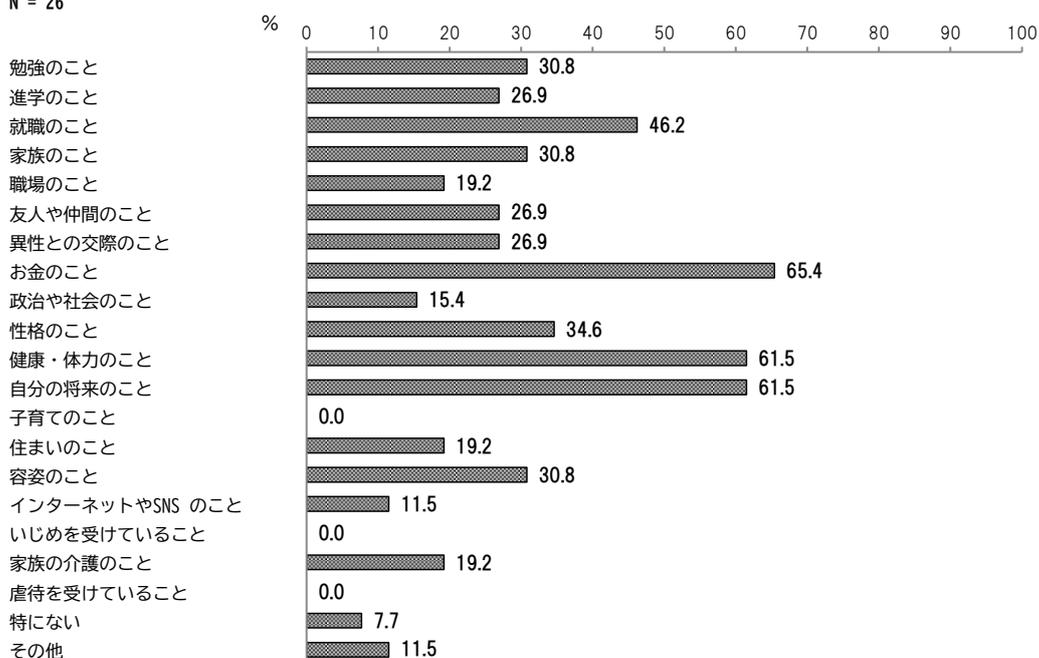


図 17-17

《一般アンケート》

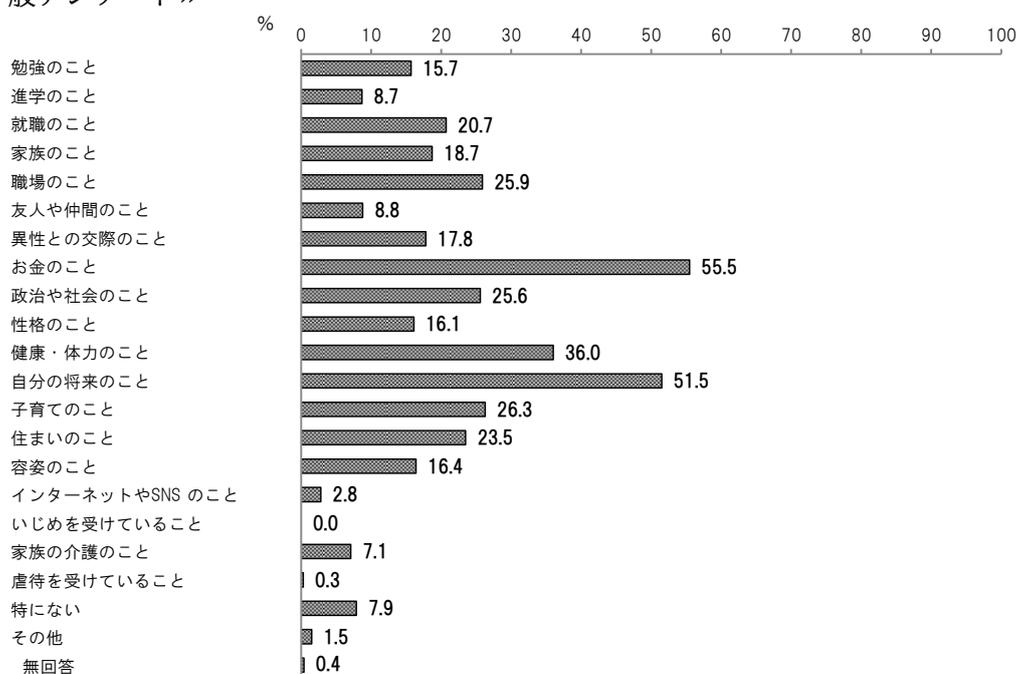


図 17-18

問 9-4 あなたは普段悩み事を誰に相談しますか。(複数回答)

一般アンケートに比べ、「カウンセラー・精神科医」、「NPO など民間の相談機関の人」の割合が非常に高かった。

《フラットおおた》

N = 24

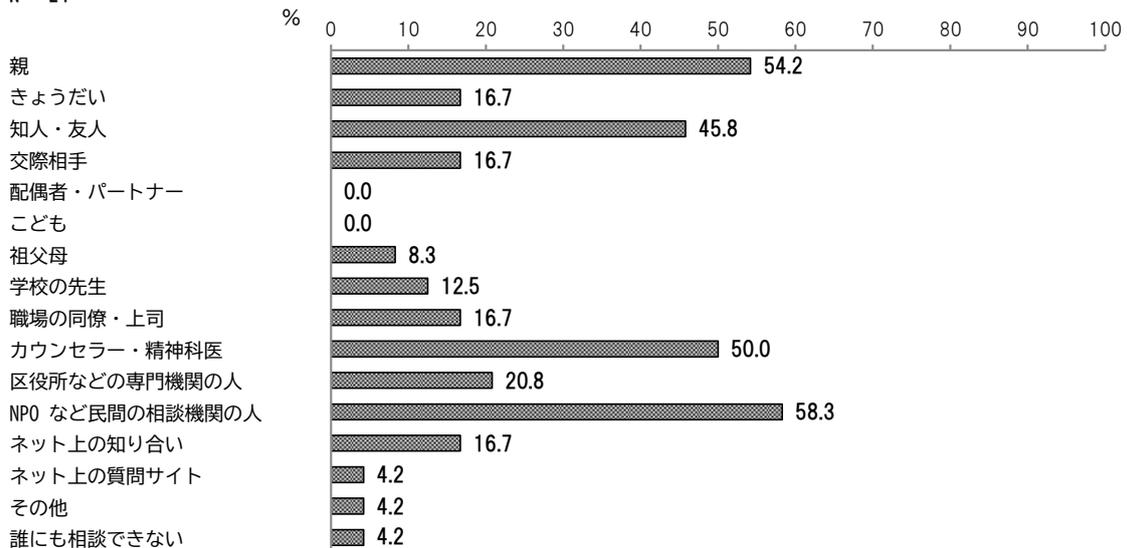


図 17-19

《一般アンケート》

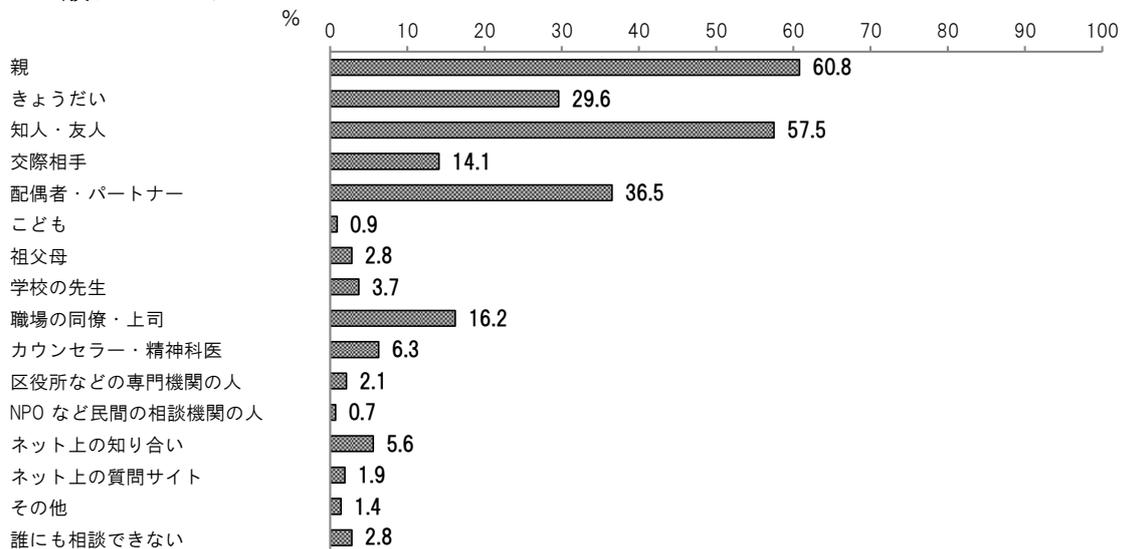


図 17-20

問 10 悩みの相談以外で、若者に対する必要な施策、制度はどのようなものだと思いますか。

「自由に過ごせる場」、「専門家に気軽に相談できる窓口」について必要が 7 割程度あった。「自分の意見を発表できる機会」、「イベントやボランティアなどの自主的な活動を支援」については倍以上の回答があった。

《フラットおおた》

N = 26

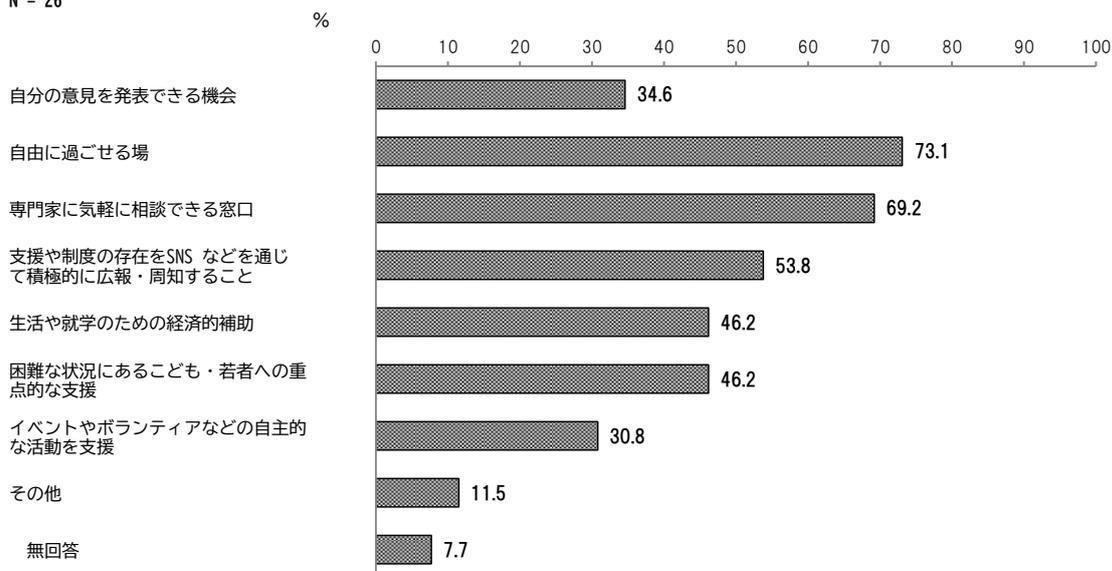


図 17-21

《一般アンケート》

N = 758

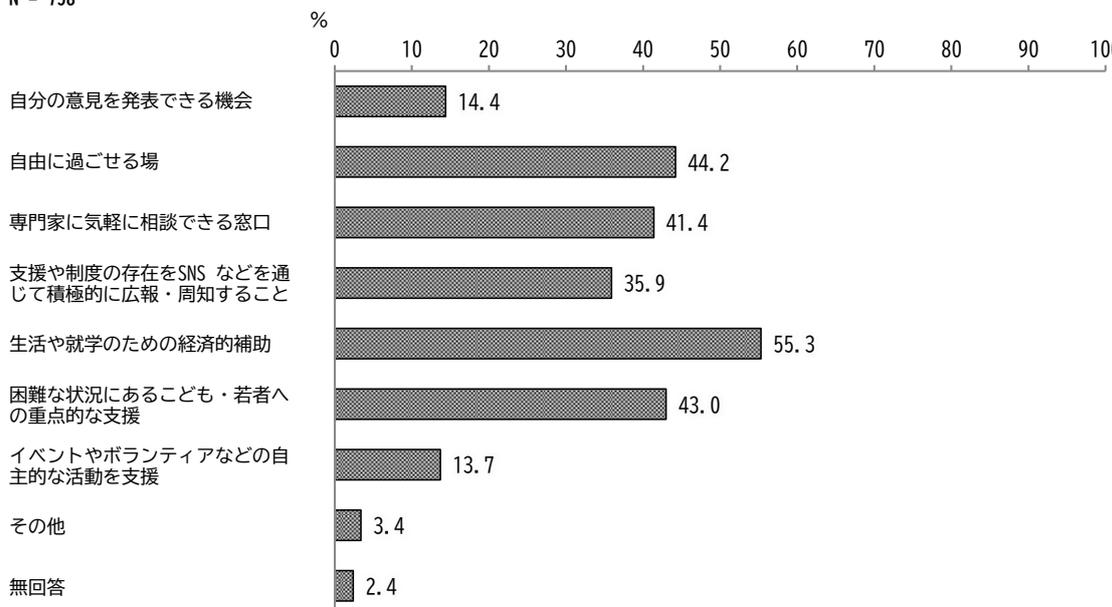


図 17-22

## 5. ヒアリング結果

### (1) フラットおおたヒアリング

実施日時：令和6年12月4日（水）13時30分～15時 参加者6名

場所：大田区若者サポートセンター フラットおおた

#### ①自由に過ごせる場について

・家から遠いが通っている。大田区は広いのでフラットおおたのような居場所が4つの地域毎にあったほうが良い。駅前のような便利なところがあると良い。

・フラットおおたは現状15歳～39歳が対象なので、15歳未満の子ども達も対象としても良いのではないかと。いじめに遭っている子とか、親子喧嘩をしている子をよく見かける。

・こういう場所があることを知らない人が多いので、知る方法を充実させることが必要。ここを知ったのは品川のフリースペースのチラシで、区内の施設情報では分からなかった。

・15歳以下の子の支援はもちろん重要だが、場所を分けて欲しい。居場所として使わせてもらう時に静に過ごしたい時もある。フラットおおただと一人になりたいときの環境は十分用意されている。

・聴覚過敏で声が苦手。予想外の音でイライラしてしまうからノイズキャンセリングとかを活用しているが、静かな場所があるのは大事。

#### ②相談したい専門家について

・大学進学したいとき、塾に行けなくても(入試形式・経済的なことなどの)進路相談できる・勉強を教えてくれる場所があると嬉しい。

・現状、奨学金はあるが、20代、30代の進学したい人向けの奨学金(経済的制約や、給付型、利子なし等)制度があると嬉しい。

・小中学生に安い価格で勉強を教える支援をしていたが、家庭問題や経済格差なしに勉強できる環境があった方がいいのではないかと。

・ここにもいるが悩みを聞いてくれる人。

・就労の相談できる人、復職じゃなくてスタート支援のようなこと。

#### ③他に必要な場所のイメージ

・本が多く新刊もすぐに入れてもらえる図書館が欲しい。飲食ができるスペースがあるような一日中滞在できて居場所になるような図書館が欲しい。イメージは大和市の図書館。

・高齢化の進行により、最近タクシードライバーの8割が腰痛に悩まされていると聞いた。老若男女問わず癒されるしストレス解消のためにも、マッサージ店や腰痛緩和ベルトなどを販売するお店があってもいい。

・気持ちの波が激しい時があり、特に落ち込むのは夜が多い。フラットおおたは9:00～20:00開館なので夜に(24時間いつでも)チャットでもいいからすぐに誰かに話を聞いてもらえるようなサービスがあれば安心する。

・老人ホームで働いている。介護系の資格は持っているが、ステップアップとして看護師等の資格を取りたい。働きながら、学校に通って、生活が成り立つかが不安でなにかステップアップの支援が欲しい。対人支援職は、人手不足なので社会人からでも目指したい人は多いのではないかと。

・通信制の大学に通っているが、あまりおもしろくない。通学制に変えたいがお金がかかるからどうにかできないか。年齢的ファクターもあるし、奨学金を借りるのも利子の関係から憚られる。お菓子作りが好きでパティシエも考えたが、製菓学校もお金がかかる。様々な合法を考えてはいるが、難しい。親と意見も合わない。

・車の免許を取らず学校を卒業してしまっていて、資格があれば、仕事の幅が広がると考えている。介護職しながらの免許取得は、お金の問題がすごく大きい。

④自分の意見を発表できる機会、イベントやボランティアなどの自主的な活動を支援について

・イベントやボランティアに対してだが、ここでも楽器演奏、歌ったりしている。品川区でも参加したりしたが役所に押し付けられているような気分だった。自分たちで企画してやってみたい。

・積極的な性格じゃないから、なにか紹介してもらえればありがたい。自己肯定感が高くないので誰かの役に立てていることを実感できるものがあると嬉しい（フラットおおたでもやっているが）。

・スポーツについて話す場(フラットおおた、ネット等)があればいい。いろんなコミュニティが欲しい。

⑤自分が区長、都知事になったら？

・政策に関する情報がわかりにく過ぎる。鬱等で認知的機能が低下している時に、必要な情報が何かを選別できない。あなたは一人じゃないというサイトに行っても、結局自治体のサイトに移ってしまい、同じことになる。現状は情報が多く、知りたい内容じゃない無駄な広告なども多すぎて、もっと一目でわかるような工夫をして欲しい。ウェブの情報だけでなく区の掲示板に貼るなど目につきやすいような、困っている人はここに！的なダイレクトに情報がわかるようなものを作って欲しい。

・教育を大事にしたい。田舎にいたから学校の選択肢が少なかったが、東京は沢山あるし、行きたい所に行けると思う。家の差でそういう選択が狭まらないようにしたい。専門的な職業支援を受けられる、お金の支援の相談ができる場所を作って欲しい。ただ、自分自身そういう支援を受けたが、通信制の大学に行きたい、週三回くらいバイトしたいと訴えたが、望む対応を受けられなかった過去があり、何とかしてほしい。

・スマホを変えた時に、契約等の手続きが複雑で、機械に疎い人たちは大変なのではないかと思った。もっとシンプルにわかりやすくなってほしい。

・図書館を中心とした複合施設がほしい。

⑥最後に言いたいこと

・フラットおおたが日曜日やっていないのがさみしい→365日24時間やってほしい、どこかの施設は空いてほしい。

・金銭的支援は若者にとってとても大事。

・博物館をリニューアルしてほしい。

・資格勉強をする場所に困る。図書館改修中なのと開いていても仕事終わりに行こうとすると開館時間に間に合わない。社会人になったから場所がむずかしくなった。ファミレスなどが選択肢になるが、勉強禁止の張り紙が張られるようになった。

## (2) 子ども若者意見交換会

実施日時：令和6年度12月15日(日)14時～15時30分 参加者6名

場所：消費者生活センター 第4集会室

### ★地域でのつながりづくり、地域活動の場や居場所の充実

- 困りごと、悩みごとができたとき、相談できる人の顔を思い浮かべることができるようなつながりを感じる安心できる地域社会
- 単身世帯でも気軽に参加できる地域活動や地域のつながりの場の充実
- 地方出身でも地域とのつながりができるイベントの充実（ボランティアとしての参加など）
- 出会いの場
- コミュニティ FM の立ち上げ
- キャリア教育を軸とした地域コミュニティの形成
- 若者のうちに地域で活躍できる居場所がある状態に
- 積極的な層を呼びかけ人を増やす（特に中学～大学）
- 公立の学校でワークショップを実施
- 大田区に住み続けたいと思う体験を小・中・高のうちに整備したい
- 社会参加の機会の創出
- 体験機会を増やす
- 同世代と交流できる場の提供
- フラットおおたが使いにくい所へ移転してしまう…
- フリースペース的居場所→公園、カフェ、図書館、イベントスペース的広場 etc…
- ネット活用した居場所作り（24H）
- 好きな時に気軽に行くことができる場所の提供（話を聞いてもらえるなど）

### ★若者の課題を解決する仕組みづくり、議論の場や区への提言機会の確保

- <現状>点→線→面→引っ越し、災害→課題がでてから利用
- 若者をターゲットとしてアプリケーション開発
- 若者で議論できる場を継続的に
- 若者の課題は若者で議論しないとリアルな課題・要望は届きづらい
- 子どもによる子どものための協議会→区への意見として提出

### ★若者が住みやすいまちづくり、治安の向上、定着支援、商業・娯楽施設等の設置

- 企業との連携 もっと若者向けの
- 選挙時の投票特典（若者向けの）→企業連携
- 徳井チャンネル→徳井が飲み歩きしているのを PR に活用
- 目にみえるイメージ
- 犯罪や非行が少なく体感治安のよいまち（コンビニや公園に夜間中高生が溜まらない）
- 治安どうなの？
- 一人暮らしの総合サポート（引っ越し、手続き、生活 etc…）
- 東京都版の定着対策
- 商業・娯楽施設等の設置
  - 大型商業施設（特にシネコン）
  - 映画館
  - 映画館の設置
  - ショッピングセンターの設置
  - ドッグラン（多くの）設置
  - 音楽ができる所

**★若者向けの情報発信の充実**

- 区の HP がわかりにくい
- 区の魅力を知ってもらう（紹介、発信、体験）
- 若者課題向けのアプリ・情報発信収集
- 図書館で勉強しようとする混雑している。公共施設の自習室開放と情報発信
- 粗大ごみ回収サービス（簡単に、もっと便利に）

**★大田区の特徴を活かしたまちづくり**

- 強み ○アクセス ○外国人多い ○昔ながらの街並み、風土
- 大森流通センターから都内各所へ行きやすく
- 環七の交通の便を良くするなど移動の手助け

**★区有施設の使いやすさの向上**

- 人口・広さを活用したイベント施設
- JOBOTA の使いやすさ向上
- 産業プラザ PiO や流通センターをもっと利用しやすく
- 公共施設の自習室開放

**★困難を抱える若者への就労・相談支援**

- ハンディをお持ちの方の就労支援（年齢要件の緩和で企業側に特典など）
- ヤングケアラーの支援 頼ることが出来る人や制度
- 

**★困難を抱える若者への金銭的な支援**

- 家賃の助成
- 資格を受講するための助成
- 奨学金の補助
- ひとり親や兄弟が多い家族への支援（学費など）

## 文化講演会の実施報告について

基本構想に基づき、文化による心ときめく豊かな地域づくりを進めていくにあたり、区の文化資源を広く発信することを目的に、文化講演会「東京国立博物館特別展『はにわ』を担当した研究員と語る！おおたの古墳の魅力」を実施した。

### 1 概要

- (1) 日 時 令和7年2月13日（木） 午後7時から8時30分
- (2) 会 場 大田区民ホールアブリコ 小ホール
- (3) 参加人数 93名（定員100名）
- (4) 申込方法 logo フォーム、電話
- (5) 広 報 大田区報、区ホームページ、区公式X
- (6) 配布物 区の文化資源を紹介したカード
- (7) その他 会場で、大田区立郷土博物館の図録「矢を放て！」を販売

### 2 内容

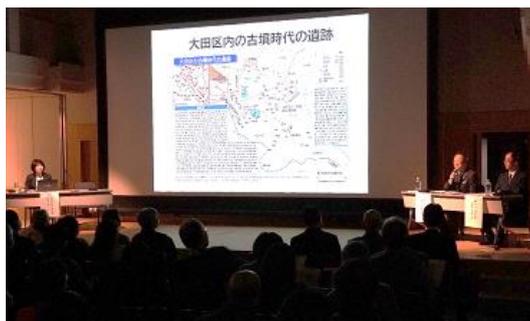
東京国立博物館の河野正訓主任研究員を招き、大田区長、大田区立郷土博物館の斎藤あや学芸員と共に二部構成で実施した。

- (1) 一部：東京国立博物館特別展「はにわ」、大田区立郷土博物館特別展「矢を放て！～関東の弓矢、一万年～」の振り返り
- (2) 二部：大田区長を交え、区内にある古墳の魅力等のクロストーク

### 3 実施結果

定員を上回る申し込みで、多くの参加者へ身近に文化資源があることを伝える場となった。また、今後の文化事業に期待する声が寄せられた。以下、参加者アンケートを一部抜粋する。

- ・住んでいる町内にも古墳があると知って驚いた。歩いてみたい。
- ・展示の裏側、研究員・学芸員の仕事の裏側を知ることができた。展示品の取扱いの難しさ、特別展にかける心意気、実施するまでの苦労がうかがえた。
- ・大田区立郷土博物館を誇りに思う。感動した。
- ・もっと大田区の古墳の話を知りたい。もっと定員があってもよかった。



二部クロストークの様子



東京国立博物館  
河野主任研究員

地域産業委員会 令和7年3月6日
産業経済部 資料21番 所管 産業振興課

## 「Meet New Solution in OTA 2025」の開催結果について

### 1 事業概要

- (1) 会 期：令和7年2月7日（金）10時から17時まで
- (2) 会 場：大田区産業プラザPiO
- (3) 主 催：大田区、（公財）大田区産業振興協会
- (4) 後 援：（一社）大田工業連合会、（一社）日本能率協会
- (5) 出展者数：100社・団体 ※今年度新規出展74社・団体

### 2 開催結果

- (1) 来場者数：957名
- (2) 企画・イベント：
  - ①特別ディスカッション「町工場と新時代のものづくり」
  - ②トークイベント「大田区と浜松市のスタートアップを支える者たちの熱い想い」
  - ③大田区町工場×東京理科大「Craftman Story プロジェクト」
  - ④大田区×浜松市ピッチイベント
  - ⑤次世代技術 展示・体験コーナー

### 3 総括

当日は、「脱炭素・エネルギー・環境」「航空・宇宙」「ロボティクス」「モビリティ」等のお困りごとに挑戦するスタートアップが勢ぞろいし、各出展者の斬新なアイデアや取組みを熱くPRした。来場者は、スタートアップやVC関連企業、大手企業等が全国から訪れ、各ブースとも活気にあふれていた。「ベンチャーフレンドリー」や「大田区中小企業新製品・新技術コンクール」等の大田区企業のコーナーでも、普段は接点のない異業種の来場者同士がお互いの話に熱心に耳を傾けており、今までにないビジネスチャンスが期待できる場となった。また、大田区産業振興協会の技術連携相談員のもとへは、ハードウェア系のスタートアップによる加工先の相談が頻繁にあり、スタートアップと区内製造業による新たなビジネスへの手ごたえを感じることができた。

また、浜松市とのコラボ企画として、浜松市企業12社による特設ブースの設置、スズキによる次世代バイクの展示、「大田区×浜松市ピッチイベント」などを行った。コラボ企画を通して、双方の出展企業は次世代のモノづくりへの刺激や、新たな気づきを得る絶好の機会となり、日本有数のものづくりのまちである両地域のさらなる交流によるビジネスチャンス拡大の可能性を感じることができた。また、蒲田羽根つき餃子と浜松餃子の食べ比べ試食も大好評でイベントに花を添えた。

## 4 様子



会場の様子



開会宣言



大田区×浜松市 ピッチイベント



大田区と浜松市のスタートアップ  
支援者によるトークイベント



大田区町工場×東京理科大イベント

「羽根つき餃子」と「浜松餃子」食べ比べ



特別ディスカッション  
「町工場と新時代のものづくり」

次世代技術体験コーナー、おたイチ推しマル  
シェ、出展者交流会

